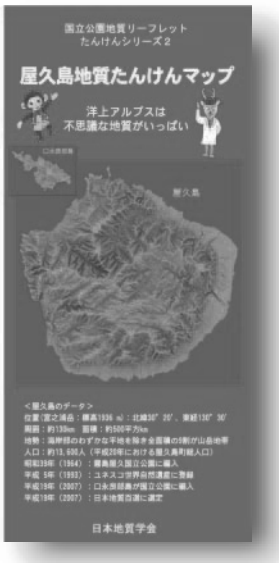
地質学雑誌　第115巻　第4号（通巻1363号）付録　平成21年4月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.12 No.4 April 2009

日本地質学会第116年学術大会（岡山）予告
会期　2009年9月4日（金）～6日（日）

シリーズ第2弾！新発売



国立公園リーフレット　たんけんシリーズ2

屋久島地質たんけんマップ

ー洋上アルプスは不思議がいっぱいー

編　著：日本地質学会地学教育委員会
　　屋久島地学同好会
発　行：日本地質学会
A2版　12折　両面フルカラー印刷

かわいいキッキくんとシカノスケ博士が
屋久島の地質をわかりやすく紹介してくれます。

裏面は、地図で示した観察ポイントごとに
写真やイラスト付きでわかりやすく解説。
ハンディタイプで、野外での観察にも最適です。
教材としても是非ご活用下さい。

会員頒価 300円

※20部以上ご注文の場合は割引あり

シリーズ1
「箱根火山たんけんマップ」も
好評発売中！

購入希望の方は、学会事務局まで．e-mail：main@geosociety.jp　電話：03-5823-1150

日本地質学会第116年学術大会（岡山）予告

「桃太郎と学ぶ地質学」

2009年９月４日（金)～６日（日） 会場：岡山理科大学25号館ほか
共催：日本地球化学会　後援：岡山理科大学ほか（予定）

2009年日本地質学会年会は，「桃太郎と学ぶ地質学」をキャッチフレーズに，岡山理科大学を中心に西日本支部の会員にご協力をいただき開催いたします．例年のとおり一般発表のほか，トピック・セッション，シンポジウム，見学旅行等があります．普及行事としては地質情報展，市民講演会などの催しも企画されています．一般発表は，各専門部会を中心に提案された22件の定番セッションと４件のトピック・セッション，８件のシンポジウムが準備されています．また今年も小・中・高校生徒「地学研究」発表会の展示発表がポスター会場で行われます．

今大会での各種の申込および費用の振込み先と方法は，これまでと同様，クレジットカードによる支払いが可能です．発表関係以外の申込と費用振込の取扱いを（株）日本旅行岡山支店に依頼しました．発表についても昨年同様，web（オンライン）上での申込を受付けます．なお，大会準備がスムーズに運ぶよう，締切日の厳守をお願いいたします．

岡山大会に関する最新情報は，学会のホームページ（http://www.geosociety.jp/）の「2009年岡山大会HP」に掲載されています．

１．日　　程

９月５日（土)～６日（日)：地質情報展
９月４日（金)：一般発表（口頭，ポスター)，表彰式・記念講演会，懇親会，同窓会
９月５日（土)：シンポジウム，一般発表（口頭，ポスター)，ランチョン，夜間小集会，関連普及行事・市民講演会，就職支援プログラム
９月６日（日)：シンポジウム，一般発表（口頭，ポスター)，ランチョン，夜間小集会，関連普及行事・生徒「地学研究」発表会
９月７日（月)～８日（火)：見学旅行

２．会　　場

一般発表，シンポジウム，表彰式・記念講演会，関連普及行事・生徒「地学研究」発表会：岡山理科大学25号館（岡山市北区理大町1-1）
市民講演会：さん太ホール（岡山市北区柳町2-1-1）
地質情報展：岡山市デジタルミュージアム（岡山市北区駅元町15-1，岡山駅西口に隣接）
なお，岡山理科大学の施設位置図及び大学までの公共交通機関は，岡山理科大学のホームページhttp://www.ous.ac.jp/summary/access.htmlを参照して下さい．

＜徒歩の場合＞
JR津山線法界院駅から徒歩約20分．

＜岡電バス利用の場合＞
・岡山駅西口バス乗場から岡山大学経由岡山理科大学正門行（約20分，190円)．
・岡山駅東口バス乗場から自衛隊経由岡山理科大学東門行（約20分，運行予定)．

＜乗用車利用の場合＞
岡山ICから約10分：大学付近の教職員用駐車場を無料解放しますのでご利用下さい．利用時間は８時から20時です．20時以降はレバーが降りて出ることができません．翌日の利用時間帯に出すことができます．

３．学会各賞表彰式・記念講演

日程：９月４日（金）午後
会場：岡山理科大学25号館８階大ホール

４．普及行事

(1) 地質情報展2009おかやま－ワクワク・発見・瀬戸の大地－

日程：９月５日（土)～６日（日）９：00～17：00（入場無料）
会場：岡山市デジタルミュージアム　４階（岡山市北区駅元町15-1，JR岡山駅西口に隣接）
主催：産業技術総合研究所地質調査総合センター，日本地質学会
展示内容：地質調査総合センターが有する日本全国の各種地質情報の中から，特に岡山県に関する様々な研究成果を中心に，展示パネルや映像を使って紹介するとともに，小さなお子さんにも楽しく地学を学んでもらうために体験学習コーナーを用意しています．
問い合わせ先：産業技術総合研究所地質調査総合センター
吉田朋弘・兼子紗知　TEL：029-861-3754 e-mail：gm-kikaku@m.aist.go.jp

(2) 市民講演会「大地から考える地球環境―地質と生物・農業の深い関係―」

日時：９月５日（土）13：30～16：30（入場無料）
会場：さん太ホール（岡山市北区柳町2-1-1，岡山駅から徒歩15分または，路線バス５分「山陽新聞社前」下車）
講演者と講演内容：
波田善夫（岡山理科大学学長)「地質と生き物と人々の生活―ヨーロッパそして岡山の風景―」

身近な岡山の植生や生き物の生態と，地質との関係を，ヨーロッパの例と比較しながら紹介する．地域の農産物やその土地名産の酒類をはぐくむ環境にも言及する．

武田　弘（東京大学名誉教授）「おいしいワインのできる畑の地球環境」

世界の有名なワイン産地のぶどうとその畑の地質・土質・土壌・地形・気候との関係を広い観点で見た結果から発して，地球環境や食の安全問題のとらえ方などに言及する．

座談会では，司会者も含め，地球環境問題や，農産物の安全問題などの最近の課題も含め，地質環境とその上ではぐくまれる植生・農産物，そしてそれに依存して生きる動物や人間との関連，文化，あるべき制度の問題などを大きな視点で論じる．

(3) 小さなEarth Scientistのつどい～第７回　小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．岡山大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします．岡山県内，また中国・四国地方の学校，さらには全国の学校の参加をお待ちしています．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．

なお，参加証とともに，優秀な発表に対しては審査のうえ，「優秀賞」を授与いたします．

下記の要領にて参加校を募集します．

１）日時　　2009年９月６日（日）９：00～15：30

２）場所　　日本地質学会年会ポスター会場（岡山理科大学）

３）後援　　岡山県教育委員会（予定）

４）参加対象

・小，中，高校地学クラブならびに理科クラブ等の活動成果の発表

・小，中，高校の授業における研究成果の発表

・活動，研究内容は地学的なもの（地質や気象などの地球科学・環境科学，天文など）

５）**申込締切　　７月７日（火）**，下記，日本地質学会　地学教育委員会あてお申し込み下さい．

６）発表形式　　ポスター発表（展示パネルは幅90cm×高さ180cm程度）

パネルのほかに標本等を展示される場合には，パネルの前に机を用意します．参加申込書にその旨を記載して下さい．その場合は展示パネルの下側が隠れる事をご了承下さい．発表者は決められた時間（および随時）パネルの前に待機し説明をしていただきます．なお，遠隔地および学校行事等のために児童・生徒が参加できない場合は，発表ポスターのみをお送りいただいても結構です．

発表の具体的な準備については，申込後に各校あてご連絡いたします．

７）参加費　　無料（参加者・引率者とも），開催中の研究者の発表，講演も聴くことができます．

８）派遣依頼　　参加者・引率者については学校長宛，日本地質学会より派遣依頼状を出します．

９）問い合わせ・申込先：参加申込は，別紙書式をFAXして下さい．e-mailでも結構です．

日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６Ｆ

TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156　e-mail：main@geosociety.jp

５．企業・研究機関等関係団体による展示会の出展募集＜申込締切　７月24日（金），現地事務局扱い＞

地質関係機関・関連企業のご活躍を広く地質学会員に紹介していただくため，会期中，企業展示会を開催致します．企業紹介・業務紹介・研究成果・新技術・特許などご自由に展示内容を構成いただけます．奮ってご出展のお申込をいただきますようお願い申し上げます．

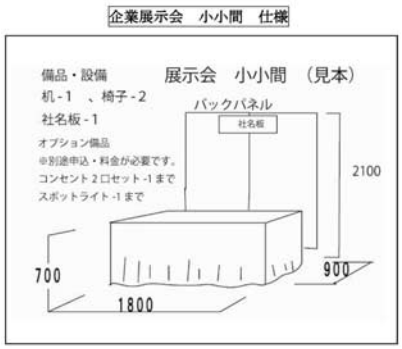
【展示募集概要】

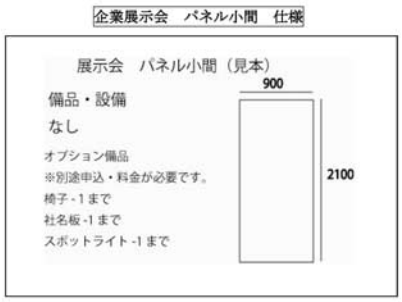
１，開催期間：搬入設営日９月３日（木），開催日９月４日（金）～６日（日），搬出撤収日９月６日（日）※予定

２，開催場所：岡山理科大25号館１Ｆ（ロビー）

３，募集小間数：小小間16，パネル小間20　※複数小間のお申込も可能です．

４，小間仕様見本：





※仕様詳細・オプション料金等につきましては，大会ホームページの「展示募集要項申込書」をダウンロードの上，ご確認下さい．

５，出展料金：小小間　50,000円（消費税別），パネル小間　20,000円（消費税別）

６，**第１次募集締め切り日：６月30日（火）　最終募集締め切り日：７月24日（金）**

【出展申込方法】
大会ホームページの「展示募集要項申込書」をダウンロードいただき，必要事項をご記入の上，下記申込先までe-mailへのPDFファイル添付，あるいはFAXにてお申込下さい．募集要項・申込書が別途必要な場合は，現地事務局までご連絡下さい．送付致します．
【お申込・お問合せ先】
〒665-0022　兵庫県宝塚市野上3-14-5　日本地質学会第116年学術大会　現地事務局（株式会社アカデミック・ブレインズ内）
TEL：0797-24-1333，FAX：0797-24-1334，e-mail：gsj2009@academicbrains.jp　担当：田中
※日本地質学会賛助会員は出展料金が無料となります．別途，現地事務局までご連絡下さい．

6．シンポジウムについて＜演題および原稿締切　オンライン：6月23日（火）17：00，郵送：6月19日（金）必着，行事委員会扱い＞

8件のシンポジウムを開催します．9月5日～6日の2日間，各日4件ずつ行いますが，講演を一般公募しないものがありますので，ご注意下さい（今回は2件で一般公募がありません）．**シンポジウムの講演者には，一般講演の1人1件の制約は及びませんので，別途一般講演を申し込むことができます．また昨年同様，世話人は，会員・非会員を問わず招待講演を依頼することができます．なお，非会員の招待講演者に限り参加登録費は免除となります．**一般公募の採択・不採択は，世話人によって決定されます．講演要旨原稿は，一般発表と同じ要領ですので，（3）ページの7項（5）を参照して原稿の作成をお願いします．やむを得ず郵送で講演要旨を送る場合は，一般発表の申込フォームをご利用下さい．「シンポジウム」と書き添えた上，必要事項を記入し，保証書・同意書とともに6月19日（金）必着で行事委員会宛にお送り下さい．

各シンポジウムの詳細は，（10）ページの「**シンポジウム一覧**」をご参照下さい．

7．一般発表の募集について＜演題および原稿締切　オンライン：6月23日（火）17：00，郵送：6月19日（金）必着，行事委員会扱い＞

9月4日～9月6日の3日間での一般発表を募集します．下記の要領にて口頭，ポスター発表を募集します．できる限りオンラインでの申込にご協力下さい．やむを得ず郵送で申し込む場合は所定の申込書に必要事項を記入の上，返信用（自分宛）の官製ハガキ，保証書・同意書，講演要旨とともに6月19日（金）必着で行事委員会宛にお送り下さい．プログラムの編成が終わり次第，発表セッションや発表日時などをe-mailで通知します（郵送の場合は返信ハガキ）．なお，発表セッションや会場・時間などのプログラム編成につきましては，各セッションの世話人の協力を得て，行事委員会が決定します．

(1) セッションについて

本年会は，9月4日（金）～9月6日（日）の3日間で一般発表を行います．専門部会の提案などにより22件の定番的セッションと，4件のトピックセッションを設けました（p.（11）～（13）表1参照）．

(2) 講演に関する条件

日本地質学会の会員は，口頭発表かポスター発表かのいずれかの方法で，**1人1題に限り講演を行うことができます．**共同発表の場合は上記の条件を講演者（＝筆頭発表者）に適用します．非会員は筆頭発表者になれませんので，必ず6月19日（金）までに入会手続きを行って下さい．入会申込書が届いていない場合は，講演申込は受理されません．

(3) 招待講演について

昨年同様，**トピックセッションにおいても，世話人は会員・非会員を問わずに招待講演を依頼することができます．**招待講演は1セッションにつき，半日あたり1講演に限ります．招待講演についても申込期日までに一般発表と同様にお申し込み下さい（世話人が取りまとめでオンライン入力をすることは可能です）．定番セッションでは招待講演の設定はありません．なお，非会員の招待講演者に限り参加登録費は免除となります．

(4) 講演申込上の注意

1）オンライン申込は大会ホームページ：http://www.geosociety.jp/にアクセスし，オンライン入力のフォームに従って入力して下さい．
2）講演方法については，「口頭」「ポスターセッション」，「どちらでもよい」のいずれかを選択して下さい．ただし，申込締切後の変更はできません．
3）発表題目，発表者氏名について，必ず登録フォームと講演要旨の両方を一致させて下さい．
4）共同発表の場合は全員の姓名を完記して下さい．
5）発表を希望するセッションを第2希望まで選んで下さい．
6）コメント欄について：発表の対象とする地域の記入を要するセッションについてはこの欄に国名・県名等を入力して下さい．また，関係する一連の発表があるときは，その順番希望などもこの欄に入力して下さい．
7）口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS：Windows Vista, Office　Standard 2007）を用意します．パワーポイントを使用する方は，試写室において正常に作動することを事前に確認して下さい．特に，会場に設置するものと異なるバージョンで作成されたファイルは，レイアウトが崩れる事例が報告されていますのでご注意願います．本年は会場の液晶プロジェクタにパソコンの切り替え器（ケーブル形状はD-SUB15ピンを予定）を用意します．Macパソコンをお使いになる方，ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方はご自分でパソコンをご用意ください．パワーポイントを使用しない方は世話人とご相談下さい．なお，**昨年同様35mmスライドプロジェクターの使用はできません．**

(5) 講演要旨原稿の投稿について＜演題および原稿締切　オンライン：6月23日（火）17：00，郵送：6月19日（金）必着，行事委員会扱い＞

例年と同様に講演要旨をAdobe社が策定したPortable Document Format（PDF）のファイルで電子投稿していただきます．一般講演およびシンポジウムの原稿はA4判1枚（p.（17）のフォーマット参照）で，印刷仕上がり0.5ページ分です．1ページに2件分ずつ印刷します．原稿はそのまま版下となり，70%程度に縮小して印刷されます．文字サイズ，字詰めおよび鮮明度には十分配慮し，PDFファイルを作成して下さい．やむを得ず郵送する場合は，オリジナルか，鮮明にコピーした現物を1枚だけ郵送（差し支えなければ折りたたみ可）して下さい．FAXやe-mailでの原稿送付は受け付けません．

8．講演要旨原稿の倫理責任と著作権管理，引用方法，校閲について

(1) 講演要旨原稿の倫理責任と著作権管理

日本地質学会の出版物への投稿原稿に対して，著作者にその倫理性について保証して頂くために「保証書」に，また著作権を日本地質学会に譲渡することを同意する「著作権譲渡同意書」に，それぞれ署名捺印をして提出していただきます．本大会では，電子投稿のため，画面上で「保証書」と「著作権譲渡等同意書」に同意していただいた場合に限り，電子投稿の画面に進むことができるようになっています．郵送の場合は，p.（16）の保証書及び同意書に署名捺印をして，講演要旨と共にお送り下さい．「保証及び著作権譲渡等同意書」が同封されていない講演申込は受け付けられません．

(2) 講演要旨における文献等引用方法

要旨においては引用文献の記載方法は簡略化することが慣習として認められていますが，著者名，発表年，掲載誌名などを明記し，引用文献が特定できるようにして下さい．オンライン入力時の画面文献欄への入力の有無に関わらず，要旨原稿には引用文献を明記して下さい．

(3) 講演要旨の校閲

行事委員会は，申し込まれた講演について，会則第４条に示されている日本地質学会の目的ならびに日本地質学会倫理綱領に反していないかということについてのみ校閲を行います．校閲の結果，いずれかの条項に反していると判断された場合には，行事委員会は講演内容の修正を求めるか，あるいは講演申込を受理しないことがあります．行事委員会の措置に同意できない場合には，当該講演申込者は法務委員会（東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル　日本地質学会事務局気付）に異議を申し立てることができます．法務委員会は直ちに審理し，結論を行事委員会ならびに異議申立者に伝えることになります．

この受理方法は，招待講演者にも適用されます．異議申立てに関する詳細は大会HPに掲載されます．

9．発表要領（シンポジウムについてはp.（３）６項を参照）

(1) 口頭発表

1）講演時間は１題あたり15分（持込パソコンへの切替時間および討論時間３分を含む）です．講演者は，討論など持ち時間を十分考慮し余裕を持って講演を行って下さい．なお，パソコンを持ち込む方は直前の講演のうちにセットして下さい．

2）各会場には，液晶プロジェクター，Windowsパソコンを各１台とスクリーン１幕を設置します（７項（4）−7）を参照）．

(2) ポスター発表

1）１題について１日間掲示できます．各日とも発表者はコアタイム（開催日によって異なる）にその場に立会い，説明をするものとします．設置，撤去時間等については，本誌７月号に掲載されるプログラムをご覧下さい．ボード面積は１題あたり，縦180cm，横90cmです．

2）発表番号・発表名・発表者名をポスターのタイトルとして明記して下さい．

3）掲示に必要な画鋲等は，発表者がご持参下さい．

4）ポスター会場では，コンピューターによる発表や演示等も許可しますが，使用する機器については発表者がご準備下さい．また，電源は確保できませんので，予備のバッテリーをご用意下さい．講演申込の際に機器使用の有無や小机の必要性をコメント欄に記入し，事前に世話人にご相談下さい．

5）運営細則第11条（6）項により，優れたポスター発表に対して「日本地質学会優秀ポスター賞」を授与いたします．具体的な事柄については，プログラムに掲載しますのでご注目下さい．

(3) 発表者の変更

あらかじめ連記されている共同発表者内での変更は認めますが，必ず事前に行事委員会へ連絡して下さい．この場合も筆頭講演者については７項の（2）の条件が適用されます．

(4) 口頭発表の座長の依頼について

セッションによっては各会場の座長を参会者にお願いすることになります．あらかじめ座長依頼を差し上げることになりますが，その際にはぜひともお引き受けいただきたく，ご協力をお願いします．

10．ランチョン申込要領＜申込締切　６月23日（火）必着，行事委員会扱い＞

９月５日（土），６日（日）にランチョンの開催を希望する方は，（1）集会の名称，（2）世話人氏名，（3）集会内容等，をハガキに明記して（e-mailも可）行事委員会（東京）宛に申し込んで下さい．申込締切は６月23日（火）です．なお，世話人の方は，終了後集会の内容をニュース誌の大会記事用原稿としてご投稿下さい（800字以内，原稿締切：９月末）．

11．夜間小集会の申込要領＜申込締切　６月23日（火）必着，行事委員会扱い＞

９月５日（土）は18：00〜20：00，６日（日）は17：30〜19：00（予定）です．夜間小集会の開催を希望する方は，（1）集会の名称，（2）世話人氏名，（3）集会内容（50字以内），（4）参加予定人数，（5）OHP・液晶プロジェクターの要・不要，（6）その他特記すべきこと，をハガキに明記して（e-mailも可），行事委員会（東京）宛に申し込んで下さい．申込締切は６月23日（火）です．なお，世話人の方は，終了後集会の内容をニュース誌の大会記事用原稿としてご投稿下さい（800字以内，原稿締切：９月末）．

12．各種申込とお支払について

(1) 申込方法

オンラインによる参加登録申込等を受付けます．申込は株式会社日本旅行岡山支店が窓口となります．大会参加登録ホームページ（HP）又はp.（22）に掲載の大会申込用紙にてお申し込み下さい．参加登録・見学旅行・懇親会・講演要旨集追加注文・見学旅行案内書・お弁当及び割引航空券・宿泊を同時に申込可能です．

(a) **大会登録専用HP（オンライン）による申込**：申込フォームに必要事項を記入して送信．

(b) **FAX（郵送）による申込**：申込用紙に必要事項を記入の上，**日本旅行（086-223-2259）**宛FAXにて送信．

郵送先：〒700-0023　岡山市北区駅前町２丁目１番７号　株式会社日本旅行　岡山支店　日本地質学会岡山大会　受付担当デスク

(a) 大会登録専用HP（オンライン）による申込の場合

1）大会HPから「参加登録画面」，へアクセスして下さい．＜http://apollon.nta.co.jp/chishitsu/＞

2）画面左のメニュー「参加登録」をクリックして下さい．初めてのご利用の際には個人情報の登録が必要となります．

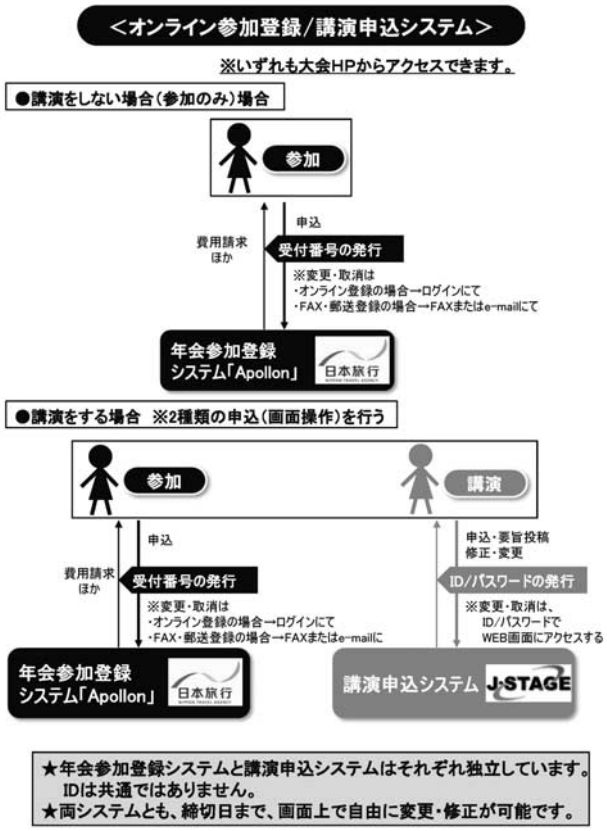
3）個人情報の登録後，そのまま参加登録を行うことができます．また参加登録後，他の予約を行う場合は，「続けて同伴者等の参加登録を行う」をお選び頂けば続けて他の予約をすることができます．

4）申込み完了後，「**予約確認メール**」が登録のメールアドレスへ配信されますので内容を必ずご確認下さい．

5）「**お支払い**」**画面⇒**「**請求書の表示**」をクリックし，請求書をご発行いただいたのち，入金期日を確認の上，各金融機関よりお振込み下さい．また，各種クレジットカードもご利用頂けます．自動メール等で請求の連絡が配信されるわけではありませんので，ご注意下さい．

！注意！　請求書は申込画面より各自で発行・確認し，入金を行って下さい．

6）入金期日後，お支払いの確認が取れている方へ参加証・予約確認書（兼引換券）を順次発送致します．大会開催１週間前には参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します．お支払いの確認が取れていない方へはご送付できませんので，皆様の入金期日厳守を何卒よろしくお願い致します．



(b) FAX（郵送）による申込の場合

1）p.（22）の「参加申込書」に必要事項を記入の上，株式会社日本旅行岡山支店まで**FAXまたは郵送にて**お申込み下さい．恐縮ではございますが確実に行うため,書面またはインターネットにての受付とさせていただきますので，お電話によるお申し込み，変更などの受け付けはご遠慮下さい．また，郵送によるお申込みの際は，必ず「参加申込書」のコピーをお取りいただき保管下さい．

2）申込受付後，日本旅行より「**受付確認書**」をe-mail又はFAXにてご連絡申し上げます．その際，「登録番号」が必ず記載されております．こちらの「**登録番号**」はその後の問合せ，変更，取消等に必要となりますので，恐れ入りますが失念されぬようお願い致します．

3）お支払いは，銀行振込・クレジットカード決済をお選び頂けます．申込後順次，参加者の皆様へ「**予約内容確認・ご請求書**」を送付致します．銀行振込ご希望の方は，請求書に記載されている振込口座へ指定期日までにお振込み下さい．クレジットカード決済希望の方は，登録申込の際必ずクレジット番号などの必要事項をご記入下さい．振込期日に合わせてご指定のクレジットカードに課金致します．カード会社よりお客様に送付される明細には学会名ではなく「株式会社日本旅行」と表示されます．

4）入金期日後，お支払いの確認が取れている方へ参加証・予約確認書（兼引換券）を順次発送致します．大会開催１週間前には参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します．お支払いの確認が取れていない方へはご送付できませんので，皆様の入金期日厳守を何卒よろしくお願い致します．

(2) 申込締切

大会登録専用HP（オンライン）による申込の場合：８月17日（月）18：00
FAX（郵送）による申込の場合：８月10日（月）必着

(3) 取消に関わる返金

所定の取消料の他に返金振込料を差し引いた額を大会終了後お返し致します．クレジットカードにてお支払の場合は，ご利用頂いたカードへご返金となります．

(4) 申込後の変更・取消

(a) 大会登録専用HP（オンライン）による申込の場合：参加登録画面左のメニュー「**予約確認・変更**」から予約の変更・取消が出来ます．変更・取消完了後，「確認メール」が登録のメールアドレスへ配信されますので内容を必ずご確認下さい．

(b) FAX・郵送による申込の場合：申込後に変更・取消が生じた場合は，日本旅行岡山支店受付担当デスク宛FAX又はe-mailにてご連絡下さい．その際申込受付時に案内される「**登録番号**」及び「**大会名**」「**氏名**」を必ず明記下さい．

13. 参加登録申込および参加登録費（講演要旨集付き）について＜申込締切　オンライン：８月17日（月）18：00，FAX（郵送）：８月10日（月）必着（株）日本旅行扱い＞

当日会場受付での混雑緩和のため，事前に参加登録申込をお願いします．大会参加登録およびそれに伴う参加費は，全ての参加者（見学旅行のみの場合も）に必要な基本的なお申込です．ただし，会員が同伴する非会員の配偶者ならびに子供については必要ありません．

申込は，Web上もしくはp.（22）に掲載の申込用紙で一括申込できます．申込は，「12．各種申込とお支払について」を参照し，申し込んで下さい．

○**参加登録費**（**講演要旨集付です．**講演要旨集が不要の場合でも割引はありません．なお，準会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生の参加費には，講演要旨集は含まれません．ご希望の方は，別途ご購入下さい）

	事前申込	当日払い	
正会員	7,500円	9,500円	講演要旨集付
院生割引会費適用正会員	4,500円	6,500円	講演要旨集付
準会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生	500円	500円	
非会員（一般・院生）	12,000円	15,000円	講演要旨集付

＊なお，大会に参加できなかった場合は，大会後に講演要旨集をお送りします．参加登録費用の返却はいたしませんのでご了承下さい．
＊共催・協賛団体に会員として所属する方の参加登録費は正会員と同額になります．

14. 講演要旨集のみの予約頒布について＜申込締切　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着（株）日本旅行扱い＞

大会参加費には講演要旨集の代金が含まれていますので，大会に参加される場合は別途購入の必要はありません（ただし，準会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生の参加費には，講演要旨集は含まれません．ご希望の方は，別途ご購入下さい）．大会に参加されない方ならびに参加する方が複数の講演要旨集を購入される場合の予約頒布です．申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，申し込んで下さい．要旨集の受け取り方法には，(1) 大会後に送付，(2) 会場で受取り，があります．(1) の場合は，別途送料が必要です．(2) の場合は，大会受付にて確認書の提示が必要となりますので，必ずご持参下さい．残部があれば大会当日あるいは大会後にも頒布します．売り切れの場合はご容赦下さい．

	事前予約（/冊）	当日販売（/冊）
会　員	3,000円	4,000円
非会員	4,000円	5,500円

＊送付の場合は以下の送料を付加して下さい．
送料：1冊　500円，2冊　600円，3冊　800円，4冊　1,000円，5冊　1,200円

15. 見学旅行参加申込要領＜申込締切　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着（株）日本旅行扱い＞

総計9コースの見学旅行（A～I班）を計画しました（p.(18)－(19) 参照）．見学旅行の参加申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，申し込んで下さい．参加希望の方は，Web申込手続き手順に従って参加申込を行って下さい．FAXでのお申込は，p.(22) の申込用紙を用い，日本旅行宛に大会参加申込と一緒に申し込んで下さい．見学旅行だけに参加する場合も大会参加登録ならびに参加登録費は必要です．見学旅行と大会参加登録の申込を合わせて行って下さい．申込締切後，日本旅行から料金を請求いたします．

(1) 申込に際し，希望の班が満員の場合に備え，①キャンセル待ち，②第2希望の班の指定，③他班希望なくキャンセル待ちせず，のいずれかを必ず指定して下さい．
(2) 参加申込人数が各見学コースの実施最小人数に達しなかった場合，見学旅行を中止することがありますので，早めに申し込んで下さい．
(3) 非会員の方は，申込締切時点で定員に余裕があれば参加可能となりますので，あらかじめ申し込んでおいて下さい．
(4) 日本地質学会ならびに同岡山大会実行委員会は見学旅行参加者に対し，見学旅行中に発生する病気，事故，傷害，死亡等に対する責任・補償を一切負いません．これらについては，見学旅行費用に含まれる保険（国内旅行傷害保険団体型）の範囲でのみまかなわれます．
(5) 子供同伴など特別な事情がある場合は，申込前に**現地事務局**へあらかじめ問い合わせて下さい．
(6) 参加取消しの場合は必ずFAX又はe-mailにて日本旅行宛連絡して下さい．その際，大会名・氏名・登録番号・内容を必ずご記入下さい．費用送金の如何にかかわらず，申込受付後は取消料が発生します．申込受付締切後出発の**3日前までは参加費用の50%（出発の2日前以降の場合は全額）**を取消料としていただきます．万一，費用の振込み後に取消しされた場合は，所定の取消料，返金振込料を除いた金額をお返しすることになりますのでご了承下さい．カードにて支払をされた方へは，カードに返金いたします．
(7) 集合・解散の場所，時刻などを変更することもありますので，大会期間中は掲示などの案内に注意して下さい．
(8) 見学旅行の解説は案内書を使って行います．参加申込時に「16．見学旅行案内書の予約頒布について」を参照し，あらかじめ予約購入して下さい．

16. 見学旅行案内書の予約頒布について＜申込締切　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着（株）日本旅行扱い＞

大会に参加されない方でもご購入いただけます．申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，申し込んで下さい．なお，見学旅行案内書は，地質学雑誌の補遺版（CD）として，12月号刊行時に会員配布されます．

案内書の受け取り方法には，(1) 大会後に送付，(2) 会場で受取り，があります．(1) の場合は，別途送料が必要です．(2) の場合は，大会受付にて確認書の提示が必要となりますので，必ずご持参下さい．見学旅行参加者はできるだけ会期中に会場の受付にて受取って下さい．

残部があれば，大会当日あるいは大会後にも頒布します．売り切れの場合はご容赦下さい．

＊**価格：2,800円/冊**（送付の場合は下記の送料を付加して下さい．）
送料：1冊　500円，2冊　600円，3冊　800円，4冊　1,000円，5冊　1,200円

17. 懇親会参加申込要領＜申込締切　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着（株）日本旅行扱い＞

懇親会は，9月4日（金）表彰式・記念講演会終了後，岡山理科大学食堂において行います（18：00頃～19：30）．会費は**正会員5,000円，名誉会員・院生割引会費適用正会員・準会員および会員の家族は2,000円**です．非会員の会費は正会員に準じます．準備の都合上，前金制の予約参加とします．たくさんの方々，特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております．余裕があれば当日参加も可能ですが，予定数に達し次第〆切ります．**当日会費は1,000円高くなります．**

予約申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，大会参加申込と合わせて8月17日（月）までにお申し込み下さい．当日は参加証を受付にご持参下さい．参加取り消しの場合でも会費の返却はいたしませんのでご了承下さい．

18. お弁当予約販売＜申込締切　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着（株）日本旅行扱い＞

9月4日（金）～9月6日（日）には昼食用の弁当販売をいたします（**1個800円，お茶付き**）．「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，大会参加申込と合わせて，8月17日（月）までにお申し込み下さい．お弁当利用日より9日前～前日までは50%，当日は100%の取消料がかかります．なお，9月4日（金），5日（土）は，大学食堂も営業しています．学内コンビニエンスストア（22号館1階：会場から徒歩3分）は毎日利用できます．大学周辺には飲食店等はありませんので，上記，お弁当もしくは学内施設をご利用下さい．

19. 岡山市内での宿泊・割引航空券の斡旋＜申込締切　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着（株）日本旅行扱い＞

岡山市内での宿泊，割引航空券の斡旋になります．詳細はp.（20）－（21）案内をご覧になり，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，お申し込み下さい．

20. 同窓会＜代表者申込締切　7月24日（金），現地事務局扱い＞

懇親会（9/4夜）終了後に各大学同窓会などを希望する方（各大学代表者）は，現地事務局までお問合せ下さい．希望者があれば会場を準備します．

21. 書籍・販売ブースご利用の募集＜申込締切　7月24日（金），現地事務局扱い＞

地質学関連の書籍・その他物品の販売にご利用いただくべく会期中ブースを設置致します．奮ってご出展のお申込をいただきますようお願い申し上げます．※見本展示のみでのご利用も可能です．

【書籍・販売ブース出展概要】

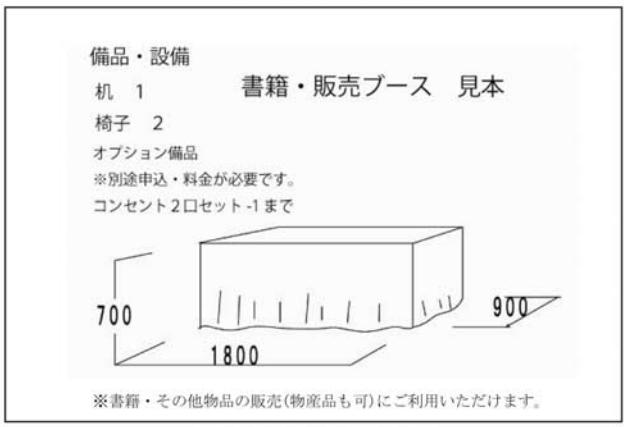
1，設置期間：9月4日（金）～9月6日（日）

2，設置場所：岡山理科大学25号館7F（受付横）

3，募集ブース数：12ブース　※複数ブースのお申込も可能です．

4，ブース仕様見本

書籍・販売ブース仕様



※仕様詳細・オプション料金等につきましては，大会ホームページの「展示募集要項申込書」をダウンロードの上，ご確認下さい．

5，出展料金：10,000円（消費税別）

6，**第1次募集締め切り日：6月30日（火），最終締め切り日：7月24日（金）**

【出展申込方法】

大会ホームページの「展示募集要項申込書」をダウンロードいただき，必要事項をご記入の上，下記申込先までe-mailへのPDFファイル添付，あるいはFAXにてお申込下さい．募集要項・申込書が別途必要な場合は，現地事務局までご連絡下さい．送付致します．

【お申込・お問合せ先】

〒665-0022　兵庫県宝塚市野上3-14-5　日本地質学会第116年学術大会　現地事務局（株式会社アカデミック・ブレインズ内）

TEL：0797-24-1333，FAX：0797-24-1334，e-mail：gsj2009@academicbrains.jp　担当：田中

22. 講演要旨集・見学旅行案内書，広告協賛の募集＜申込締切　6月30日（火），現地事務局扱い＞

地質関係機関・関連企業のご活躍を広く地質学会員に広報いただくべく，大会開催にあわせ発行されます講演要旨集・見学旅行案内書

において，広告協賛を募集致します．企業紹介・業務紹介・研究成果・新技術・特許などの広報活動のご一環として，奮ってお申込をいただきますようお願い申し上げます．

【広告協賛料金】※詳細は大会ホームページの「広告協賛募集要項申込書」をダウンロードの上，ご確認下さい．

講演要旨集：**1頁　40,000円　1/2頁　20,000円　1/4頁　10,000円**（すべて消費税別）

見学旅行案内書：**1頁　20,000円　1/2頁　10,000円　1/4頁　5,000円**（すべて消費税別）

※共に完全版下，データまたフィルムでの入稿をお願い致します．

【出稿申込方法】

大会ホームページの「広告協賛募集要項申込書」をダウンロードいただき必要事項をご記入の上，下記申込先までe-mailへのPDF添付，あるいはFAXにてお申込下さい．

【お申込・お問合せ先】

〒665-0022　兵庫県宝塚市野上3-14-5　日本地質学会第116年学術大会　現地事務局（株式会社アカデミック・ブレインズ内）

TEL：0797-24-1333，FAX：0797-24-1334，e-mail：gsj2009@academicbrains.jp　担当：田中

23. 一時保育のご案内＜利用申込締切　8月14日（金），現地事務局扱い＞

9月4日から6日の学会開催期間中，6ヶ月以上12歳までのお子様同伴の参加者を対象に利用可能な保育ルームを設定しております．

【施設名】ドレミの街・ポストメイト保育園（社）全国ベビシッター協会正会員

岡山市駅前町1-8-5　Tel 086-234-4115　Fax 086-234-4116

URL http://www.postmate.co.jp/sisetuannai.html0

【利用可能時間】8：15-18：00

【利用料・利用方法等】詳細は　http://www.rins.ous.ac.jp/gsj09/nursery.htmをご覧になるか

または兵藤（info09@rins.ous.ac.jp）までお問合せ下さい．

【アクセス】JR岡山駅東口より150m（徒歩3分）ドレミの街ビル7階

【利用問合せ・申込】

一時保育のご利用申込は**現地事務局まで**お願いいたします．なお受入準備の都合等もございますので，**8月14日（金）**までにお申込下さい．申込みは，http://www.rins.ous.ac.jp/gsj09/nursery.htmの案内・利用規程等をご覧の上，Fax又は郵送にて利用同意書/申込書にて提出して下さい．

〒665-0022　兵庫県宝塚市野上3-14-5　日本地質学会　第116年学術大会　現地事務局（株式会社アカデミック・ブレインズ内）

TEL：0797-24-1333，FAX：0797-24-1334，e-mail：gsj2009@academicbrains.jp　担当：田中

24. 実行委員会組織

委員長：板谷徹丸（TEL：086-256-9722, itaya@rins.ous.ac.jp）

事務局長：鈴木茂之（TEL：086-251-7882, zysuzuk@cc.okayama-u.ac.jp）

同補佐：加藤敬史（TEL：086-440-1152，tkato@sci.kusa.ac.jp）

総務：西戸裕嗣（TEL：086-256-9722, nishido@rins.ous.ac.jp）

会計：兵藤博信（TEL：086-256-9724，hhyodo@rins.ous.ac.jp）

見学旅行：鈴木茂之（TEL：086-251-7882, zysuzuk@cc.okayama-u.ac.jp），辻森　樹（TEL：0858-43-3772，tatsukix@misasa.okayama-u.ac.jp）

渉外：能美洋介（TEL：086-256-9605, y_noumi@big.ous.ac.jp）

普及・企画（市民講演会）：石垣　忍（TEL：086-224-4311，isgk@hayashibaramuseum.jp），野瀬重人（TEL：086-256-9662，nose@dap.ous.ac.jp），能美洋介（TEL：086-256-9605，y_noumi@big.ous.ac.jp）

会場・展示会場・機器・懇親会：兵藤博信（TEL：086-256-9724，hhyodo@rins.ous.ac.jp），現地事務局（（株）アカデミック・ブレインズ（内））担当：田中（TEL：0797-24-1333, FAX：0797-24-1334, e-mail：gsj2009@academicbrains.jp）

保育室：兵藤博信（TEL：086-256-9724，info09@rins.ous.ac.jp），現地事務局（（株）アカデミック・ブレインズ（内））担当：田中（TEL：0797-24-1333, FAX：0797-24-1334, e-mail：gsj2009@academicbrains.jp）

宿泊・交通：（株）日本旅行岡山支店　日本地質学会岡山大会　受付デスク（菅谷）（TEL：086-225-9283，FAX：086-223-2031，e-mail：okayama_office@nta.co.jp）

実行委員会問合せ用メールアドレス　info09@rins.ous.ac.jp

25. 申込先と締切日＜締切日厳守＞

(1) 行事委員会（東京）に申し込むもの

1）一般講演・講演要旨原稿提出　オンライン：6月23日（火）17：00，郵送：6月19日（金）必着

2）ランチョン・夜間小集会　6月23日（火）

(2) 第116年学術大会現地事務局に申し込むもの

1）企業・研究機関等関係団体による展示会の出展募集

1次締切　6月30日（火）18：00　最終締切　7月24日（金）18：00

2）同窓会の申込　7月24日（金）18：00

3）書籍・販売ブースご利用の募集

1次締切　6月30日（火）18：00　最終締切　7月24日（金）18：00

4）講演要旨集・見学旅行案内書，広告協賛の募集 6月30日（火）18：00

5）一時保育の利用申込　8月14日（金）18：00

(3) 地学教育委員会（東京）に申し込むもの

1）小さなEarth Scientistのつどい　7月7日（火）

(4) 日本旅行（株）岡山支店に申し込むもの（web申込・申込書を郵送またはFAX）

1）見学旅行・見学旅行案内書　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着
2）宿泊・交通　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着
3）大会参加（参加登録費）オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着
4）追加講演要旨集・見学旅行案内書頒布（大会に参加しない方および複数購入用）オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着
5）懇親会・弁当　オンライン：8月17日（月）18：00，FAX（郵送）：8月10日（月）必着

連絡先一覧

○日本地質学会行事委員会/地学教育委員会

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
TEL　03-5823-1150，FAX　03-5823-1156
E-mail：main@geosociety.jp

日本地質学会行事委員会（2009.4.15現在）

委員長	斎藤　眞（担当理事）	
委　員	吉川敏之（地域地質部会）	大坪　誠（構造地質部会）
	岡田　誠（層序部会）	片山郁夫（岩石部会）
	北村晃寿（古生物部会）	内山　高（第四紀地質部会）
	小松原純子（堆積地質部会）	片山　肇（海洋地質部会）
	上野将司（応用地質部会）	石塚吉浩（火山部会）
	斎藤文紀（現行地質過程部会）	大久保　進（石油，石炭関係）
	坂本正徳（情報地質部会）	中井　均（地学教育関係）
	田村嘉之（環境地質部会）	

○日本地質学会第116年学術大会　現地事務局

（株式会社アカデミック・ブレインズ内）担当：田中
〒665-0022　兵庫県宝塚市野上3-14-5
TEL：0797-24-1333，FAX：0797-24-1334
e-mail：gsj2009@academicbrains.jp

○株式会社日本旅行　岡山支店

日本地質学会岡山大会　受付担当デスク　担当：菅谷（すがや）
TEL　086-225-9283，FAX　086-223-2259
e-mail：okayama_office@nta.co.jp
営業時間：（月～金）9：30～17：30
（営業時間終了以降のお申込・変更・取消は翌日扱いとなります）
変更・取消のご連絡はFAX又はe-mailにてご連絡下さい．
お電話でのご連絡はお受け致しかねますので，ご協力よろしくお願い致します．

シンポジウム一覧

・下記８件のシンポジウムを開催します．９月５日～６日の２日間，各日４件ずつ行います．
・講演を一般公募しないものがありますので，ご注意下さい（今回は２件で一般公募がありません）．
・シンポジウムの講演者には，一般講演の１人１件の制約は及びませんので，別途一般講演を申し込むことができます．

【シンポジウム：８件】

１）「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１と２の成果（総括）

Preliminary result of Nankai trough seismogenic zone experiment stage 1 and 2（Summary）

木下正高（JAMSTEC）・芦　寿一郎（東京大）・木村　学（東京大）・斉藤実篤（JAMSTEC）・山口飛鳥（JAMSTEC）・氏家恒太郎（JAMSTEC）・坂口有人*（JAMSTEC；arito@jamstec.go.jp）

統合国際深海掘削（IODP）のもと，地球深部探査船「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画が熊野灘沖において2007-2008年にステージ１が実施され，ステージ２も2009年春から夏にかけて計画されている．1944年東南海地震想定破壊域に発達する分岐断層，付加体先端部のプレート境界断層，沈み込みインプット，熊野海盆における掘削同時検層およびコア採取を通じて付加体-地震発生帯システムの理解を目指す．シンポジウムでは航海の報告と最新の研究成果の紹介と議論を行っていく．特にステージ２終了直後という絶好のタイミングで開催されるので，船上の熱気と勢いをそのまま持ち込みたい．なお本シンポジウムに関連して，地震発生深度で形成された断層岩（ウルトラカタクレーサイト，シュードタキライト）が露出する四万十付加体牟岐メランジュでの見学旅行案内も実施する．（一般公募なし・関連の巡検コースあり）

２）中国地方における新生界の諸問題：新たな地平をめざして

The Cenozoic in the Chugoku District, SW Japan : Geology, geochronology,paleontology and tectonics

沢田順弘*（島根大；sawada@riko.shimane-u.ac.jp）・酒井哲弥（九州大）・入月俊明（島根大）・尾崎正紀（産総研）・松原尚志（兵庫県立人と自然の博）

中国地方の堆積岩や火山岩類を中心とした第三系は瀬戸内海沿岸域，中国山地脊梁地域，および山陰海岸沿いに分布する．これらを対象とした研究の中で，この20数年間に既存の考えを覆す新知見が幾つか報告された．その中でも重要なものは年代学的な問題である．例えば，瀬戸内海沿岸域における神戸層群に代表されるもので，1990年代以前には中新統とされていた地層の多くが始新～漸新統に変更されたことや，山陰地方における下部中新統の標準層序とされてきた「波多層」とその相当層が中部中新統とされたことである．1983年，Otofuji and Matsudaによる島根県下における第三系を対象としたFT年代と古地磁気学からの西南日本の回転運動と日本海の拡大の提案は画期的なものであった．それから25年以上経過し，時代は地質学を基礎とした新たなテクトニクスの提案を要求している．本シンポジウムでは中国地方における第三系の年代学，古生物学，堆積学，火山学，古地磁気学からの成果を総合化し，テクトニクス的背景を議論する．（一般公募あり）

３）高Mg安山岩とアダカイト

Origin of high Mg andesites and adakites

巽　好幸*（JAMSTEC;tsumi@jamstec.go.jp）・田村芳彦（JAMSTEC）

Mg安山岩，アダカイトマグマの発生には，通常の沈み込み帯に比べて高温のプレート・マントルウェッジの存在が必要である可能性が高く，このテクトニックな条件は，初期地球のそれと類似する．従って，これらのマグマの成因とその発生のテクトニックな背景を理解することは，大陸地殻の起源を探る上で重要な束縛条件を与えると考えられる．（一般公募あり・関連の巡検コースあり）

４）日本列島構造発達史

Geotectonic subdivision and evolution of the Japanese Islands: A reappraisal

磯﨑行雄*（東京大；isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・丸山茂徳（東工大）

古太平洋の誕生に伴う大西洋型大陸縁の時代それに続く太平洋型大陸縁の時代についてそれぞれのテクトニクスに関する新知見と新たな解釈を中心にシンポジウムを企画いたします．（一般公募あり・関連の巡検コースあり）

５）坂野昇平追悼シンポジウム

A special symposium to honor Shouhei Banno

平島崇男*（京都大；hirajima@kueps.kyoto-u.ac.jp）・榎並正樹（名古屋大）

坂野昇平氏は，変成岩岩石学，地質学，地球化学などの広い分野で，数々の革新的な研究成果を発表されました．彼が1960年代に開始された熱力学を岩石学に導入する試みは，多成分多相系の熱力学と固溶体の統計力学を融合させることにより，世界に先駆けての地質温度圧力計の提案として結実し，21世紀にも通用する近代岩石学の基礎となりました．また，共同研究者たちと1970年代前半に開始したX線プローブマイクロアナライザーを駆使した相律論岩石学の展開は，日本の三波川帯，神居古潭帯，領家帯，黒瀬川帯，青海蓮華帯やフランシスカン帯，中国蘇魯超高圧変成帯など世界各地の変成帯の温度圧力史の定量的記述を可能にし，これによりプレート収束域の地下深部物理化学過程を詳細に理解できるようになりました．これらの成果は，20世紀後半の地球科学の革命であったプレートテクトニクスの展開に重要な役割を果たしました．彼を追悼するシンポジウムを企画いたします．（一般公募あり）

６）都城秋穂追悼シンポジウム

A special symposium to honor Akiho Miyashiro

丸山茂徳*（東工大；smaruyama@geo.titech.ac.jp）・磯﨑行雄（東京大）

都城秋穂氏は日本の地域地質学に根ざし，そこから世界に輸出できる新しい概念を次々と生み出してきた巨人でした．アメリカに移られてからも，海洋底玄武岩の成因，熱水変成作用の特徴，中央海嶺の岩石学的構造など地球規模の問題へと研究対象を広げられ，どの分野にも新しい世界を切り開いて見せ，我々の理解を深めてくれました．彼を追悼するシンポジウムを企画いたします．（一般公募あり．関連の巡検コースあり）

７）３次元地質モデルの構築手法と利活用

Construction technique and usage of three dimensional geologic model

升本眞二（大阪市大）・木村克己*（産総研；k.kimura@aist.go.jp）・根本達也（大阪市大）・古宇田亮一（産総研）

地質情報を従来の地質図レベルから３次元的な数値モデルとして表現することは，地質情報の高精度化だけでなく，地震動特性や地下水流動，地すべりのリスク評価，各種地球科学・応用科学情報との重ね合わせにおいて不可欠な研究課題である．しかし，西欧諸国の３次元モデル化に対する精力的な取り組みに比べると，我が国でのそれは限定的といわざるを得ない．本シンポジウムでは，３次元地質モデル化の研究推進とその利活用の普及に寄与することを目指して，３次元モデルの構築手法と具体的な利活用の事例を中心に，最新の研究内容の発表と意見交換を行いたい．（一般公募なし．ただし関連テーマでの一般発表希望の場合は，「情報地質」セッションにてお願いする）

８）科学を文化に－学校教育・地学分野のこれから－

Science for Public: Future of Earth Science Education

藤林紀枝*（新潟大；fujib@ed.niigata-u.ac.jp）・芝川明義（府立花園高）・三次徳二（大分大）・矢島道子（地質情報・活用機構）・七山　太（産総研）

小中学校の来年度入学者から実施される新学習指導要領下での理科の学習指導（高等学校は24年度入学者から実施）では，自然体験・科学的体験，科学技術教育，環境保全教育，言語活動が重視されるようになります．また，理科の授業時間数が大幅に増加して学習内容が充実されます．地学分野としての文系，理系両生徒に対する学問の動機付け，自然体験型の実習あるいはアナログ実験の方法，博物館等との連携，また履修指導はどうなるかなどについて議論したいと思います．また大学では，いわゆる「ゆとり教育」の世代の学生さんたちが教師になってから困らないよう手当てする必要があります．これらの課題について，履修指導，授業実践などの立場から話題提供していただき，討論する予定です．（一般公募あり）

セッション一覧

・セッションテーマ，（提案部会名）（地域名等特記事項），世話人（＊印責任者），趣旨の順に掲載．
・特に断りのないセッションは口頭とポスターの両方を募集します．
・提案部会に関わりなく，会員はいずれのセッションにも応募できます．ただし，応募は口頭かポスターのいずれか１件に限ります．
・「地域名必要」の記載があるセッションは，申込書に研究対象の地域名を記入してください．
・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコンを用意します．昨年同様スライドプロジェクターの使用はできません．本年は会場の液晶プロジェクターにパソコンの切り替え器（ケーブル形状はD-SUB15ピンを予定）を用意します．Macパソコンをお使いになる方，ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方はご自分でパソコンをご用意ください．パワーポイントを使用しない方は世話人とご相談下さい．

【トピックセッション：４件】

１．希ガス年代測定－地質科学への貢献－（日本地球化学会共催）

兵藤博信*（岡山理科大；hhyodo@rins.ous.ac.jp）・郷津知太郎（蒜山地質年代研）

放射壊変反応を利用した年代測定法を初めて提唱したのは100年前のラザフォードであった．ウランの壊変に伴うα粒子（He）がウラン鉱物に蓄積すると考えた．その手法は当時及びその後長く有効ではなかったが，最近，（U-Th）/He法として若い地質体に適用されつつある．希ガス用質量分析計の開発を待ってK-Ar（Ar-Ar）法，U-Kr（Kr-Kr）法，U-Xe（Xe-Xe）法，3H-3He法，39Ar法，81Kr法など希ガス同位体を用いた年代測定法が開発され地球惑星科学に適用されてきた．これらの手法がもっと有効に地質科学分野に貢献できるためにはどうすれば良いかを検討する機会を用いたいと考え，トピックセッションを企画する．

２．ジュラ系＋（読み方：ジュラケイプラス）

松岡　篤*（新潟大；matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・堀　利栄（愛媛大）・小松俊文（熊本大）・近藤康生（高知大）・尾上哲治（鹿児島大）・石田直人（熊本大）

2002年の新潟大会プレシンポジウム以降，毎年開催しているトピックセッション「ジュラ系＋」の成果を踏まえ，ジュラ系および隣接する地質系統の研究に関する到達点を共有するとともに，わが国がジュラ系研究の拠点となることを目指す．ジュラ系の各階のGSSPも次々に決定され，世界各地ではジュラ系の研究が活発におこなわれている．国際ジュラ系小委員会の執行部メンバーも一新され，2010年には中国で第８回国際ジュラ系会議が開催される．このような国際的な動きに対して，アジアから何が発信できるのかを議論したい．夜間小集会も開催予定．

３．「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１と２の成果

坂口有人*（JAMSTEC; arito@jamstec.go.jp）・斉藤実篤・氏家恒太郎・山口飛鳥

統合国際深海掘削（IODP）のもと，地球深部探査船「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画が熊野灘沖において2007-2008年にステージ１が実施され，ステージ２も2009年春から夏にかけて計画されている．1944年東南海地震想定破壊域に発達する分岐断層，付加体先端部のプレート境界断層，沈み込みインプット，熊野海盆における掘削同時検層およびコア採取を通じて付加体－地震発生帯システムの理解を目指す．

トピックセッションでは乗船研究者の最新の成果の紹介と議論を行っていく．特にステージ２終了直後という絶好のタイミングで開催されるので，船上の熱気と勢いをそのまま持ち込みたい．

４．IBM（活動的海洋性島弧～背弧海盆）の発生と進化を探る

新井田清信*（北海道大；kiyo@mail.sci.hokudai.ac.jp）・田村芳彦（JAMSTEC）・石塚　治（産総研）

近年，活動的海洋性島弧の代表例になっている伊豆－小笠原－マリアナ弧（IBM）の前弧～火山弧～背弧海盆海域での調査が進展し，新しい地球科学データが急増している．これまで島弧の進化史や大陸地殻形成についての議論が活発に行われているが，ここでは，島弧マグマ活動とともに島弧～背弧海盆の基盤リソスフェアの実像にも焦点をあてて，島弧の発生～進化を探ってみる．

【定番セッション：22件】

5．地域地質・地域層序（地域地質部会・層序部会）（地域名必要）

吉川敏之（産総研；t-yoshikawa@aist.go.jp）・岡田　誠（茨城大）・斎藤　眞（産総研）

国内，海外問わず各地域に関係した地質や層序の発表を広く募集．地域的な年代，化学分析，リモセン，活構造，応用地質等の発表も歓迎．地質災害地の地質，惑星地質もここに含まれる．地域を軸にした討論を期待する．地質図や断面図のポスター発表を特に歓迎．

6．地域間層序対比と年代層序スケール（層序部会）（地域名不要）

里口保文（琵琶湖博物館；satoguti@lbm.go.jp）・岡田　誠（茨城大）

テフラ等の鍵層を用いて異なる地域間の層序対比に主体をおく研究や，鍵層そのものを主体とした研究，または複合的層序学等によるグローバルな年代層序スケールの構築に寄与するような研究についての講演を歓迎します．

7．海洋地質（海洋地質部会）（地域名必要）

片山　肇*（産総研；katayama-h@aist.go.jp）・徳山英一（東大海洋研）・芦　寿一郎（東大海洋研）・小原泰彦（海上保安庁）

海洋地質に関連する分野（海域の地質・テクトニクス・変動地形学・海域資源・堆積学・海洋学・古環境学・陸域地質での海洋環境変遷研究など）の研究発表を募集する．調査速報・アイデアの公表・海底地形地質・画像データなどのポスター発表も歓迎する．

8．砕屑物組成・組織と続成作用（堆積地質部会）

太田　亨*（早稲田大；tohta@toki.waseda.jp）・野田　篤*（産総研）

砕屑物を構成する個々の粒子の特性（形態や化学組成）から砕屑物（岩）の組織・組成を対象とし，砕屑物（岩）の形成・続成過程の復元，後背地や古環境，地質体の発達史を議論する．データ解析手法，現世砕屑物の組成，初期続成過程についての発表も歓迎する．

9．炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）（地域名必要）

山田　努*（東北大；yamada@dges.tohoku.ac.jp）・松田博貴（熊本大）

炭酸塩岩・炭酸塩堆積物の堆積作用，組織，構造，層序，岩相，生物相，地球化学，続成作用，ドロマイト化作用など，炭酸塩に関わる広範な研究発表を募集する．また，現世炭酸塩の堆積作用・発達様式，地球化学，生物・生態学的な視点からの研究発表も歓迎する．

10．堆積相と堆積システム・シーケンス（堆積地質部会）（地域名必要）

中条武司*（大阪市立自然史博物館；nakajo@mus-nh.city.osaka.jp）・片岡香子（新潟大）

各堆積環境における堆積相の形成過程と認定，各堆積相の分類・記載，その時空分布をもとにした堆積システムの認定や解釈などを扱う．また，堆積相解析を基礎にした堆積システム変遷の解析およびシーケンス層序学など，地層の形成過程のダイナミックな復元に関連する研究発表と議論を行う．

11．堆積作用・堆積過程（現行地質過程部会・堆積地質部会）（地域名必要）

小松原純子*（産総研；j.komatsubara@aist.go.jp）・北沢俊幸（原子力機構）

堆積作用や堆積過程に関して，実験・シミュレーション・現地観測および地層観察などに基づいた研究を募る．特定の地域や年代を超えて適応可能な新しい解析手法や多方面からのアプローチによる堆積関連の研究も募集する．

12．石油・石炭地質学と有機地球化学（石油・石炭関係・堆積地質部会）（地域名必要）

大久保　進（石油資源開発；susumu.okubo@japex.co.jp）・金子信行（産総研）

国内外の石油・石炭地質および有機地球化学に関する講演を集め，石油・天然ガス・石炭鉱床の成因・産状・探査手法など，特にトラップ構造，堆積盆，堆積環境，貯留岩，根源岩，石油システム，資源量，炭化度などについて討論する．

13．岩石・鉱物の破壊と変形（構造地質部会）（地域名不要）

西川　治*（秋田大；nisikawa@lfp03.mine.akita-u.ac.jp）・平内健一（広島大）

断層岩を含む岩石・鉱物の破壊および変形機構，変形微細構造，岩石・鉱物のレオロジーや物性に関する研究を募る．観察・観測・分析・実験・理論など多方面からのアプローチによる成果を歓迎するとともに，会場での活発な議論を期待する．

14．付加体（構造地質部会）（地域名必要）

坂口有人*（JAMSTEC；arito@jamstec.go.jp）・鎌田祥仁 （山口大）

現世，過去を問わず，付加体に関するすべての講演を歓迎する．付加体の形成機構，形成史，微細構造，流体移動，シュードタキライト，温度圧力構造など，様々なアプローチによる成果をもとに議論する．

15．テクトニクス（構造地質部会）（地域名必要）

大坪　誠*（産総研；otsubo-m@aist.go.jp）・佐藤活志（京都大）

地球科学の多方面から，大小様々な時間・空間スケールで起こる地質構造の成因や形成機構・発達史に関する講演を広く募集する．野外調査，観測，実験，理論などに基づいた研究発表を歓迎する．

16．ノンテクトニック構造（応用地質部会・構造地質部会）

柏木健司*（富山大；kasiwagi@sci.u-toyama.ac.jp），永田秀尚（風水土），村井政徳（中国開発調査（株））

テクトニックではない構造（例：堆積物の未固結時変形やランドスライド・地震などによる一過性の構造，重力性の構造その他）の記載・解析・テクトニック構造との区別や比較・応用を議論する．時代・時間やスケールを問わないので，さまざまな分野からの参加を期待する．

17．古生物（古生物部会）（地域名不要）

平山　廉（早稲田大）・北村晃寿*（静岡大；seakita@ipc.shizuoka.ac.jp）・太田泰弘（北九州博）・三枝春生（兵庫県立人と自然の博）・須藤　斎（名古屋大）

古生物を扱った，または関連する研究の発表・討論を行う．

18．噴火と火山発達史（火山部会）

世話人：永尾隆志（山口大；tnagao@yamaguchi-u.ac.jp）・石井英一（日本原子力研究開発機構）・石塚吉浩（産総研）

マグマや熱水性流体の上昇過程，噴火様式，噴火推移，噴出物の移動・運搬・堆積，特定火山あるいは火山地域の発達史，火山活動とテクトニクス，およびその他火山地質やモデル化に関する幅広い視点からの議論を期待する．

19. 深成岩・火山岩とマグマプロセス（火山部会・岩石部会共催）

世話人：古川邦之（愛知大；kfuru@aichi-u.ac.jp）・齋藤　哲（JAMSTEC）

深成岩および火山岩を対象に，マグマプロセスにアプローチした研究発表を広く募集する．発生から定置・固結に至るまでのマグマの物理・化学的挙動や，テクトニクスとの相互作用について，野外地質学・岩石学・地球化学・年代学など様々な視点からの活発な議論を期待する．

20. 変成岩とテクトニクス（岩石部会）（地域名不要）

片山郁夫*（広島大；katayama@hiroshima-u.ac.jp）・桑谷　立（東京大）

国内および世界各地の変成岩を主な対象に，記載的事項から実験的・理論的考察を含め，またマイクロスケールから大規模テクトニクスに関する様々な地球科学的手法・規模の視点に立った斬新な話題提供と活発な議論を期待する．

21. 岩石・鉱物・鉱床学一般（岩石部会）（地域名不要）

壷井基裕*（関西学院大；tsuboimot@kwansei.ac.jp）・水上知行（金沢大）

岩石学，鉱物学，鉱床学，地球化学などの分野をはじめとして，地球・惑星物質科学全般にわたる岩石及び鉱物に関する研究発表を広く募集する．地球構成物質についての多様な研究成果の発表の場となることを期待する．

22. 情報地質（情報地質部会）（地域名不要）ポスターセッションのみ，口頭講演なし

能美洋介（岡山理科大；y_noumi@big.ous.ac.jp）・坂本正徳（国学院大）

地質情報の数理解析，統計解析，データ処理，画像処理などの理論，応用，システム開発，利用技術など，最近の情報地質分野の研究結果を対象とする．また，これらの成果の地質学の広い分野への応用・普及なども歓迎する．

23. 環境地質（環境地質部会）

難波謙二（福島大）・風岡　修（千葉環境研）・三田村宗樹（大阪市大）・田村嘉之*（千葉環境財団；tamura-yoshiyuki@pop07.odn.ne.jp）

医療地質，地盤沈下，湧水，水資源，湖沼・河川，都市環境問題，法地質学，環境教育，地震動，液状化・流動化，地震災害，岩盤崩落など，環境地質に関係する全ての研究の発表・討論を行う．

24. 応用地質学一般（応用地質部会）（地域名不要）

上野将司*（応用地質（株）；ueno-shouji@oyonet.oyo.co.jp）・横田修一郎（島根大）

種々の地質ハザードの実態，調査，解析，災害予測，ハザードマップの事例・構築方法，土木構造物の設計・施工・維持管理に関する調査，解析など，応用地質学的視点に立った幅広い地質学研究について発表・討論を行う．

25. 地学教育・地学史（地学教育部会・地学教育委員会共催）（地域名必要）

矢島道子*（地質情報・活用機構；pxi02020@nifty.com）

新学習指導要領の施行は目前．現場からの問題提起，多くの実践報告を持ちより議論しよう．また地学史からの問題提起，貴重な史的財産の開示を歓迎する．

26. 第四紀地質（第四紀地質部会）（地域名必要）

吉川周作*（大阪市大；yoshi@sci.osaka-cu.ac.jp）・内山　高（山梨環境研）

第四紀地質に関する全ての分野（環境変動・気候変動・湖沼堆積物・地域層序など）からの発表を含む．また，新しい調査や研究，方法の開発や調査速報なども歓迎する．

講演要旨の作成・投稿の注意点とPDFファイルの作り方

講演要旨を作成する際，著者には「保証及び著作権譲渡同意書」第１項の「保証」内容を守って頂きます．行事委員会は，要旨の内容については関知しませんが，当該「保証」内容を逸脱するものがないか校閲します．その結果，不適当とみなされる場合は，修正されるまで講演要旨の受理はされません（不服の場合は法務委員会に訴えることが可能です）．

例年最も多い問題点は，引用文献の表示がない場合です．論文のように細かに引用文献を記載することはスペースの都合上不可能なので必要としませんが，雑誌名，号，ページ等，その文献にたどり着ける最低限の情報は要旨原稿内に記載して下さい．

また，要旨の体裁を無視している場合，印刷できませんので体裁を整えて頂くことになります．さらに図等の改変については，著作権法，地質学会著作物利用規定に従って下さい．

このほか，PDFファイルにフォントを埋め込んでいないもの（印刷時に文字化けすることがあります），要旨作成時に講演番号記入用のスペースがなかったり，余白に無理があるといった場合，体裁を整えるため修正をお願いしています．これらの問題点があった場合，各コンビーナから投稿締切日から1週間をめどに修正依頼が届きます．ただ，その労力はセッションによっては膨大になりますので，あらかじめ著者で完全なものを投稿するようご協力下さい．あわせて講演要旨投稿手順のチェックシートもご参照下さい．

日本地質学会　行事委員会
2009年４月

【講演要旨PDFファイル作成の際の注意点】

1）講演要旨原稿はAdobe Acrobat Reader 4.0 以上で表示・印刷可能なPDFファイルで投稿することが必要です．
2）ファイルサイズは3.0Mバイト以内で作成して下さい．
3）発表（講演）番号は事務局にて左上に付記するので原稿内には記載しないで下さい．
4）PDFファイルのセキュリティ設定は「なし」にして下さい．
5）**フォントは必ず「埋め込み」にして下さい．** MacOSX以上は標準でフォント埋め込みが用意されます．MacOS9.2.2以下，Windowsでは下記のソフトが必要です．その際，『すべてのフォント埋め込み』ないし『ハイクォリティー』等，それぞれのソフトの使用説明書に従った指定を必ずして下さい．文字数にもよりますが，できたPDFファイルのサイズが100KB未満の場合，フォントが埋め込まれなかった可能性がありますので確認して下さい．
6）作成したPDFファイルを自分で印刷し，図表に充分な解像度があるか，文字化けはないか確認して下さい．
7）PDFファイルを自分のパソコンに，必ず「.pdf」の拡張子をつけて保存して下さい（Mac, Windowsとも）．

【webでの講演要旨投稿の手順】

1）参加申し込みの後，web上の講演申し込みページにアクセスし，画面に従って連絡者情報等を入力し，講演申し込みの手続きをします（講演申込と同時に要旨投稿をすることもできますし，講演要旨のみ後で投稿する事もできます）．
2）演題・発表者情報登録画面の最下段にある「アップロードファイル」欄から要旨原稿（PDFファイル）を投稿します．欄右側の「参照」ボタンをクリックし，ご自分のPCに保存してあるPDFファイルを選択します．
3）画面下の「次へ」をクリックし，登録内容確認画面に進みます．登録内容を確認後，画面下の「登録」ボタンをクリックします．これによりサーバーにPDFファイルが格納されます．
4）『登録が完了いたしました．受付番号は＊＊＊＊＊です.』という完了画面が表示されます．（注意！！この画面が表示されないと登録は完了していません）
5）登録したメールアドレスに「講演申込のお知らせ」のメールとともに受付番号（=ID）が配信されます．

★後から要旨を投稿する場合・申込内容を変更する場合★

1）ご自分の申込画面に，IDとメールアドレスを用いてアクセスします．
2）「登録内容変更」ボタンをクリックし，画面の最下段にある「アップロードファイル」欄の「修正」ボタンをクリックします．ご自分のPCに保存してあるファイルを選択し，アップロードをします．サーバー側では，ファイル名を元のファイル名から変更し，ID.pdfの名称で格納します．
3）『登録が変更されました．受付番号は＊＊＊＊＊です.』という操作完了画面が表示されます．（注意！！この画面が表示されないと操作は完了していません）
4）「講演申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます．
5）IDとメールアドレスを用いて，投稿締切まで何度でも要旨や登録内容を修正することができます．新しいファイルを投稿すると，古いファイルに上書きされます．そのつど，「講演申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます

【参考情報：PDF（Portable Document Format）ファイルの作り方】

PDFファイルの作成方法は「PDF原稿作成ガイド」http://www.gakkai-web.net/pdf/を参考にすると良いでしょう．

ソフトの紹介要望が多いので，下記にいくつか参考例を挙げます．また，“PDF作成サービス”を行う有料，無料のサイトがあります．ソフト，サイトとも検索してみて下さい．

なお下記について動作確認等しておりません．また推奨するものでもありません．使用は自己責任でお願いします．

Mac OSX以上の場合

フォント埋め込み型のPDF作成機能が標準で用意されています．新たなソフトは必要ありません．

Mac OS 8.6-9.2の場合

EGWORD Ver.12 for Mac OS X/9/8.6

Windows対応品

PrimoPDF　FreeのPDF変換ソフト　http://www.primopdf.com/
クセロPDF　FreeのPDF変換ソフト　http://xelo.jp/xelopdf/
いきなりPDF　http://www.sourcenext.com/products/pdf/
Adobe Acrobat Elements　http://www.adobe.co.jp/

MacOS9.2.2，MacOSX，Windows対応

Adobe Illustrator　http://www.adobe.co.jp/

講演要旨オンライン投稿手順チェックシート

講演要旨の投稿手順および基本的注意事項です．投稿していただく前に各自でご確認下さい．

1. Word等のソフトで講演要旨原稿を作成する

- ☐ 「保証及び著作権譲渡同意書」第1項の「保証」内容は守られていますか？
- ☐ 要旨原稿内に引用文献は表示されていますか？
- ☐ 要旨の体裁は守られていますか？，p.(17)の原稿フォーマット参照

2. 原稿をPDFファイルにする　P.(14)のPDFファイルの作り方」を参照

- ☐ フォントは「埋め込み」になっていますか？(できたファイルサイズが100KB未満の場合，フォントが埋め込まれなかった可能性があります)
- ☐ ファイルサイズは3.0MB以内になっていますか？
- ☐ 作成したファイルを印刷し，図表に充分な解像度があるか，文字化けはないか確認しましたか？
- ☐ PDFファイルを自分のパソコンに，「.pdf」の拡張子をつけて保存しましたか？

3. 要旨原稿をオンライン投稿する

- ☐ web画面から参加申し込みを行いましたか？
- ☐ 講演申し込み画面から，講演申し込みの手続きをしましたか？
- ☐ 申込完了画面が表示されましたか（ログイン用の受付番号（=ID）が表示されましたか）？
- ☐ 「講演申込のお知らせ」のメールが配信されましたか？

4. 投稿した要旨原稿を修正したい場合

- ☐ IDと申込時に設定したパスワードを用いてアクセスします.
- ☐ 画面中の「登録内容変更」ボタンをクリックします.
- ☐ 画面の最下段にある「アップロードファイル」欄の「修正」ボタンをクリックし，ご自分のPCに保存してある書き直した要旨PDFファイルを選択し，アップロードをします.
- ☐ 「登録」ボタンをクリックします．これによりPDFファイルが上書きされます.
- ☐ 登録内容確認画面を経た後，操作完了画面が表示されます.
- ☐ 「講演申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます.

＜郵送での投稿の場合は原稿に必ず添付して下さい＞

保証及び著作権譲渡等同意書

著作者（下記）は，日本地質学会によって発行される第116年学術大会「講演要旨」・「見学旅行案内書」に掲載する下記表題の原稿（以下「本原稿」という.）について，以下のとおり保証し，かつ著作権を譲渡等いたします.

第１　保証

著作者は，本原稿について，以下の各号記載の事項を保証し，確約します.

１）本原稿が著作者自身の著作物であり，既にいずれかで出版公表されているものと同一ではないこと.

２）本原稿が既存の出版公表物などに対する知的財産権のいかなる侵害も含まないこと.

３）本原稿中に他から転載されているすべての図表について，転載許可を得ていること.

４）本原稿中，他の論文等の引用がある場合には，当該引用が公正な慣行に合致し，目的上正当な範囲内であること.

５）著作物には，日本地質学会の名誉を傷つけ，地質学雑誌の信用を毀損する盗用データ，捏造データ，著作物に関する利害を持つ者の合意に反するもの，その他学会の倫理綱領に反するものを含まないこと.

６）本原稿が共同著作物である場合には，代表して本書に署名捺印する者が，すべての共著者から，本書に著名捺印することについて同意ないし必要な権利を得ていること.

７）本原稿についての問い合わせ，苦情，紛争などが発生した場合，署名者はすべての責任を負うこと.

８）本著作物を作成するに当たって行われた調査・研究行為が，適切な方法でなされたものであること.

第２　著作権譲渡等

著作者は，本原稿について，以下の各号記載に同意します.

１）本原稿のすべての著作財産権（著作権法27条，同29条に定める権利を含む）及び２次著作物の創作・利用に係る権利を日本地質学会へ譲渡すること.

２）本原稿について，日本地質学会ならびに日本地質学会から正当に権利を取得した第３者及び当該第３者から権利を承継した者に対し，著作人格権（公表権，氏名表示権，同一性保持権）を行使しないこと

３）本原稿の下記の各利用形態に関する権利を日本地質学会が排他的に行使すること.

　a）複製，翻訳，翻案（出版，電子出版，翻訳出版，データベース化，ビデオグラム化，その他すべての記録メディアへの記録・掲載などを含む）

　b）展示・上映

　c）放送，有線放送，自動公衆送信（地上波，CATV放送衛星，通信衛星，インターネット，パソコン通信，その他あらゆる送信媒体及び将来開発されるすべての送信媒体による公衆送信を含む）

　d）頒布，譲渡，貸与

　e）その他，本著作物に関する一切の利用（技術の進歩により将来生じうる利用形態を含む）

以上

日付　　2009年　　月　　日

本原稿表題

著作者（代表者）　　印

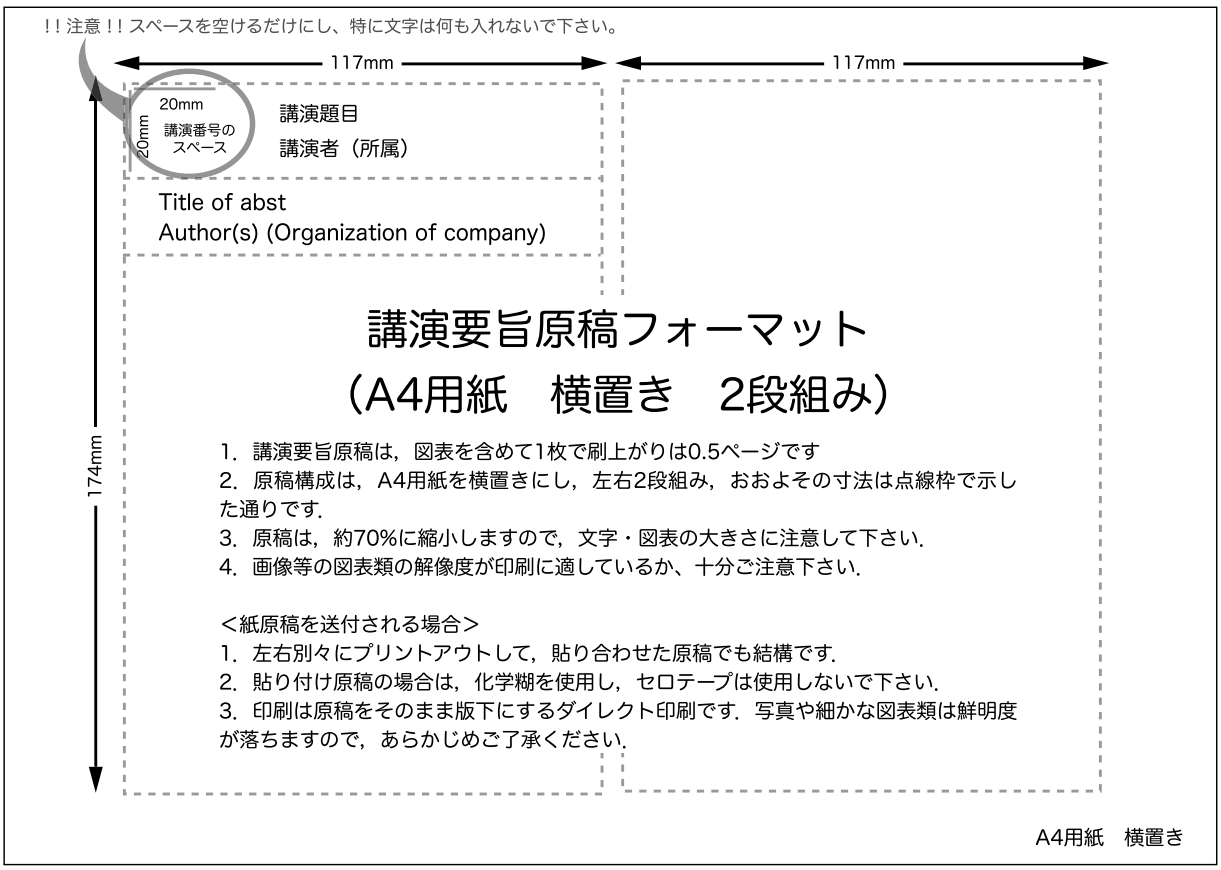
署名者が代表する共著者すべての氏名

行事委員会記入
講演番号　S／O／P　－
【2009年岡山大会見学旅行　　班】

〈一般発表申込書：郵送用〉

発表方法（丸印をつける）	ポスター / 口頭 / どちらでもいい	一般発表申込書	液晶プロジェクター	OHP	＊講演番号
発表題目					
発表者（氏名のみ，所属不要）	（講演者が筆頭です）				
希望セッション（番号：略記）	第１希望	第２希望	会員資格		
			正会員	正（院生割引）	準会員
			名誉会員	招待講演者	入会申込み中

責任者連絡先			
氏名		コメント（対象地域（国・県）など）	
住所	〒		
Tel.	Fax.	E-mail	



見学旅行一覧

＊取消料は，申込締め切り後～出発３日前までは50%，２日前以降は全額となります．
＊参加費用には旅行傷害保険（500円）が含まれています．
＊集合地点まで，および解散地点からの交通費は各自の負担となります．
＊参加費用はあくまで概算の金額です．大きな過不足が生じた場合，見学旅行終了時に調整します．
＊案内書は費用には含まれていません．参加申込時に予約購入の手続きをあわせて行ってください．
＊集合・解散の場所・時刻等に変更が生じた場合，学会期間中は掲示板に案内されます．
＊参加者人数が少ない場合，見学旅行が中止になることもあります．
＊レンタカーを使用する場合，参加者の皆様に運転をお願いすることがあります．

班	タイトル ＜略称＞	見学コース	主な見学対象	日程	定員	案内者（所属） ＊はリーダー	概算費用	地形図	備考
A	小豆島の瀬戸内火山岩類：水中火山活動とサヌキトイド ＜瀬戸内火山岩＞	７：45岡山駅西口出発→岡山港→土庄→寒霞渓→坂手→三都半島→皇踏山→土庄→岡山港→18：00岡山駅解散	瀬戸内火山岩類の水中火砕岩（流紋岩～安山岩）．特異なテクトニックセッティングで形成された高Mg安山岩を含むサヌキトイドの産状．	９月７日（月） 日帰り	20名	巽　好幸＊・谷健一郎・川畑　博（JAMSTEC）	7000円	小江・寒霞渓・土庄・草壁・五剣山（1/2.5万）	バス使用．行程は状況で変更することがあります．昼食はご持参ください． シンポジウム「高Mg安山岩とアダカイト：その起源，テクトニクス，大陸地殻形成における役割」関連企画
B	四万十帯牟岐メランジュにみる沈み込み帯地震発生帯の変形と流体移動 ＜牟岐メランジュ＞	９月７日８：00岡山駅西口集合→牟岐メランジュ上部セクション→日和佐町（泊） ９月８日９：00宿出発→牟岐メランジュ下部セクション→17：30徳島駅・18：00徳島空港	メランジュ/整然層境界断層（シュードタキライトを産出）．メランジュ内部の変形（boudin, web structure, duplexなど）．スラストシート境界断層（ウルトラカタクレーサイト・鉱物脈濃集帯・玄武岩の剪断帯など）	９月７日（月） ～８日（火） （１泊２日）	20名	山口飛鳥＊（高知大海洋コア総合研究センター）・柴田伊廣（神奈川県立生命の星・地球博）・氏家恒太郎（ＩＦＲＥＥ/JAMSTEC）・木村学（東京大）	25000円 （２日目の昼食込）	牟岐・山河内・日和佐（1/2.5万）	・中型バス利用/・小雨決行/・初日の昼食は各自ご持参ください/・膝下程度の渡渉あり（長靴でも可） シンポジウム「「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１と２の成果（総括）」関連企画
C	三波川変成帯のテクトニクス ＜三波川変成帯のテクトニクス＞	９月７日８：30岡山駅西口出発→吉野川流域川口→大歩危地域→四国中央市別子山泊 ９月８日別子山林道および登山→岡山駅解散	大歩危地域の三波川変成岩/四万十帯境界露頭の観察．境界の上位の岩石の変成変形構造．別子山地域の林道および権現越のエクロジャイト岩体中の源岩特定および変成変形構造．	９月７日（月） ～８日（火） （１泊２日）	20名	丸山茂徳，青木一勝（東京工業大）・岡本和明（埼玉大）	25000円	阿波川口・大歩危・新居浜・東予土居・別子銅山・弟地（1/2.5万）	バス使用．行程状況で変更することがあります． 「都城秋穂追悼シンポジウム」およびシンポジウム「日本列島構造発達史」関連企画
D	大山・大根島：山陰中央部の対照的な第四紀火山 ＜大山・大根島＞	９月７日８：00JR岡山駅発（バス）→米子自動車道溝口IC下車→鍵掛峠→大山金門，元谷，中宝珠→大根島（泊） ９月８日８：30宿出発→江島→大根島→14：00米子空港（ANA）→14：30JR米子駅経由→16：30岡山空港→17：30JR岡山駅	大山のデイサイト溶岩，岩脈，崩壊岩塊と堆積物，火砕流堆積物，土石流堆積物．大根島・江島の溶岩トンネル，玄武岩溶岩，スコリア丘，テュムラス，溶岩庭園，淡水レンズ湧き出し口	９月７日（月） ～８日（火） （１泊２日）	20名	沢田順弘＊（島根大）・門脇和也（島根県自然観察指導員）	14000円	伯耆大山・境港・揖屋（1/2.5万）	21人乗りバス使用．初日の昼食は各自ご持参ください．初日夜に若手中心の研究発表と討論会を予定．その後，バーベキューパーティー．

班	タイトル ＜略称＞	見学コース	主な見学対象	日程	定員	案内者（所属） ＊はリーダー	概算費用	地形図	備考
E	秋吉石灰岩から読み取る石炭・ペルム紀の古環境変動－美祢市（旧秋芳町）秋吉台科学博物館創立50周年記念巡検－ ＜秋吉石灰岩＞	９月７日10：00JR新山口駅出発→美祢市鳶の巣→長者が森＞秋吉台上，冠山→地獄台頂上付近→長者が森→美祢市美東町（泊） ９月８日８：30美祢市美東町→秋吉台上，帰り水ドリーネ→美祢市秋吉台科学博物館→15：00JR新山口駅解散	秋吉石灰岩層群のサンゴ石灰岩，ウーライト，礁性堆積物，洞窟堆積物，マイクロコディウム，離水相，干潟相，堆積サイクルおよびコア観察	９月７日（月）～８日（火）（１泊２日）	15名	佐野弘好（九州大）＊・枚山哲男（福岡大）・長井孝一（琉球大）・上野勝美（福岡大）・中澤　努（産総研）・藤川将之（秋吉台科学博）	20000円	秋吉台北部・秋吉台（1/2.5万）	JR新山口駅集合・解散．現地での移動はレンタカーを利用します．１日目の昼食は各自でご用意ください
F	香川県小豆島の花崗岩のラミネーションシーティングと小豆島石を訪ねて ＜風化花崗岩の構造＞	９月７日８：30岡山駅→新岡山港→土庄港→小豆島町池田→橘（泊） ９月８日８：30橘→小豆島町岩ケ谷（大坂城石垣石切丁場跡）→小海（大坂城残石公園と現在の小豆島石の丁場）→16：00土庄港解散	土渕海峡（ギネス認定：世界一狭い海峡），花崗岩のラミネーションシーティング（割れ目の特徴，発達する岩としない岩，地形との関係，風化帯との関係，未風化核岩との関係，岩盤クリープ），キャップロック地形，昭和49年小豆島災害，未風化核岩を利用した江戸時代の採石と機械力による現在の小豆島石の採石	９月７日（月）～８日（火）（１泊２日）	15名	藤田勝代＊（深田地質研）・横山俊治（高知大）	17000円	小江・寒霞渓・土庄・草壁（1/2.5万）	・初日の昼食は各自ご持参下さい．２日目の昼食は各自購入の予定．/・島内はジャンボタクシーとマイクロバス利用．/・解散場所の土庄港からは岡山・高松方面へのフェリー有．あるいは昼頃に途中下車で，福田港→姫路港への帰路希望も対応可．
G	成羽層群の炭層地すべり群－岩相と地史を反映したその構造特性 ＜成羽層群地すべり＞	８：30岡山駅西口出発→岡山県高梁市川上町（名原→大賀→松原→仁賀→安成→地頭）→18：00岡山駅西口	岡山県西部のトリアス系成羽層群分布域に発達する地すべり群，形状と構造（代表的な名原地すべり，安成地すべりを中心に見学），成羽層群の炭層を挟んだ岩相と特徴的な微小構造．成羽層群の基盤をなす石灰岩等との構造関係．古第三系“山砂利層”の層相．	９月７日（月）日帰り	15名	横田修一郎＊（島根大）・田中元・山田琢哉（復建調査設計）	6000円（昼食込）	地頭（1/2.5万）	・交通手段は小型バスまたはレンタカー（朝，JR岡山駅西口前出発，帰りはJR高梁駅，岡山空港経由，夕方JR岡山駅西口着）/・昼食（弁当）は案内者の方で手配する．
H	岡山県東部周辺の舞鶴帯と超丹波帯 ＜舞鶴・超丹波帯>	８：30岡山駅西口出発→美咲町飯岡→美咲町王子～美作市青野→美作市大原→美作市白水→佐用町西大畠→佐用町小日山→佐用町上月→16：30JR上郡駅解散→18：00岡山駅西口	舞鶴帯構成層（舞鶴層群上部層，福本層群），夜久野岩類（変斑れい岩，変花崗岩，“殿敷型角礫岩”），超丹波帯構成層（上月層，山崎層）	９月７日（月）日帰り	18名	竹村静夫＊（兵庫教育大）・菅森義晃（大阪市大）・鈴木茂之（岡山大）	6500円	柵原・林野・上月（1/2.5万）	小型バス使用．昼食は各自でご用意下さい．
I	岡山市周辺の吉備高原に分布する古第三系”山砂利層”と中新統 ＜山砂利層と中新統＞	８：30岡山駅西口出発→岡山市北部→吉備中央町賀陽→岡山市北部→18：00岡山駅解散	古第三系“山砂利層”（34～35Maと27～29Maの地層）の堆積相，凝灰岩，基底の不整合と中新統の堆積相，化石，“山砂利層”との不整合	９月７日（月）日帰り	22名	鈴木茂之＊（岡山大）・松原尚志（兵庫県立人と自然の博）・松浦浩久（産総研）・檀原　徹，岩野英樹（京都フィッション・トラック）	6000円（昼食込）	豪渓・金川・東山内（１/2.5万），岡山北部・高梁（１/5万）	マイクロバス使用．17時頃岡山空港経由で岡山駅解散

※一般の見学旅行とは別に現在『第８回理科教員対象見学旅行』の実施が予定されています．詳細についてはニュース誌５月号をご参照ください．

日本地質学会第116年学術大会(岡山大会)宿泊・割引航空券のご案内

2009年９月４日（金）～９月６日（日）に，岡山市におきまして「日本地質学会第116年学術大会（岡山大会）」が開催されますことを心よりお祝い申し上げます．
この度，株式会社日本旅行が大会に参加される皆様の「宿泊・航空券」のお世話をさせて頂くこととなりました．私共は，全国各地より大会へご参加される皆様方の利便を図るように企画準備いたしております．

株式会社日本旅行　岡山支店
「日本地質学会第116回学術大会」受付担当

割引航空券のご案内

大会スケジュールに合わせ団体割引航空券を設定致します。５名様以上のご利用で下記料金が適用されます。是非ご利用下さい。

【往路】

記号	利用日	区間	予定スケジュール		セットプラン片道あたりの料金
			発	着	
A-1	９月３日（木）	東京→岡山	13：20－14：40		15,100円
A-2	９月３日（木）	東京→岡山	14：50－16：10		15,100円
A-3	９月３日（木）	東京→岡山	17：50－19：10		16,100円
B-1	９月４日（金）	東京→岡山	７：45－９：05		13,100円
B-2	９月４日（金）	東京→岡山	８：45－10：05		15,100円
B-3	９月４日（金）	東京→岡山	９：20－10：40		15,100円
B-4	９月４日（金）	東京→岡山	13：20－14：40		15,100円
C-1	９月５日（土）	東京→岡山	７：45－９：05		13,100円
C-2	９月５日（土）	東京→岡山	８：45－10：05		15,100円
C-3	９月５日（土）	東京→岡山	９：20－10：40		15,100円
C-4	９月５日（土）	東京→岡山	13：20－14：40		15,100円

【復路】

記号	利用日	区間	予定スケジュール		セットプラン片道あたりの料金
			発	着	
ア-1	９月６日（日）	岡山→東京	16：55－18：05		15,100円
ア-2	９月６日（日）	岡山→東京	17：25－18：40		15,100円
ア-3	９月６日（日）	岡山→東京	19：15－20：35		15,100円
ア-4	９月６日（日）	岡山→東京	19：45－21：00		15,100円
イ-1	９月７日（月）	岡山→東京	９：40－10：50		16,100円
イ-2	９月７日（月）	岡山→東京	10：45－11：55		14,100円
イ-3	９月７日（月）	岡山→東京	15：25－16：35		15,100円
イ-4	９月７日（月）	岡山→東京	17：25－18：40		15,100円

割引料金（団体割引）

※各設定便ともに５名様以上のご利用があった場合に限り，上記割引運賃が適用されます．
※上記出発時間は2009年４月現在の仮ダイヤに基づいております．多少変更になることがありますのでご了承下さい．
※各設定便毎にお申込のお客様が５名様未満の場合，各特別運賃でご利用頂くために便の変更をお願いする場合がございます．もしくは別途割増料金となりますので，ご了承下さい．
※各便ともに確保している席（10～30席）が満席になり次第締切りとさせて頂きます．
※上記割引航空券としてご案内する航空便は，各航空会社「マイレージプログラム」積算対象外の運賃となりますことをご了承下さい．
※JRの場合も，同一列車で８名以上のご利用がある場合，割引運賃・料金をご案内できます．
詳細は別途担当者までお問い合わせください．

宿泊のご案内

◎９月３日（木）～９月６日（日）ご宿泊分◎

９月４日（金）・５日（土）に岡山地区で学会が重なっております。例年通り市内ホテルの混雑が予想されますのでお早めのご予約をお勧め致します。

ホ　テ　ル　名	アクセス	申込記号	部屋タイプ	宿泊代金（お１人様１泊あたり）
A：ホテルグランヴィア岡山	JR岡山駅直結徒歩１分	AS	シングル	13,100円
B：岡山全日空ホテル	JR岡山駅より徒歩１分	BS	シングル	12,600円
C：三井ガーデンホテル岡山	JR岡山駅より徒歩２分	CS	シングル	8,500円
		CT	ツイン	7,500円
D：岡山ワシントンホテルプラザ	JR岡山駅より徒歩５分	DS	シングル	7,500円
E：岡山ロイヤルホテル	JR岡山駅より徒歩10分	ES	シングル	8,000円
		ET	ツイン	7,500円
F：後楽ホテル	JR岡山駅より徒歩５分	FS	シングル	8,500円
		FT	ツイン	7,500円
G：コンフォートホテル岡山	JR岡山駅より徒歩15分	GS	シングル	6,000円
		GT	ツイン	5,000円
H：アークホテル岡山	JR岡山駅より徒歩７分	HS	シングル	8,000円
		HT	ツイン	7,500円
I：岡山シティホテル厚生町	JR岡山駅よりタクシー５分	IS	シングル	7,350円
J：岡山シティホテル桑田町	JR岡山駅より徒歩７分	JS	シングル	7,350円
		JT	ツイン	6,300円
K：岡山ビジネスホテルアネックス	JR岡山駅より徒歩５分	KS	シングル	6,500円
L：岡山ビジネスホテル	JR岡山駅より徒歩５分	LS	シングル	6,000円

※宿泊料金は、１泊朝付・税金・サービス料込みお１人様の料金となっております。
※それぞれ確保している部屋数がふさがり次第、締め切らせて頂きます。

大会参加ホームページ（HP）又はp.（22）に掲載の大会申込用紙にてお申込下さい。詳細はp.（6）掲載の「各種申込とお支払について」をご覧下さい。
大会参加登録ホームページ：http://apollon.nta.co.jp/chishitsu/よりアクセスして下さい.

申込締切：８月17日（月）18：00まで

◎変更・取消について◎

お申込内容の変更・取消につきまして、必ずHPまたはFAXにてご連絡下さい。お電話でのご連絡はお受けしかねます。

【航空券】

15日前～８日前	７日前～２日前	前日	当日	便出発以降
20%	30%	40%	50%	100%

【宿泊】

10日前～８日前	７日前～２日前	前日	当日	不泊
20%	30%	40%	50%	100%

◎お問合せ先◎

株式会社日本旅行　岡山支店
日本地質学会第116年学術（岡山）大会　受付デスク　担当：菅谷（すがや）
〒700-0023
岡山市北区駅前町2-1-7
FAX：086-223-2259　e-mail：okayama_office@nta.co.jp

株式会社日本旅行　岡山支店
〒700-0023　岡山市北区駅前町2丁目1番7号
e-mail:okayama_office@nta.co.jp
問合せTEL:086-225-9283　担当:菅谷（すがや）

送信先FAX:086-223-2259

日本地質学会第116年学術大会

参加登録及び懇親会・要旨集・弁当・航空券・宿泊・見学旅行　FAX専用申込書

住　所 予約確認書 送付先	〒 （都・道・府・県） （勤務先・自宅）
申込代表 氏名	
所属	（部署）
電話番号 FAX番号	TEL: FAX: e-mail

弊社記入欄	
受付 No.	
申込 受付日	年　　月　　日

（ふりがな） お　名　前	性別	年齢	参加種別	懇親会	要旨集追加	見学旅行案内書	お弁当		
							4日	5日	6日
おかやま　たろう 例）岡山　太郎	(男) 女	50	(正) 院生 準 名誉・50年 非 学生非 同伴者	○	冊 送付・受取	1冊 (送付)・受取	○	○	○
1	男 女		正 院生 準 名誉・50年 非 学生非 同伴者		冊 送付・受取	冊 送付・受取			
2	男 女		正 院生 準 名誉・50年 非 学生非 同伴者		冊 送付・受取	冊 送付・受取			

航空機		宿　泊				
往路	復路	記号	3日	4日	5日	6日
A-1	ア-1	AS	×	○	○	○

見学旅行（申込者:1→上記1の方、　コース:希望コースの記号　キャンセル待ち:希望の方は○をご記入ください）

申込者1	コース	キャンセル待ち	緊急連絡先（携帯）	申込者2	コース	キャンセル待ち	緊急連絡先（携帯）
	第1				第1		
	第2				第2		

お支払方法	□銀行振込み □クレジットカード	カード種類 （選択）	□VISA　□master　□JCB □ダイナース　□アメリカンエキスプレス
有効期限	年　　月	カード名義	
カード番号			

備考欄

※航空券・JR券：上記設定便以外の手配も承ります。ご希望の方は備考欄に内容（日時・区間・利用時間などをご記入ください）
※宿泊：ツインルームをご希望の方は、同室の方のお名前（組み合わせ）を備考欄にご記入ください

日本地質学会*News*

Vol.12 No.4 April 2009

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６F
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

巻頭　日本地質学会第116年学術大会（岡山）予告記事 ……（１）～(22)

日本地質学会第116年総会開催について ……2

一般社団法人日本地質学会2009年度定時総会開催について
一般社団法人日本地質学会各種規則（運営規則/理事会規則/総会規則/選挙規則）

報告書等の作成に関して—知っておくべきこと—（日本地質学会理事会・法務委員会）……9

各賞・研究助成 ……10
2010～2011年開催藤原セミナー募集/第６回（平成21年度）日本学術振興会賞受賞候補者推薦募集

公募 ……10
電力中央研究所地球工学研究所研究職募集/京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設教員公募/公募結果

CALENDAR ……11

紹介 ……12
図説　地球の歴史　小泉　格（山本正伸）/Geodynamic Evolution of East Antarctica:A Key to East-West Gondwana Connection　Edited by M. Satish-Kumar, et al/超大陸-100億年の地球史　テッド・ニールド（木村　学）/書評・献本

杉山了三会員の受賞を祝し—東レ理科教育賞文部科学大臣賞受賞—（高木秀雄）　……15

オンライン用PDFカラー図表の差替サービスを始めます！ ……15
—地質学雑誌J-STAGEオンライン公開—

支部コーナー ……16
関東支部：総会および日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム・第３回支部研究発表会・第６回技術伝承講習会開催のご案内・2009年関東支部幹事選出のお知らせ/中部支部：2009年年会シンポジウムと個人講演のお知らせ/北海道支部：2009年度総会・個人講演会・会長講演会・「地質の日」記念展示『支笏火山と私たちのくらし』開催のお知らせ/西日本支部：後援「地質の日」企画：身近に知る「くまもとの大地」

院生コーナー ……19
淡青丸KT-08-30次航海と鹿児島での火山灰採取（伊藤拓馬）

追悼 ……21
名誉会員　藤田和夫先生のご逝去を悼む（横田修一郎）

学会記事 ……22
2008年度第10回理事会議事録/2008年度第11回理事会議事録/2008年度第３回定例評議員会議事録

出版物在庫案内/取扱地質図一覧 ……28

巻末　**入会申込書**

表紙紹介

南アフリカ共和国・ムプマランガ州のブルクス・ラック・ポットホール
Bourke's Luck Potholes in the Mpumalanga Province, South Africa

写真　**山口耕生**（海洋研究開発機構）

初期原生代のドロマイトを侵食してできた甌穴．名前は発見者に由来（1870年頃）．写真中の橋上の青いジャケットの人は九州大学の清川昌一氏．ムプマランガという州の名前はスワジスール語で「太陽の昇るところ」を意味する．

訂正

地質学会News誌Vol. 12，No. 3，p. 11，「松山基範先生顕彰碑除幕式」の記事および引用文献に，間違いがありました．訂正してお詫び申し上げます．

（加納　隆）

（正）Matuyama　←　（誤）Matsuyama
（正）笹嶋　←　（誤）笹島
（正）Tyôsen　←　（誤）Ty_sen

事務局営業カレンダー

お休み　＊印は振替休日です

5月/May

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25*	26	27	28	29	30

6月/June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15*	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

注：5/17は，総会のため事務所は不在です．

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

開催通知

日本地質学会
第116年総会開催について

2009年３月14日
日本地質学会　会長　宮下　純夫

日本地質学会第116年総会を次の次第により開催いたします.

2009年５月17日（日）　17：45〜18：45
会場　幕張メッセ　国際会議場（3F　302会議室）

１．開会
２．議長選出
３．議案
　１号議案　2008年度事業経過報告
　２号議案　2008年度決算報告
　３号議案　2009年度事業計画について
　４号議案　2009年度予算案について
　５号議案　名誉会員の推薦について
　６号議案　任意団体日本地質学会の解散について（事業移行）
４．閉会

１．会則第29条により，本総会は役員ならびに代議員による総会となります．ただし，会則第30条５項により，正会員は総会に出席し，意見を述べることができます．
２．役員，代議員には別途，総会開催通知ならびに「総会の定足数等に関する細則」にもとづく議決権行使書，委任状などを期日までにお送りいたします．ご都合で欠席される方は，議決権行使書または委任状を提出してください．

開催通知

一般社団法人日本地質学会
2009年度定時総会開催について

2009年４月11日
日本地質学会　会長　宮下　純夫

一般社団法人日本地質学会2009年度定時総会を次の次第により開催いたします.

2009年５月17日（日）　18：45〜19：45
会場　幕張メッセ　国際会議場（3F　302会議室）

１．開会
２．議長選出
３．議案
　第１号議案　理事会報告
　第２号議案　2008年度事業・予算計画と決算報告について
　第３号議案　2009年度事業計画・予算案について
４．閉会

１．定款第20条により本総会は役員ならびに代議員による総会となります．ただし定款により正会員は総会に陪席することができます．
２．一般社団法人選挙規則の附則に則り，2009年度の一般社団法人の代議員は，新たな選挙による改選までは，任意団体日本地質学会の代議員があたることになっています．
３．定款第28条第１項により，代議員には別途，総会開催通知ならびに総会規則にもとづく議決権行使書，委任状などをお送りいたします．ご都合で欠席される方は，議決権行使書または委任状を提出してください．

一般社団法人日本地質学会運営規則

第１章　総　　則
（目的）
第１条　一般社団法人日本地質学会定款（以下定款という）第７条に基づいて本規則を定める．
２　一般社団法人日本地質学会（以下学会という）の機構，運営，業務の分担，職制等の定款施行に必要な事項は，この規則の定めによる．

（規則の変更）
第２条　この規則の変更は，理事会の議決によって行い，総会に報告し承認を求める．

第２章　会員，会員名簿，入会，退会
（会員の権利）
第３条　会員は次の権利をもつ．
(1) 会誌などの配布を受けるとともに，この学会が刊行する図書等の入手について特典を有する．
(2) 学会誌への投稿および学会の催す講演会などの事業への参加に特典を有する．
(3) 支部会員として支部の運営に参加することができる．
(4) 理事会および総会に陪席することができる．

（会員名簿）
第４条　学会に以下の項目を記載した会員名簿を備え，学会事務局はその記載事項に異動があった場合にはすみやかに整理し，適切に管理するものとする．
(1) 氏名
(2) 生年月日
(3) 性別ならびに国籍
(4) 学歴
(5) 住所ならびに所属支部
(6) 所属機関
(7) 専門内容
(8) 上記項目についての不開示指定
２　会員名簿の閲覧と配布は，会員へのみ行うものとする．別途目的を記して閲覧等を非会員が希望する場合には，その諾否を理事会が決定する．

（入　会）
第５条　学会に入会を希望する個人，法人または団体は，会員の種別および以下の事項を記載した入会申込書を提出しなければならない．
(1) 個人の場合は，氏名および生年月日，職業および所属機関
(2) 法人および団体の場合は，その名称と代表者名，業種
(3) 賛助会員としての入会を希望する場合は会費の口数
(4) 住所または所在地
(5) その他必要とする事項
２　執行理事会は，入会申込書記述内容に誤謬がある場合，会費滞納により除籍となった者で滞納会費の納入を拒否する場合，学会の倫理綱領に著しく反する者である事が社会的に明白である場合を除き，入会を決定し，すみやかに申し込み者にその結果を通知する．
３　入会を承認された者は，別に定める当該年度の会費を納入することにより会員の資格を得る．
４　学会は会費納入を確認次第，申込者を会員名簿に登録し，所属支部および所属専門部会に通知する．
５　再入会を希望する者は，改めて所定の入会申込書を提出しなければならない．なお，過去に未納会費がある場合はこれを納めたうえで申し込むものとする．

（会員の異動および資格の変更）
第６条　会員は，会員名簿記載事項について異動があったときは，すみやかにその旨を学会に届出なければならない．
２　学会は，会員が学部学生，院生およびそれに準じる資格を失った場合には，その翌年度会費から新たな資格に相当する会費を請求する．
３　賛助会員は，その代表者に変更があった場合，すみやかにその旨を学会に届出なければならない．
４　学会は，これら会員の身分等の変更の届出があったときならびに退会届を受理した場合は，会員名簿を整理し，所属支部にもその旨を通知する．

（会　費）
第７条　学会は会費の年額（４月１日～翌年３月末日）を次のように定め，会員は当該年度の初日までにこれを支払うこととする．入会の際には当該年度の年額を支払うこととする．
(1) 正会員：12,000円
ただし，大学学部ならびに大学院に在籍するものは，毎年度ごとに所定の申請書を提出した場合，それぞれ学部学生割引と院生割引を適用し，年会費を5,000円ならびに8,000円とする．これらに準じる身分の学生についても同様の扱いとする．
(2) 賛助会員：１口25,000円，２口以上
ただし，諸般の事情により理事会が認める場合は，1口とすることができる．
２　会費の変更は，理事会の議決により，総会の承認を得なければならない．
３　会員は，上記に定める会費を一括納入しなければならない．ただし，やむを得ぬ理由により理事会が認める場合は，分納もしくは減免することができる．
４　会費を滞納した会員については次の処置をとる．
(1) 滞納期間が６ヶ月以上となった場合には，地質学雑誌等の会誌の送付を停止する．
(2) 滞納会費が納入された場合には，送付を停止した地質学雑誌等の会誌の送付を再開する．ただし，会誌の在庫の関係で送付ができないことがある．
(3) 地質学雑誌への投稿，講演会での講演を制限することがある．
(4) 会費を当該年度中に支払わなかった会員は，正当な理由がないと理事会が判断したときは会員の資格を喪失し除籍となる．

第３章　会　　計
（財政会計の総括責任者）
第８条　会長は，この学会の財政会計に関する総括責任者となる．

（事業計画・報告および予算案・決算）
第９条　理事会規則により担当を定められた執行理事は，翌事業年度の事業計画ならびに予算案を作成する．会長はこれを理事会に諮り，総会に提出しなければならない．
２．理事会規則により担当を定められた執行理事は，毎事業年度終了後，事業報告書ならびに決算報告書等を作成する．会長はこれらについて監事の監査を受けた後，理事会に諮り，総会に提出しなければならない．

第４章　支　　部
（支部の区分）

第10条　この学会は，定款第２条に基づき以下の支部を置く．
(1) 北海道支部：北海道
(2) 東北支部：青森，秋田，岩手，山形，宮城，福島
(3) 関東支部：茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川
(4) 中部支部：新潟，長野，山梨，静岡，富山，石川，岐阜，愛知，福井
(5) 近畿支部：滋賀，奈良，京都，三重，大阪，和歌山，兵庫
(6) 四国支部：徳島，香川，高知，愛媛
(7) 西日本支部：岡山，広島，鳥取，島根，山口，福岡，熊本，長崎，佐賀，大分，宮崎，鹿児島，沖縄
２　会員は，原則として登録した住所を管轄区域とする支部の会員となる．
３　理事会が必要と認めた場合には支部の下に地方部会をおくことができる．
４　会長は，理事会および総会の議決を経て，第１項の区分の変更を行うことができる．

(支部の運営)
第11条　支部には支部長をおき，別途定める支部規約により運営される．
２　支部長は支部長連絡会議に出席し，理事会ならびに各支部との調整等を行う．
３　支部は支部規約，所在地，役員名，ならびに支部活動および会計の状況を適宜理事会に報告し，承認を得なければならない．

第５章　学会誌その他の刊行物
(刊行物の種類)
第12条　学会は以下の刊行物を出版する．
(1) 地質学雑誌
(2) 地質学会News
(3) 地質見学旅行案内書（CD-ROM版および印刷版）
(4) 年会，学会主催講演会等の講演予稿集
(5) Island Arc
(6) その他の出版・刊行物
２　地質学雑誌，地質学会Newsは希望する会員に配布すると共に，内外の関連諸機関や一般等に対し寄贈および有償配布する．
３　学会の刊行物等の一部は，電磁的方法によって随時無償公開を行うこととする．
４　１項３号の印刷版，６号の出版・刊行においては，理事会の議決を得なければならない．
５　学会の刊行物の寄贈先は，理事会で定める．

(学会誌その他の刊行物の編集)
第13条　本学会の刊行物の発行にあたっては，理事会規則で定められる以下の体制で行う．
(1) 地質学雑誌：地質学雑誌編集規則に従って，地質学雑誌編集委員会が編集する．
(2) 地質学会News：ニュース誌編集規則に従って，広報委員会が編集する．
(3) 地質見学旅行案内書：地質学雑誌編集規則に従って，地質学雑誌編集委員会が編集する．
(4) 年会講演等の予稿集：行事委員会が企画立案し，理事会の承認を得て，編集・発行する．
(5) その他の出版物：企画出版委員会が企画立案し，理事会の承認を得て，編集・発行する．
２　Island Arcは，関連学会の協力のもとでIsland Arc編集委員会ならびにIsland Arc編集事務局が編集を行う．
３　支部が刊行する出版物については，各支部規約によりこれを行う．

第６章　学術大会ならびにその他社会貢献事業
(学術大会)
第14条　会員の地質学ならびに関連する科学の研究成果の公表，普及，推進のために学術大会（以下年会という）を年１回開催する．
２　行事委員会と支部長連絡会議の協議にもとづき，年会の開催地は原則として各支部が順次担当する．
３　年会の日程，開催場所ならびに年会実行委員会等については，行事委員会と担当支部が協議し，理事会の承認を得て決定する．
４　年会の行事内容については，行事委員会，年会実行委員会，専門部会，各委員会等の協議により決定し，理事会の承認を得る．

(社会貢献事業)
第15条　地質学ならびに関連する科学の普及と教育および啓発のために，本学会は講演会，シンポジウム，セミナー，展示会，見学旅行等のアウトリーチ・教育事業を随時開催することができる．
２　第１項に関する事業については，行事委員会あるいは所轄する各種専門部会・委員会が企画し，理事会の議決により実施する．
３　支部が主催する第１項に関する事業については，各支部規約による．

第７章　表　　彰
(表彰)
第16条　本学会は地質学に関する優秀な研究業績を修めた者，ならびに地質学の発展・普及による社会貢献の著しい者を顕彰するとともに，地質学会において長年にわたって活躍してきた会員に永年会員顕彰を授与する．
２　表彰の名称および内容は次のとおりである．
(1) 日本地質学会賞：地質学に関する優秀な業績をおさめた会員
(2) 日本地質学会国際賞：地質学に関する画期的な貢献があり，加えて日本列島周辺域の研究や日本の地質研究者との共同研究などを通じた日本の地質学の発展に関する顕著な功績があった非会員
(3) 日本地質学会Island Arc賞：Island Arc誌に発表され，世界の地質学の発展に貢献した優れた論文（総説を含む）．著者は会員・非会員を問わず，共著の場合は全員を受賞者とする．
(4) 日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞：地質学に関して優れた業績を上げた満37歳以下の会員
(5) 日本地質学会論文賞：「地質学雑誌」あるいは「Island Arc」に優れた論文を発表した会員
(6) 日本地質学会小藤賞（短報賞）：「地質学雑誌」に重要な発見または独創的な発想を含む短報を発表した会員
(7) 日本地質学会研究奨励賞：「地質学雑誌」あるいは「Island Arc」に優れた論文を発表した満35才未満の会員
(8) 日本地質学会優秀ポスター賞：学会が主催する講演会等において優秀なポスター発表を行った会員
(9) 日本地質学会功労賞：長年にわたり地質学の発展に貢献のあった会員および非会員
(10) 日本地質学会表彰：地質学の教育活動，普及・出版活動，新発見および露頭保全，あるいは新しい機器やシステム等の開発等を通して地質学界に貢献のあった非会員の個人，団体および法人

3　表彰は，別途定める規則に従い，各賞選考委員会が受賞候補者の選考を行い理事会が候補者を決定し，総会の承認を経て行う．

第８章　関連学協会等
（関連学協会等との協力）
第17条　学会は，日本学術会議，一般社団法人日本地球惑星科学連合，その他国内外の関連学協会等と協力し，相互に便宜を供与することができる．

（会員等の推薦）
第18条　学会は，日本学術会議，一般社団法人日本地球惑星科学連合，その他国内外の関連学協会等から依頼があった場合には，会員ならびに委員を推薦することができる．学会の推薦する会員，委員に対して，学会はその活動を支援する．

附則　任意団体日本地質学会の解散までの期間においては，任意団体日本地質学会の会員の身分をもつ者に対して，一般社団法人日本地質学会の会費は請求しないこととする．
附則　本規則は2009年４月11日より施行する．

一般社団法人日本地質学会理事会規則

第１章　総　則
（目的）
第１条　本規則は，一般社団法人日本地質学会定款（以下定款という）第51条に基づき定める．

（規則の変更）
第２条　この規則の変更は，理事会の議決によって行い，総会に報告する．

第２章　役員の選任
（会長，副会長，執行理事の選任）
第３条　理事会は，役員改選後の第１回理事会において，会長および副会長候補者を選任する．
２　理事会は，理事の互選により，執行理事を選任し，執行理事の中から常務理事ならびに副常務理事をそれぞれ１名選任する．
３　理事会は，前項により選任された会長，副会長，常務理事・副常務理事ならびにその他の執行理事を，定款第33条に基づき総会に報告する．
４　執行理事に欠員が生じた場合には，理事会の互選により補充する．補充執行理事の任期は前任者残任期間とする．

（理事会議長・副議長の選任）
第４条　理事会は，会長，副会長および執行理事以外の理事の中から議長１名，副議長１名を互選により選出する．
２　議長および副議長の任期は１年とし再任はさまたげない．
３　副議長は議長を補佐し，議長に事故あるときにはその職務を代行する．

第３章　理事の職務権限等
（執行理事の特命ならびに担当職務）
第５条　理事会は，執行理事が業務の執行を担当する事業部会と業務委員会の担当職務を指定する．
２　理事会は，必要に応じて執行理事に特命職務を指定できる．
３　執行理事の特命ならびに担当職務は，理事任期中とする．

（執行理事の職務権限）
第６条　執行理事は，特命ならびに担当業務の執行にあたっては理事会議決内容に沿ってこれを行い，理事会の議決を要する業務の執行は行わない．業務の執行状況ならびに結果は随時執行理事会および理事会に報告する．
２　執行理事全員に対し執行理事会に報告するべき事項を通知した場合には，執行理事会への報告を要しない．

（理事の取引の制限）
第７条　理事は，定款第39条第１項各号に定められた取引を行う場合には，以下の各号に従い理事会に報告し，その承認を得なければならない．
(1) 理事は，理事会に対し取引の内容，取引の当事者，その取引と学会ならびに学会の事業との関係，取引を行おうとする理事と学会の利益相反に関する内容などの重要な事実を開示しなければならない．
(2) 理事会は報告を受けて直ちに審議を行い，その取引の諾否を決める．取引を行おうとする理事は，理事会の審議の場で詳細な説明を求められた場合にはそれに答えなければならない．
(3) 承認を得た取引について，これを行った理事は，その結果を直近の執行理事会に報告するとともに理事会に報告する．
２　事前に理事会の承認を得ずに行われようとする定款第39条第１項各号に定められた取引は，いかなるに理由によっても学会はこれを行わず，追認も行わない．

第４章　執行理事会
（構成）
第８条　理事会は，業務を執行するために執行理事会を設置する．執行理事会は，会長，副会長，常務理事，副常務理事ならびにその他の執行理事により構成する．

（招集および開催）
第９条　執行理事会は，定例日を定めて会長が招集し，年10回程度開催する．
２　執行理事会の構成員が議題を定めて執行理事会の開催を要請した場合，会長は臨時執行理事会を招集する．
３　執行理事会の審議の一部は，会長が認める場合には電磁的方法により行い，審議に加わることのできる執行理事の全員が，書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは，議決することができる．その結果は直近の執行理事会議事録に記録されるものとする．
４　事前に傍聴を希望した会員は，執行理事会に陪席することができる．また，執行理事が必要とし会長が認める者を招聘することが出来る．

（定足数および議決）
第10条　執行理事会は，構成員の３分の２の出席をもって開催が成立する．
２　執行理事会の議事に対して事前に書面ないし電磁的方法により，意思の表明あるいは委任状を提出した者は出席者と見なす．

（議事範囲）
第11条　執行理事会は，以下の各号に示す事項を議決できない．
(1) 各事業年度の事業計画および予算案
(2) 各事業年度の収支決算書および財産目録についての会計監査報告
(3) 各事業年度事業報告および収支決算報告
(4) 理事会が設置した委員会などの答申内容

(5) 名誉会員の推薦，学会表彰等の候補者の決定
(6) 会員の除籍，除名
(7) その他理事会専決事項と理事会が設定すること

(運営と報告)
第12条　執行理事会の議長は，常務理事または副常務理事がこれにあたる．両者が欠席の場合には，会長の指名する執行理事がこれにあたる．
2　執行理事会の議決は，議長を除く出席者の過半数をもって決する．
3　執行理事会の議事録は議長以外の者が作成し，執行理事に電磁的方法により回覧の上で，出席者２名の署名を持って確定する．
4　確定した執行理事会議事録は，電磁的方法により速やかに理事会ならびに監事に報告するとともに，ホームページならびにニュース誌により会員に通知する．

第５章　理事会の組織
(事業部会)
第13条　理事会は，執行理事会の下につぎの事業部会をおく．
(1) 運営財政部会
学会の事務および財政の運営を担当する．業務委員会として，総務委員会，会計委員会をおく．
(2) 広報部会
学会のホームページ管理，ニュース誌等の発行を含む広報活動を担当する．業務委員会として，広報委員会をおく
(3) 学術研究部会
学会の学術研究，地質学に係る各種基準の策定・整備および国際交流の推進を担当する．業務委員会として，行事委員会，専門部会連絡委員会，国際交流委員会，地質基準委員会，地層名委員会を置く．また，各種研究委員会との連絡，調整を図る．
(4) 編集出版部会
学会が出版する地質学雑誌，Island Arc等の企画編集，関連学会との連絡調整，出版を担当する．業務委員会として，地質学雑誌編集委員会，Island Arc編集委員会，企画出版委員会をおく．
(5) 社会貢献部会
学会が行う地質学の普及・教育活動その他の社会貢献活動を担当する．業務委員会として，JABEE委員会，技術者継続教育委員会，地学教育委員会，生涯教育委員会をおく．

2　理事会は，各事業部会の担当執行理事を定めて部会長とする．部会長は事業部会を代表・統括する．
3　業務委員会は委員長および若干名の委員から構成され，委員長および委員は正会員の中から部会長の推薦により理事会が選出し，会長が委嘱する．任期は２年とし，再任はさまたげない．

(理事会に置くその他の組織)
第14条　理事会は，恒常的な業務運営のためにつぎの組織をおく．それぞれの組織の構成，任務，運営の詳細は理事会が別途定めるとともに，関連する執行理事会の各事業部会，業務委員会と連携して活動する．
(1) 支部長連絡会議
(2) 地質災害委員会
(3) 名誉会員推薦委員会
(4) 各賞選考委員会
(5) 男女共同参画委員会
(6) ジオパーク支援委員会

(専門部会)
第15条　定款第65条に基づき，地質学の専門分野の研究を恒常的に推進するために学術研究部会の下に専門部会をおく．
2　専門部会は，理事会の議決により発足する．
3　専門部会は，代表者（専門部会長）と専門部会に属する会員とからなり，専門部会が別途定める規則にしたがい運営される．
4　専門部会が定める規則は理事会の承認を必要とし，専門部会は年度ごとに代表者氏名，連絡先，活動内容と活動方針等必要事項を理事会に報告しなければならない．
5　専門部会の活動において経費を要する場合は，事業計画および予算案を事業年度開始1ヶ月前までに執行理事会に提出し，理事会の承認を得ることを原則とする．事業終了後は報告書を提出する．
6　専門部会に入会を希望する会員は専門部会代表者もしくは学会事務局に申し出る．会員は１つ以上の専門部会に所属することができる．
7　理事会が当該専門部会の廃止を適当と認めた時には，理事会の議決により，これを廃止することができる．

(研究委員会の設置・承認・解散等)
第16条　理事会は，定款第66条に基づき必要な研究委員会をおくことができる．会員の要請による場合には，つぎの内容を記した設立趣意書を理事会に提出し，承認を得るものとする．
(1) 研究題目
(2) 研究委員会を必要とする理由
(3) 研究委員会設置予定期間
(4) 設置年度の事業と経費予算
(5) 代表者氏名，連絡先および予定される委員名
(6) 研究委員会規約案
2　理事会は，設置する研究委員会の担当理事を定める．必要に応じて，正会員の中から委員を選出する．
3　第１項第６号の研究委員会規約案は，理事会において審議し決定する．
4　研究委員会の設置期間は最大２年とし，委員長を含む委員の任期も２年とする．
5　研究委員会は，毎年度ごとに事業活動の報告ならびに設置申請事項の変更を理事会に行うものとする．設置から２年を経過する委員会は，事業活動の報告とともに以後の研究委員会の継続の有無について，理事会に報告し，承認を得ることとする．
6　研究委員会は，その活動において経費を要する場合は，事業計画および予算案を前年度末までに執行理事会に提出し，理事会の承認を得ることを原則とする．事業終了後は報告書を提出する．
7　理事会は，以下の場合に研究委員会を解散することができる．
(1) 設置の目的が達成されたとき
(2) 委員会設置期間が満了となったとき
(3) 委員長が解散を希望し，担当執行理事が妥当と認めたとき
(4) 委員会が本来の目的を達成しえないと理事会が認めたとき

附則　本規則は2009年４月11日より施行する．

一般社団法人日本地質学会総会規則（案）

(目的)
第１条　一般社団法人日本地質学会定款（以下定款という）第31条に基づき，総会運営に必要な事項を本規則で定める．

2　本規則の変更は理事会の議決によって行い，総会に報告し承認を求める．

（議決権行使書）
第２条　定款第28条第１項に基づき，総会の議案につき書面または電磁的方法により議決権の行使をしようとする者は，以下の各事項を記載した議決権行使書を執行理事会に提出しなければならない．
(1) 総会開催日
(2) 議決権行使書の作成日および提出日
(3) 各議案についての賛否あるいは保留の意見
(4) 議決権を行使する代議員の氏名及び所属
2　議決権行使書に賛否あるいは保留等の意思表示を明記しない議案があるとき，または，議案の重大な修正や緊急議案が出された場合，当該議案については出席代議員の多数の意思に従ものとみなすこととする．
3　同一代議員から複数の議決権行使書が提出されたときは，作成日付の新しいもの（同日の場合は提出時間の先後による）を正しい議決権行使書とし，それ以前のものは撤回されたものとする．
4　議決権行使書による意思表示を撤回する場合は，本条第１項の各号及び撤回の旨を記載した書面を執行理事会に提出しなければならない．

（議決権の代理行使）
第３条　定款第28条第１項に基づき，代議員は他の代議員を代理人として議決権を委任できる．委任者，あるいは代理人は，以下の事項を記載し，委任者が署名または記名押印した委任状を，総会開催前に執行理事会に提出しなければならない．
(1) 総会開催日
(2) 委任状作成日および提出日
(3) 委任者の氏名及び所属
(4) 代理人の氏名及び所属
2　委任は，開催通知のあった総会ごとにおこなうものとし，未通知の総会に対しあらかじめ委任状を提出しておくことはできない．
3　代理人を特定しない委任状が提出されたとき，理事会は，委任者が出席代議員の多数の意思に従うものとして取り扱うことができる．

（代理できる人数等）
第４条　代理人が代理できる人数は，１代議員１名とする．
2　１名の代議員に複数の委任がなされたときは，当該代理人によって１名の委任を選択する．選択しなかった委任については，委任を無効とする．

（議決権行使書，委任状の書式，及び提出方法等）
第５条　定款28条１項の行使においては，本規則に定める書面または電磁的方法によって行うものとし，口頭によって行うことはできない．
2　理事会は，総会毎に議決権行使書，委任状の書式を作成し，代議員に提示する．
3　議決権行使書または委任状は，送付して提出するほか，FAXおよび電磁的方法により提出することができる．
4　議決権行使書を提出した者は，重ねて委任状を提出することはできない．
5　委任者が，議決権行使書を提出したときは，委任を撤回したものと見なす．

（議決権行使書および委任状提出者の出席）
第６条　議決権行使書を提出した者，または委任者が当該総会に出席したときは，本人出席と取り扱い，提出した議決権行使書による意思の表示または委任は撤回したものと見なす．

（代理人の議決権行使方法）
第７条　委任を受けた代議員は，本人として議決権を行使するのとは別に，代理人として１名分の議決権を行使することができる．

（定足数における取扱い）
第８条　第２条により議決権行使書を提出して，同条第２項による議場委任の意思表示をしていないときは，議案に重大な修正が施された場合の当該議案及び当日提出の議案については，定款28条に定める総会出席者として取り扱うことはできない．

（総会の開閉会）
第９条　総会の開会，休憩，延会および閉会は，議長が宣告する．

（議案の一括上程）
第10条　議長が審議上必要と認めたときは，２件以上の議案を一括して審議することができる．但し，異議のあるときは会議にはかって決める．

（議案の説明）
第11条　総会議案について，提出者はその説明をしなければならない．

（発言）
第12条　代議員は，議案について自由に質疑し，意見をのべることができる．
2　代議員が発言しようとするときは，議長の許可を受けなければならない．
3　定款第23条４項により出席した会員等は，代議員等の要請に基づき，これを議長が許可しなければ発言できない．
4　発言はすべて簡明にし，その議案の範囲をこえないようにする．

（緊急動議）
第13条　あらかじめ議案として提示されていないすべての緊急動議は，出席代議員の２人以上の同意がなければ，これを議案とし審議することができない．
2　緊急動議が競合したときは，議長が採決の順序を定決める．但し，議場から異議があるときは，総会の議決を求めて決定する．

（採決）
第14条　議案の採決は，挙手または投票によるものとする．但し，議長が必要と認め，出席代議員の合意が得られた場合には，そのほかの方法によることができる．
2　出席代議員の３分の１以上の要求があった場合の採決は，投票とすることができる．

（議事録）
第15条　書記は２名とし，総会ごとに議長が指名する．
2　議事録は，議長が指名した２名以上の出席代議員が署名しなければならない．
3　議事録には，次の事項を記載する．
(1) 総会の日時及び場所
(2) 出席及び欠席代議員の氏名
(3) 総会に付した議案の題目
(4) 動議及びその提出者の氏名

(5) 議決議案及び賛否の数
(6) 議事の要領
(7) 採決の要領
(8) その他議長が必要と認める事項

附則
本規則は，2009年○月○日から施行する．

一般社団法人日本地質学会選挙規則（案）

（目的）
第１条　一般社団法人日本地質学会定款（以下定款という）第14条にもとづいて本規則を定める．

（規則の変更）
第２条　この規則の変更は，理事会の議決によって行い，総会に報告し承認を求める．

（選挙の実施）
第３条　代議員ならびに役員の選出作業は，別途定める一般社団法人日本地質学会選挙細則（以下選挙細則という）に則り，選挙管理委員会が行う．

（代議員選挙）
第４条　代議員選挙は正会員による無記名投票とし，２年ごとに全定数を改選する．
２　代議員の選挙定員は，地方支部区100名，全国区100名からなるものとする．
３　各地方支部区の定員は，選挙告示１ヶ月前の各支部の正会員数に応じて比例配分する．定員確定後に会員の移動等のため届出所属が変わった場合でも，次期選挙までの地方支部区の定員割り当て数は変更しない．また，そのことにより実質減数となる地方支部区の定員補充は行わない．
４　代議員候補者は正会員とし，自薦および本人の承諾書を付帯する他薦とする．立候補者は別途定める選挙細則に則り，参考事項を記した立候補届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．立候補届の提出にあたり，選挙管理委員会は全国区代議員候補者の中で会長・副会長立候補の意図のある正会員の意思表示を，別途定める方法により受け，代議員選挙活動期間開始前に全会員に開示することとする．
５　全国区選出代議員の選出にあたっては，付表の所属別定員充足数を満たすこととする．
６　選挙管理委員会は，選挙細則に則り，結果を開示するとともに総会に報告しなければならない．
７　選挙管理委員会の報告を受けた総会において代議員選挙結果は確定する．
８　当選後に地方支部区選出代議員の移動や所属別定員充足数票の組織の変更等により，届け出所属が変わった場合には，当該代議員の選出地方支部区が変更される．
９　代議員が任期中に何らかの理由で欠員となった際には，地方支部区選出代議員の補充に際しては次点者，全国区選出代議員の補充に際しては付表の所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる．次点者が存在しない場合には欠員とする．

（役員選挙）
第５条　役員選挙は理事および監事を選出するものとし，代議員による無記名投票により，２年ごとに全定数を改選する．
２　理事の選挙定員は50名，監事は２名とする．
３　理事の定員のうち，各代議員地方支部区から代議員選挙得票数上位１名を地方支部選出理事とする．
４　理事候補者はその年度に選出された全国区代議員とし，候補者は別途定める選挙細則に則り，参考事項を記した候補者届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．
５　監事候補者は，理事会が推薦する者と会員からの立候補者を対象とし，理事会および候補者は別途定める参考事項を記した候補者届けを，所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．
６　当選理事の決定の際には，定員にいたる残りの選出数に対しては，付表の所属別定員充足数を満たすこととする．
７　選挙管理委員会は，選挙細則に従って，結果を開示するとともに総会に報告しなければならない．
８　選挙管理委員会の報告を受けた総会において役員選挙結果は確定する．
９　当選後に地方支部区選出理事の移動や所属別定員充足数票の組織の変更等により，届け出所属が変わった場合には，当該理事の選出地方支部区が変更される．
10　理事が任期中に何らかの理由で欠員となった際には，地方支部区選出理事の補充に際しては次点者，全国区選出理事の補充に際しては付表の所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる．次点者が存在しない場合には欠員とする．
11　監事のいずれかが任期中に何らかの理由で欠員となった際には，選挙による次点者を繰り上げ，次点者が存在しない場合には理事会が後任を推薦し，総会での承認を得る．

（無投票選挙の指定）
第６条　役員選挙にあたり，立候補者数が定数を越えない場合には，無投票当選とする．
２　理事の選出にあたっては，無投票当選とした結果，各代議員地方支部区から複数の選出者が出た場合には，各地方区ごとの代議員選挙の得票数の最上位１名を地方支部選出者とみなす．

（選挙実施細目）
第７条　定款ならびに本規則に定められたもの以外の，選挙の実施手続き等については，別途定める選挙細則および選挙管理委員会規約によるものとする．

附則
（発足時の代議員）
2010年度選挙が実施されるまでの代議員には，任意団体日本地質学会の2008年度代議員があたるものとする．
（発効）
本規則は，2009年○月○日から施行する

付表

所属	備考	最低充足数全国区	
		代議員	理事
大学	大学付属博物館を含む	12	6
小中高	教育センター等を含む	12	6
官公庁等	公団，行政法人，博物館等を含む	12	6
会社	社団，財団，NPO法人等を含む	12	6
大学院生	研究生を含む	4	2

報告書等の作成に関して―知っておくべきこと―

日本地質学会理事会・法務委員会

知的財産基本法が制定され，それに伴い著作物等の保護について厳格に法規制されておりますことは周知の事実でありますが，地質学会においてもコンプライアンス面からも，知的財産基本法を遵守しております．

研究成果の報告書作成に当たり，地質学雑誌等の論文を複製・転載する場合は，必ず学会の許諾を取っていただく必要があります．以下に報告書等の作成に当たり必要な手続きについてお知らせいたします．

1．お願い

研究成果等の報告書作成にあたり，共同研究者の論文や関連の論文を掲載する場合は，以下の通りに地質学会の許諾が必要です．販売等を目的にしない報告書を作成される場合は，論文の複製を学会側が拒否する可能性はほとんどないものと思いますが，必ず，学会から許諾を取ってください．その場合，報告書等には，「複製については＊＊学会の許諾を得た」と記載しておく必要があります．

2．投稿中の論文査読に関連する文書について

なお，論文の公表，未公表の段階によらず，投稿論文の査読に関わる文書類は査読者の著作物に当たります（著作権法により保護されます）ので，必要な手続き無しに著者が公開する事は違法となる恐れがあります．ただし，当該団体の編集規則に査読文書類の取り扱い規定があれば，それに従うことになるものと思います．

3．論文等の著作権について（説明）

地質学雑誌掲載論文の著作権は，著者から著作権譲渡に同意してもらっていますので学会にあります．地質学会では，地質学雑誌等に掲載した論文の一部を著者自身が使うことについては許諾不要としました．ただし，論文全部をまるごと複製することには同意していませんので，全部を複製する場合は学会の許諾を必要とします．つまり，報告書等に論文をまるごと無許可で掲載すれば違法となります．

また，地質学会以外で発表した論文等で，著作権を自分が持っている場合でも（契約書に期間が定められていなければ），出版元には独占出版権が３年間あります．執筆して３年以内のものについては，特定の規定がない限り，まるごと複製，転載する場合には許諾が必要であると思われます．

参考：著作権法（昭和45年法律第48号　1971年１月１日施行），知的財産基本法（平成14年法律第122号　2003年３月１日施行）では以下の通りに定められています．

著作権法は，「著作物並びに実演，レコード，放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め，これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ，著作者等の権利の保護を図り，もつて文化の発展に寄与することを目的としている」ものです．

知的財産とは，知的財産基本法第二条に定義されており，以下の条文となっています（抄）．

第２条　この法律で「知的財産」とは，発明，考案，植物の新品種，意匠，著作物その他の人間の創造的活動により生み出されるもの（発見又は解明がされた自然の法則又は現象であって，産業上の利用可能性があるものを含む.），商標，商号その他事業活動に用いられる商品又は役務を表示するもの及び営業秘密その他の事業活動に有用な技術上又は営業上の情報をいう．

２　この法律で「知的財産権」とは，特許権，実用新案権，育成者権，意匠権，著作権，商標権その他の知的財産に関して法令により定められた権利又は法律上保護される利益に係る権利をいう．

学会オリジナルフィールドノート
好評発売中！！

サイズ：12×19cm．ハードカバー，ビニールレザー加工，金箔押し．
カラー：チョコレートブラウン．
用紙は野外調査に最適な，雨に濡れても丈夫な高級紙・レインガードを使用しています．是非ご活用下さい．
ご購入を希望の方は，学会事務局まで．　会員頒価　500円／冊．

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

2010～2011年開催藤原セミナー募集

趣旨　藤原科学財団は，科学技術の振興に寄与することを目的として，「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から，下記募集要項に基づいて申請を受け，選考の結果採択を決定したものについて，セミナー開催に必要な経費を援助いたします．

対象分野：自然科学の全分野
応募資格：わが国の大学等学術研究機関に所属する常勤の研究者
開催件数：２件以内
開催費用援助額：１件につき　12,000千円以内（総額　24,000千円以内）
セミナーの要件：
(1) セミナーは，国際的にも学問的水準の高いものとし，そのテーマはなるべく基礎的なもので，関連分野を含めた発展に寄与するものであること．但し二国間会議，定期的に行われる国際会議，およびその準備会は対象としない．(2) 参加者は，50～100人程度とし，外国人研究者が参加者の５分の１程度含まれること．なお，国内外の優れた研究実績を有する若い専門研究者の参加を奨励する．**(3) セミナー開催対象期間は，2010年１月～2011年12月末日（4）セミナーの開催地は，日本国内であること．（原則として北海道苫小牧市或いは旭川市で開催）**(5) セミナー開催日数は，２－４日以内とする．(6) 参加者が，セミナー開催期間中，起居を共にすることを原則とし，計画された講演・討論のほか，個人的な討論など自由な雰囲気で学問的な交流と人間的接触を深め，永続する協力の基盤を作るようなものであること．

申請受付期間：**2009年４月１日（水）～７月31日（金）（必着）**

申請の方法：
　セミナー開催希望者は，「藤原セミナー開催申請書」（１通）を，所属組織長を経由して当財団に提出すること．尚，著名な参加予定者については，セミナーのテーマに関する主要論文（５名以内１人につき１篇，コピーで可）を添付のこと．

申請書提出先・連絡先：
〒104-0061　東京都中央区銀座３-７-12
（財）藤原科学財団
TEL（03）3561-7736
FAX（03）3561-7860
http://www.fujizai.or.jp

第６回（平成21年度）日本学術振興会賞受賞候補者推薦募集

１．趣旨　我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには，創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し，その研究意欲を高め，研究の発展を支援していく必要があります．この趣旨から日本学術振興会は，平成16年度に日本学術振興会賞を創設しました．
２．対象分野　人文・社会科学及び自然科学にわたる全分野
３．授賞　授賞数は20件程度とし，受賞者には，賞状，賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します．なお，日本学士院により，日本学術振興会賞受賞者の中から日本学士院学術奨励賞受賞者が選考されます．
４．対象者　国内外の学術誌等に公表された論文，著書，その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち，平成21年４月１日現在以下の条件を満たす者とします．
１）45歳未満であること　２）博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含みます．）　３）外国人の場合は推薦時点において我が国で５年以上研究者として大学等研究機関に所属しており，今後も継続して我が国で研究活動を予定していること（なお，日本国籍を有する者の場合はこの条件を問いません．）
５．受付期間　**2009年５月26日（火）～28日（木）（必着）**
（学会推薦受付締切：５月14日（木）学会推薦です．自薦はありません．）
６．推薦書類の提出先及び問い合わせ先
〒102-8472　東京都千代田区一番町８番地
独立行政法人　日本学術振興会
総務部　研究者養成課「日本学術振興会賞」担当
TEL　03-3263-0912　FAX　03-3222-1986
http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

電力中央研究所地球工学研究所研究職募集

職種および人員：研究職　１名
専門分野：構造地質学．特に断層岩の解析などに基づく活断層抽出手法の開発や，地質構造指標と断層破壊挙動を考慮した活断層連動性評価手法の開発に取り組む方．地質調査を基本としつつ，物質科学や破壊力学等の知識を導入して，新たな震源断層評価手法の開発に積極的に取り組む意欲を有する方．

応募資格：平成22年３日末時点，修士または博士課程修了者（新卒・既卒いずれも可）

着任時期：平成22年４月１日

応募締切：決定次第締切

詳細は，以下をご参照下さい．
http://criepi.denken.or.jp/jp/recruit/10/saiyo/kadai.html#06

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設教員公募

１．職種・人員：京都大学大学院理学研究科教授（１名）
２．専門分野：地熱流体論研究分野
　地熱流体の循環や地熱流体を通してのエネルギーと物質輸送過程に関する研究・教育を推進できる方．なお，理学研究科では，第一期の中期目標・計画として，研究科附属施設の整備を進め，教育研究の高度化に資することとしてきた．また，21世紀COEプログラム「活地球圏の変動解明：アジア・オセアニアから世界への発信」において，地球熱学研究施設は地球惑星科学専攻の一員として「水・熱フロー」をキーワードとした多目的野外観測拠点を形成し，活地球圏における物質とエネルギーの循環過程の理解を深めるとともに，京都キャンパスにおける地球熱学の基盤教育研究拠点を形成して若手研究者育成に努めてきた．これらの観点から，本施設が位置する九州地域の火山や熱的特性を活かした研究・教育や京都キャンパスでの教育・研究の進展に寄与できる方が望ましい．採用後は，大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育・研究に従事する．
３．着任地・時期：地球熱学研究施設，主な勤務地は地球熱学研究施設本部（別府）採用決定後，できるだけ早い時期
４．応募資格：博士学位を有すること
５．応募書類：
(1) 履歴書（氏名，生年月日，年齢，現住所，連絡先およびe-mail，高校卒業後から最終学歴まで，職歴，資格等）博士学位（名称，取得大学，取得年月日，論文名）
(2) 研究業績目録：A．査読のある論文や総説/B．査読のない論文や総説/C．著書/D．その他の出版物等で特に参考となるもの
(3) 主な論文の別刷りまたは著書　５編（複写可）
(4) これまでの研究経過（2000字程度）（主な論文にあげた内容を含むこと）
(5) 今後の研究の計画と抱負（2000字程度）

(6) 本人について参考意見を述べられる方２名の氏名・連絡先
6．応募締め切り：**2009年５月22日（金）必着**
7．書類の送付および問い合わせ先：
〒874-0903　大分県別府市野口原
京都大学大学院理学研究科
附属地球熱学研究施設　竹村　恵二
電話　0977-22-0713（別府）
075-753-3940（京都分室）
e-mail　takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp
施設の概要はホームページ http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp/をご覧ください．

公募結果

京都教育大学教育学部理学科 准教授
中野英之氏（獨協埼玉中学高等学校教諭）に決定．（2009年４月１日着任）．

新潟大学教育研究院自然科学系自然構造科学系列　助教
栗原敏之氏（新潟大学自然科学研究科博士研究員）を採用．2009年２月２日付）．

CALENDAR

2009.5～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2009年

5月　May

☆関東支部地質見学会
５月９日（土）
見学場所：茨城県平磯海岸（茨城県ひたちなか市）
申込締切：４月10日（金）
費用：大人3,000円程度
http://kanto.geosociety.jp/

☆関東支部第５回地質技術伝承講演会
５月10日（日）地質の日14：00～
場所：国立科学博物館日本館大会議室
http://kanto.geosociety.jp/

☆日本地質学会第116年総会および一般社団法人第１総会
５月17日（日）17：45～19：30
場所：幕張メッセ国際会議場
http://geosociety.jp

◯日本地球惑星科学連合2009年大会
５月16日（土）～21日（木）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.jpgu.org/

◯日本地下水学会50周年記念講演会
地球の未来、地下水の役割
５月29日（金）
場所：日本科学未来館（東京都江東区）
http://jagh.jp/

◯日本地下水学会2009年春季講演会
５月30日（土）（記念講演会・式典の翌日）
場所：東京大学駒場キャンパス
http://jagh.jp/

☆北海道支部総会・個人講演会
５月30日（土）13：30～（予定）
場所：北海道大学理学部７号館（予定）
http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html

6月　June

☆関東支部総会・地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム・研究発表会
６月６日（土）
会場：国立科学博物館新宿分館（予定）
http://kanto.geosociety.jp/

☆2009年中部支部年会のお知らせ
６月13日（土）総会・シンポジウム・懇親会
６月14日（日）地質巡検
会場：山梨大学教育人間科学部講義棟
シンポジウム：「フォッサマグナ地域の地殻変動現象と中部地方の最新情報」

◯地質学史懇話会
６月20日（土）13：30～17：00
場所：北とぴあ803号室（東京都北区JR王子駅下車３分）
諏訪兼位「坪井誠太郎の生涯と業績」/山田直利「ナウマンの予察東北部地質図」

◯GEOINFORUM-2009
第20回日本情報地質学会総会・講演会
６月25日（木）～26日（金）
会場：沖縄県青年会館
http://www.jsgi.org/

7月　July

◯第46回アイソトープ・放射線研究発表会
７月１日（水）～３日（金）
会場：日本科学未来館（東京都江東区）
http://www.jrias.or.jp/

8月　August

◯ZMPC2009国際会議
International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009
８月３日（月）～７日（金）
会場：早稲田大学（東京都新宿区）
http://www.zmpc.org/

9月　September

☆日本地質学会第116年学術大会
９月４日（金）～６日（日）
会場：岡山理科大学ほか
http://geosociety.jp

◯第3回国際地学オリンピック台湾大会（国際大会）
９月14日（月）～22日（火）（予定）
場所：台湾
http://www.jeso.jp/

◯2009年度日本地球化学会年会
９月15日（火）～17日（木）
会場：広島大学理学部
共催：日本地質学会ほか
http://www.geochem.jp/index.html

紹　介

図説　地球の歴史

小泉　格　著

2008年６月20日発行，朝倉書店，
143ページ，定価3400円＋税，
ISBN978-4-254-16051-2

本書は，著者による海洋環境の変化と変動に関する講義（古海洋学）の内容を教科書としてとりまとめたものである．書名に図説とあるように，ビジュアルな図や写真が多く使用されており，その数は口絵を含めると109枚に及ぶ．

目次：
1．深海掘削
2．中生代
3．新生代
4．第四紀
5．一次生産における有機物の生成と二酸化炭素
6．珪藻質堆積物の形成と続成作用
7．南極と北極
8．日本海

本書は，平凡な古海洋学教科書ではない．はしがきでは，「観察事実がどのような過程を経て理論化されるに至ったかに意を用いた... 言及されることの少ない研究成果の中には，『パラダイムの確立』と呼ばれるその後の研究のひな形となったものや新しい研究の転機となったものなどがある」とあり，深海掘削の継続による組織的な観察，研究素材の提供，知見の蓄積が，地球環境を予測する新しい学問分野の確立につながったとする著者の視点が述べられている．多くの教科書では，画期となった研究の成果のみを取り上げるが，本書では，画期となる研究を生み出すことに踏み台として役立った研究や事業も取り上げることにより，古海洋研究がどのように推進されてきたかを示すことを意図している．

第１章の「深海掘削」では，1968年に始まった深海掘削計画の経緯が解説されている．プロジェクトの各段階での目的と成果，それを支えた技術の進歩，組織化，プロジェクトをとりまく状況について総括的な解説が行われている．計画の初期段階から関わっていた著者にしかできない，人肌感覚の解説であり，貴重である．深海掘削の歴史を展望するうえで，この章に書かれていることは大変有益である．

第２章から第４章では，白亜紀以降の地球環境の変遷について，時代により濃淡はあるが，網羅的に記述している．第４章の完新世変動では，気候と太陽放射量の関係について熱のこもった記述がなされており，著者が早い時期から，太陽放射量変動の気候変動にたいする影響を主張されていたことを思い起こさせられる．

第５章，６章は，地球環境の将来予測のうえで重要な，海洋物質循環に関する解説である．第６章では，珪藻の進化が，海洋循環の変化と密接に関わっていたとする見解が述べられており，読み応えがある．

第７章，８章では，極域と日本海の環境変遷について，研究の事例が紹介されている．日本海は著者にとって庭のようなところであり，当然記述は詳しく，示唆に富んでいる．

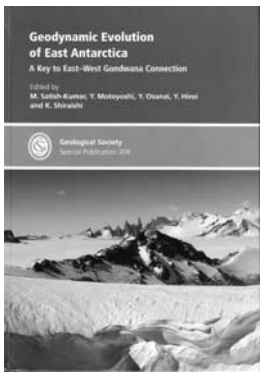
一連の研究の流れを記述しようとすると，紙数の制約から，特定の対象のみを取り上げざるを得なくなる．逆に，対象を網羅的にしようとするならば，高校の教科書のように，研究の経緯は大幅に省略せざるを得なくなる．両者はなかなか両立しない．本書では，初学者むけのたとえ話などを徹底的に省くことにより．これを両立させている．

本書は，海洋掘削により明らかにされた白亜紀以降の海洋環境の変遷を網羅的に解説している．古海洋学を志す学生，研究者の方々，海洋掘削の歴史を概観したい方々に読んでいただきたい本である．

（山本正伸）

Geodynamic Evolution of East Antarctica: A Key to East-West Gondwana Connection

Edited by M. Satish-Kumar, Y. Motoyoshi, Y. Osanai, Y. Hiroi and K. Shiraishi



2008年出版　Geological Society, London,
Special Publication No.308, 456p.
£100，ISBN978-1-86239-268-7

日本が1957年に国際南極観測に参加してから50年以上が経過し，国際極年IPY2007-2008の日本事業の一つとして，本書が出版された．この50年間に，約100名の地質学研究者が昭和基地を中心とした東南極地域の地質調査にたずさわり，リュツォホルム湾，プリンスオラフ海岸，大和山脈，ベルジカ山脈，セールロンダーネ山脈，エンダービーランド，ドロンイングモードランドの地質を明らかにしてきた．この50年間に地質学・岩石学はプレートテクトニクスの発展とともに急速に目覚ましい発展をしており，東南極の地質学もこの例外ではなく，ゴンドワナ超大陸の発達史の解明とともに進んできた．

本書は日本隊の成果を集大成しており，これまでの成果の確認，今後の課題の把握，そして新しい研究者への導入書として，大変価値のあるものとなっている．本書を執筆した研究者は日本国内31名，外国24名，合計55名のそうそうたるメンバーである．日本国内の研究者は国立極地研究所に集うオールキャストの布陣である．南極での地質調査は地理的にも，気象的にも厳しいところであり，日本隊はチャレンジ魂をもって大変な苦労を重ねて調査してきた．その成果と力量が今本書によって世界に問われようとしている．

他方，南極地質学の研究には長年にわたる継続的な調査が不可欠であることから，次世代の研究者や指導者を育てることが課題となっており，本書がその役割の一端を担うものと期待されている．

掲載論文は以下のとおりである．この中か

らいくつかを紹介したい．

1．Geosciences research in East Antarctica（0°E-60°E）（EAと略記）: present status and future perspectives.
2．Geochronological constraints on the Late Proterozoic to Cambrian crustal evolution of eastern Dronning Maud Land, EA: a synthesis of SHRIMP U-Pb age and Nd model age data.
3．Early Paleozoic orogenic collapse and voluminous late-tectonic magmatism in Dronning Maud Land and Mozambique: insights into the partially delaminated orogenic root of the East African-Antarctic Orogen？
4．Terrane correlation between Antarctica, Mozambique and Sri Lanka; comparisons of geochronology, lithology, structure and metamorphism and possible implications for the geology of southern Africa and Antarctica.
5．An overview of geological studies of JARE in the Napier Complex, Enderby Land, EA.
6．Macroscopic geological structures of the Napier and Rayner Complexes, EA.
7．Pre-metamorphic carbon, oxygen and strontium isotope signature of high-grade marbles from the Lützow-Holm Complex, EA: apparent age constraints of carbonate deposition.
8．Post-peak（<530Ma）thermal history of Lützow-Holm Complex, EA, based on Rb-Sr and Sm-Nd mineral chronology.
9．Elastic properties of high-grade metamorphosed igneous rocks from Enderby Land and eastern Dronning Maud Land, Antarctica: evidence for biotite-bearing mafic lower crust.
10. Early to middle Proterozoic dykes in the Mt. Riiser-Larsen area of the Napier Complex, EA: tectonic implications as deduced from geochemical studies.
11. Magmatic evolution and tectonic setting of metabasites from Lützow-Holm Complex, EA.
12. Geochemistry of post-kinematic mafic dykes from central to eastern Dronning Maud Land, EA: evidence for a Pan-African suture in Dronning Maud Land.
13. Geodynamic evolution of Mt Riiser-Larsen, Napier Complex, EA, with reference to the UHT mineral associations and their reaction relations.
14. Early Palaeozoic metasomatism of the Archaean Napier Complex, EA.
15. Carbonic fluids in ultrahigh-temperature metamorphism: evidence from Raman spectroscopic study of fluid inclusions in granulites from the Napier Complex, EA.
16. Origin of xenocrystic garnet and kyanite in clinopyroxene-hornblende-bearing adakitic meta-tonalites from Cape Hinode, Prince Olav Coast, EA.
17. Kornerupine sensu stricto associated with mafic and ultramafic rocks in the Lützow-Holm Complex at Akami Point, EA: what is the source of boron？
18. Sapphirine＋quartz association in garnet: implication for ultrahigh-temperature metamorphism in Rundvågshetta, Lützow-Holm Complex, EA.
19. Crystal size distribution of garnet in quartzo-feldspathic gneisses from the Lützow-Holm Complex at Skallen, EA.
20. Contrasting metamorphic P-T path between Schirmacher-Hill and Mühlig-Hofmannfjella, central Dronning Maud Land, EA.
21. Empirical thermometer of TiO_2 in quartz for ultrahigh-temperature granulites of EA.
22. Fe^{2+}-Mg partitioning experiments between orthopyroxene and spinel using ultrahigh-temperature granulite from the Napier Complex, EA.

論文１は，50年間におよぶ東南極地域の地質調査の全体像を総括するとともに，本書に掲載された各論文の位置づけを行っている．南極大陸における日本隊の地理的位置もよくわかる．日本隊の成果の全体像はこの総括を読むことで把握できるようになっており，東南極の地質に詳しくない方でもこの論文を読むと導入として理解しやすくなる．

論文２は，先カンブリア紀の複雑な地史をもつ東南極の地質を信頼性の高い年代値から論じたもので，ここ10年で飛躍的に進歩した年代測定法によって得られたデータセットをもとに，東南極の地質区分とゴンドワナ大陸の発達史との関係を明らかにしたものである．

論文５と６は，日本隊の大きな成果の一つであるナピア岩体についての総括である．ここは世界でも稀な10kb，1100℃を越える超高温変成作用の地域が広く露出する所で，世界の研究者と協力・競争して成果を出している地域である．本書の他の６つの論文でもこの成果が報告されており，最初にこの論文で総合的な理解をしてから，個々の論文を読むことをお薦めする．

論文15は，世界で初めて超高温変成作用における炭素に富む流体包有物を定量分析により研究したものある．論文21は超高温変成作用を受けたグラニュライト中の石英にかなりの量のTiO_2が含まれており，これを用いた地質温度計についての報告である．

本書のもう一つの特徴は引用文献が極めて充実していることである．これは，この分野の研究者にとって大変ありがたい．

（田切美智雄）

超大陸-100億年の地球史

テッド・ニールド著
松浦俊輔　訳

2008年９月23日発行，青土社，318p，
定価：2,730円（税込），
ISBN9784791764426

本書はロンドン地質学会が，2007～2009国際惑星地球年を記念して，書くこととなったと記してある．著者はロンドン地質学会の職員，研究員でもあり，サイエンスライターでもあるTed Nield氏による．ロンドン地質学会は，職員に自由な研究を奨励するような体制になっているということである．

本書には，地質学の歴史や，最新の地球史研究のホットな最前線が数多く紹介してある．科学の動向を学会で働く人がきちんとフォローしてこそ，学会の発展につながる．日本でも是非，そのような体制に近づくようになりたいものだ．優れたポピュラーサイエンスの出版は大事であり，本書の翻訳に対しても大いなる敬意を表したいと思う．

さて，本書で私が極めて印象深かったところを整理して記してみる．超大陸に関わる，さまざまな伝説の中から科学となって行く過程を記しているのであるが，最も重要な事柄の１つは，地質学の方法に関わることであろう．地質学では18世紀以降のハットンとライエルの斉一主義（ユニフォームタリアニズム）によって地質学が科学になったと著者はいう．

斉一主義の中身は，２つの事柄からなる．１つは，現在主義（アクチャリズム）である．「現在は過去を解く鍵」という言葉で知られる．その本質は，物理化学法則は地球（宇宙）のはじまりより変わらない，ということである．もう一つの中身は，過去の地質現象は，現在と同じ強さで過去においても進行した，という見方である．この後半の斉一観は，いまではもはや通用しない．19世紀は，地球が何歳かもわからない時であり，当時は，キリスト教世界の「ノアの洪水説」に科学が対抗する上で，この斉一観は大きな力を発揮した

が，その歴史的役割は20世紀半ばまでに終わった．「生命進化」の世界でも漸進的進化をいうダーウィン流斉一観も今やついえ去ろうとしている．白亜紀末，微惑星衝突と恐竜絶滅説が定着，その後，地球生命進化のカンブリア大爆発や，大量絶滅事件が次々と明らかになるなど，カタストロフィズム（激変事件）がいくつもあったことが今や明らかだ．

では老舗地球科学である地質学，その中心にすわる地球史研究の科学方法論はどうなっているのか？それを本書のテーマである超大陸研究からたどってみよう．本書は，未来地球に関わる２つのモード，「太平洋消滅あるいは大西洋消滅？」からはじまる．日本で流布している未来地球は太平洋消滅だが，大西洋消滅はスコティシュのモデルだ．この２つの未来モードのヒントは過去の超大陸研究からきたものである．

パンゲア超大陸より２つ前の超大陸，10億年前のロディニア大陸分裂から一つ前の超大陸パノティア超大陸の合体過程はextraversionであり，パノティア超大陸からパンゲア大陸の合体に至る過程は，introversionだという．地球未来の超大陸には，この２つのモードの可能性があるということである．extraversionなら太平洋消滅，introversion なら大西洋消滅というわけだ．

Extraversionとかintroversionは，本来外向的か内向的かの人間の性格を表すことばだが，ちょっともじって，人がコートを着ているのを脱ぐ時に，裏返しにして再び着る．それがextraversionである．表裏を返さず，同じ外套を再び着るのがintroversionである．超大陸が形成されるには，個別の大陸の合体が必要であり，個別の大陸の形成には，それ以前の超大陸の分裂が必要だ．その分裂から合体に至る過程に２つのモードがあるというわけである．

プレートテクトニクスの父，T. Wilsonにちなんで，超大陸の繰り返しをDeweyらはWilsonCycleと呼んだが，パンゲア大陸の合体過程は，introversionであったというわけである．次々と斬新な仮説を提案し続ける地質学のスパースター，P. Hoffmanはロディニアにからパノティアに至る過程は，それとは異なるextraversionであることを提案した．そしてこの仮説の検証過程が実は面白い．ここに地球史の科学的証明とはどのようなことかが見事に示されている．

すなわち，１）まず，古典的地質学手法に従い事実の規則性，順序から，ロディニア大陸の分裂と合体過程をextraversionと帰納する．２）帰納されたextraversion仮説から演繹される，これまでに発見されていないが，期待される事実を予測する．３）帰納過程に用いたのとは全く別の新しい方法（この研究ではSm-Nd同位体比による年代決定）によって，新事実を発掘し，仮説を検証する．あるいは反証する．ポパー流の反証可能性を明示的に示しておく事は極めて重要だということである．

この論理過程の方法論は，完全に現在科学の方法である．今後，検証されたextraversionを説明できる全マントル対流物理モデルをシミュレーションすればいい．科学における「帰納過程」の中に新しい大発見への最初の芽（仮説）がある．帰納科学の醍醐味である．

さて今ひとつ，やはり地質学における方法論にからんで，大陸移動説の元祖，ウェゲナーを見てみよう．1930年のウエゲナーの死は，グリーンランドでの遭難であったことは良く知られている．しかし，彼がなぜグリーンランドへ行ったのかということに関して，詳しく言及したものは少ない．本書には，詳しくはっきりとその理由が記されている．彼は，大陸の移動の「観測」のためにグリーンランドへ行ったのである．

ウエゲナーの大陸移動説は，手痛い反論にあっていたことは良く知られている．

１つは，大陸移動のメカニズムがないという物理学者からの攻撃である．そして今ひとつは，都合のいいデータだけつまみ食いしている，それらは別の説明が可能だという主に地質学者からの反論である．特にアメリカの地質学者は，旧世界（大陸）の地質学者の，頭でっかちな議論が嫌いであったという．後者の反発は，検証されないストーリーを組み立てていた古典地質学の世界での無限ループだからわかり易い．

ウエゲナーへの反発の第一の点，「メカニズムがない」ということに関しての本書の議論は面白い．人々が説得され，事実として受け入れるためには，メカニズムを完全に理解しきるからではなく，まぎれもない事実を体験するということだという．たとえば地磁気の逆転メカニズムの完全理解はいまだ到達していないが，それを疑う科学者はいない．地磁気の記録という事実体験が説得性を持っているからだという．ウエゲナーがグリーンランドで求めたものは，大陸移動の体験だったのだ．グリーンランドとユーラシア大陸の分裂の相対運動は経度方向である．それは「星の運動を見れば，両者の距離の変化を観測すれば見えるはず」という，大陸移動の「現在進行形」を検証しようとしたというのだ．これは，地質学に貫いていた「現在主義」そのものである．結果として，彼は遭難してしまう．観測したとしても年間数センチの動きでは，見えなかったはずであり，その意味では観測の結果，大きな挫折を余儀なくされたはずである．が，そこに貫いている方法論は明確だ．大陸移動仮説を導いた過程はまぎれもなく，博物学的，古典地質学的な記載分類にもとづく手法であるが，その仮説検証方法の試みは現代科学であった．地球の年齢さえまともにわかっていなかった時代，とんでもない野心的な挑戦であったのだ．

記載分類的手法は低次であり，理論的手法が高次であると，かつて，日本の地質学界に大きな影響を与えた「科学論」には書いてあった．しかし，科学における観察・観測にもとづく記載分類的手法を主とする帰納過程と，物理化学理論にもとづく演繹過程は車の両輪であり，研究における機能が異なるのだ．予期せぬ大発見の多くは，事実を整理する「帰納過程」にあり，理論から出発し，検証実験も含む「演繹過程」の多くは発見にではなく，事実の定着に貢献するというのが複雑系科学を取り込んだ現代の科学論だ．

森羅万象の複雑な自然から，地質学観察による，あるいは地球物理的観測による，地球にまつわる大発見は，今後もまだまだ続くであろう．本書には雪玉地球などの地球史における最近の発見が満載である．それを単なるストーリーから科学的事実へ押し上げる方法は何であったか？という見方をしながら本書を読むと，別の楽しみ方ができる．

次の大発見は何かが楽しみである．

（木村　学）

書評・献本

下記の献本をいただいています．書評執筆の労をお取りいただける方はNews誌編集委員会までお知らせ下さい．

『江戸・東京地形学散歩』松田磐余著，之潮　2009年３月発行，2,800円（税別），318ページ　ISBN 978-4-902695090

『地球惑星システム科学入門』鹿園直建著，東京大学出版会　2009年４月発行，2,800円（税別），232ページ　ISBN 978-4-130627146

杉山了三会員の受賞を祝し―東レ理科教育賞文部科学大臣賞受賞―

科学技術の基礎研究を助成振興し，科学技術および文化の向上発展に寄与することを目的として1960年に東レ株式会社により設立された（財）東レ科学振興会は，その主な事業として，東レ科学技術賞，東レ科学技術研究助成，東レ理科教育賞，科学講演会の開催，海外研究助成などを実施しています．前２者については，日本地質学会が主要59学協会の一つとして推薦母体に指定されています．詳細はhttp://www.toray.co.jp/tsf/kagaku/index.html　を参照ください．

今回，日本地質学会員である杉山了三氏（岩手県立盛岡第一高等学校教諭）は昨年に引き続き東レ理科教育賞に独自に応募され，106件の応募の中から見事最高の賞である文部科学大臣賞を受賞されました．この賞は1969年に創設されて今年で第40回目となり，中学校・高等学校レベルでの理科教育における新しい発想と工夫考案の事例に対し，毎年合わせて10件程度選定されていますが，地学では初めての受賞だそうです．杉山了三教諭の受賞業績は，「地域を生かした生徒自作標本による岩石・鉱物学習」というものです．その受賞理由をそのまま引用します．

「氏は，岩石・鉱物は日常なじみの薄いものだが，地域（岩手県）にこだわって必要な岩石・鉱物を採集して教材とすることで，生徒の興味を引き出すことに成功した．また，生徒にミニ造岩鉱物セット，岩石薄片などを各自自作させ，いわば「マイ標本」を喜んで観察して学ぶという学習法を開発した．これまで市販標本を回覧する，少数の偏光顕微鏡を順番に見るなど，生徒が受け身になりがちであった授業を，地道な正攻法によって画期的に改善した．」

とくに先生からお伺いした驚くべき授業は，薄片を75名もの地学選択者（ほとんど文系希望者）に短時間で作成させる工夫を施し，偏光顕微鏡を使わずに，偏光板だけで「マイ標本」の中の鉱物の美しい世界を観察させて生徒たちを熱中させたところにあると思います．また，盛岡といえば郷土の地質学者宮沢賢治がすぐ浮かびます．賢治が地質学を学んだ盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）には，国内各地から賢治自ら集めた岩石標本が保管されています．今回，盛岡一高の生徒たちが宮沢賢治と同様の体験をすることができたことも，すばらしいことだと思います．

写真：杉山了三教諭ご夫妻．東レ各賞贈呈式懇親会にて（3月18日於日本工業倶楽部）．

日本地質学会では，杉山氏の今回の賞を讃えるとともに，広く会員にもその業績を周知いただくよう，地質学雑誌に受賞内容に関する特別寄稿をお願いしている所です．なお，杉山氏は盛岡一高を退職されましたが，この４月から宮古高校に常勤として再任用され，教鞭をとられるそうです．

（高木秀雄）

オンライン用PDFカラー図表の差替サービスを始めます！
―地質学雑誌J-STAGEオンライン公開―

地質学雑誌に掲載する図はカラーにすることも可能です．しかし，そのためにはかなりの費用が必要です（投稿規定参照）．その金額を聞いてカラーの図を掲載することを断念した著者も多いのではないでしょうか？　そこで，冊子体の図は白黒のままで，現在，冊子発行３ヶ月後にオンラインで無料公開されているJ-STAGE＜http://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja/＞上のPDFファイルを著者の希望に応じてカラー版に差替えるサービスを５月号から開始することにしました．料金は，図の点数に関係なく，１論文につき5,000円とたいへんお値打ちになっています．以下に実施方法を掲載しますので，ぜひお試しください．

115巻５月号以降に掲載される論文が対象となります．それ以前に掲載となった論文はサービスの対象にはなりません．

2009年４月
地質学雑誌編集委員会

●J-STAGEカラー掲載実施方法

1）投稿時または受理時に，希望に応じて著者がカラー変換した図の原稿を提出する．
2）原稿受理後，担当編集委員が内容を確認．内容に受理原稿との差異が認められる場合は，著者に修正を要請．著者が修正しなければ，白黒のまま公開する．
3）冊子体の編集作業．
4）冊子体の校了終了後，カラーデータに差替え，J-STAGE掲載のためのデータ処理を行う．
5）学会事務局で公開画面（PDF）をチェックした後，公開．

☆関東支部

お知らせ

総会および日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム・第３回支部研究発表会・第６回技術伝承講習会開催のご案内

関東支部では，**2009年６月６日（土）**に，午前の部　第６回技術伝承講習会，午後の部　日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム・第３回支部研究発表会，および，関東支部総会を開催いたします．

会場はいずれも国立科学博物館　新宿分館　講堂で行ないます．

午前の部　10：00-12：00

第６回　技術伝承講習会―地質技師長に聞く地質工学余話

講師に大島　洋志氏（国際航業㈱）を迎え，長年の現場経験を通して得られた土木地質学真髄を話を伺います．

共催：国立科学博物館

協賛：関東地質調査業協会

参加費：無料，どなたでも参加できます．

申し込み方法

１）ジオ・スクーリングネット（GSネット）
http://www.web-gis.jp/~geo/index.php

２）関東支部担当幹事　緒方信一
（中央開発（株）twogata@ckcnet.co.jp（兼，問合せ先）

３）日本地質学会事務局気付　関東支部　FAX：03-5823-1156

午後の部　13：00-17：00

日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム・第３回支部研究発表会

昨年10月に刊行された地方地質誌の内容と今後の関東地方の地質学的課題を紹介する講演と，一般講演（ポスター発表）からなる第３回支部研究発表会を同時開催します．

共催：国立科学博物館，産業技術総合研究所地質調査総合センター

協賛：国際惑星地球年（IYPE）日本

参加費：無料．どなたでも参加できます．

本シンポジウム・研究発表会は支部賛助企業による賛助金で運営されます．

プログラム

日本地方地質誌「関東地方」の概要
佐藤　正
（日本地方地質誌「関東地方」編集委員長；深田地質研究所）

関東山地の秩父帯―その後の新展開―
久田健一郎（筑波大）

日本海拡大に伴う東北日本弧と西南日本弧の右横ずれテクトニクス
高橋雅紀（産総研）

ポスターセッション

関東地方を軸とするテフロクロノロジーに基づく第四紀の年代枠組み
鈴木毅彦（首都大）・中里裕臣（農研機構）

17：00-17：30　関東支部総会

議題

１）会計年度について規約の一部改正

２）2008年度　活動報告・会計報告

３）2009年度　活動方針・予算報告

関東支部会員の方で総会に欠席される方は委任状をお願いいたします．

総会に出席できない方は，委任先（議長または○○君），会員氏名，住所を記して，提出して下さい．なお委任状の書式は，関東支部HP（http://kanto.geosociety.jp/）をご参照下さい．

委任状送付方法：

○郵送またはFaxの場合は下記にお送りください．

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６F
日本地質学会事務局気付　関東支部事務局
Fax：03-5823-1156

○E-mail送付の場合

アドレスを登録している関東支部会員の方には，総会案内メールを送信いたします．案内メールの指示に従いご返送ください．

2009年関東支部幹事選出のお知らせ

2009年関東支部総会は2009年６月６日（土）に開催されます．

総会に先立ち，日本地質学会関東支部細則第一条にもとづき下記要領で2009年度の支部幹事選出を行います．

立候補期間：2009年５月１日（金）～５月20日（木）

立候補の方法：候補者（支部会員）は氏名，所属，連絡先を下記に届け出てください．

また推薦の場合は上記に加え，推薦者（支部会員）の氏名，所属，連絡先も届け出てください．

受付先：日本地質学会関東支部あて．メール，郵送，FAXにより受け付けます．

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル内
FAX：03-5823-1156
メール：main@geosociety.jp
見出しの最初に「関東支部選挙」と必ず入れてください

関東支部選挙管理委員会
委員長　青野道夫
委　員　手塚裕樹
佐藤尚弘

日本地質学会関東支部細則

支部長および幹事の選出

第１条　幹事の選出は，つぎの方法による．

１）幹事会は任期最終年度の２月末までに，支部会員の中から選挙管理委員３名を選任し，選挙管理委員会を構成する．選挙管理委員会は幹事の選挙に関する事務を行う．

２）選挙人および被選挙人は支部会員とする．

３）選挙管理委員会は，本会ニュース誌により，期日および方法を当該年度の４月末までに明示して，幹事候補の推薦および立候補を求める．候補者の推薦は，推薦者（支部会員）の名を記して支部会員１名を推薦するものとする．

４）幹事候補者が定数を越えた場合，選挙管理委員会は，本会ニュース誌により幹事候補者名簿，投票期日および投票方法を公示して，支部総会において支部総会参加者による無記名投票を求める．

5）選挙管理委員会は得票数順で当選者を決定する．選挙管理委員会は，その結果を総会に報告し，任務を終える．
6）幹事候補者が定数を越えなかった場合は，候補者名簿等の公示および投票を省略して全候補者を新幹事として決定できる．

☆中部支部 お知らせ

2009年年会シンポジウムと個人講演のお知らせ

本誌前号で，ご案内の通り，下記日程で中部支部年会を開催します．

個人講演・地質見学会の参加申し込みを受け付けますので，締め切りまでにお申し込みをお願いします．

1．講演とシンポジウム

日時：2009年6月13日（土）

10：30〜11：30　個人講演（口頭）
11：30〜12：30　支部総会
13：00〜16：30　シンポジウム「フォッサマグナ地域の地殻変動現象と中部地方の最新情報」
16：00〜17：00　個人講演（ポスターコアタイム）

会場：山梨大学教育人間科学部西キャンパス：L-C講義棟

シンポジウム「フォッサマグナ地域の地殻変動現象と中部地方の最新情報」

「糸魚川－静岡構造線の新旧活動に関する最新情報（仮題）」狩野謙一（静岡大・理）
「反射法地震探査と重力探査によってわかった糸魚川－静岡構造線の地下構造」池田安隆（東京大・理），狩野謙一（静岡大・理），岩崎貴哉（東京大・地震研），伊藤谷生（千葉大・理）
「日本列島におけるカツラの遺伝子型とフォッサマグナ地域のテクトニクス」新妻信明（静岡大・理），國分　尚・安藤敏夫（千葉大・園芸）
「ボーリングコアから探る甲府盆地西縁の地質構造と地史」輿水達司・内山　高（山梨環境科学研）
「花崗岩類から見た甲府盆地北西地域の地殻変動」角田謙朗（山梨大・教育人間科学），加々美寛雄（長野県大町市大町），清水正明（富山大・理）
「本州中部における中央構造線の変形とテクトニクス」星　博幸（愛知教育大）

趣旨：フォッサマグナ地域は，本州のほぼ中央部に位置し，日本海盆の拡大やフィリピン海プレートの衝突などに伴う地殻変動の激しい地域にあたっています．このフォッサマグナ地域の形成から現在までの地表地質に現れる様々な地質事例について紹介していただきます．これを基に，本地域の構造発達史，テクトニクス，基盤などについて討論を行います．また，新たに解明された地質年代，東海地震予知，火山噴火現象など最新情報の提案もお願いしました．多くの方々のご参加をお願いします．

2．地質見学会　「八ヶ岳火山とその周辺の地質について」

主な見学地は，獅子岩の飯盛山火山，韮崎岩屑なだれ，国界橋付近の糸魚川－静岡構造線と基盤岩などです．

案内：内山　高・輿水達司・角田謙朗

日程：2009年6月14日（日）

8：30　山梨大学教育人間科学部北門前集合（各自の自家用車に分乗）
16：30頃　甲府駅解散（希望があれば，小淵沢駅で解散も可）

参加費用：1000円（昼食代・資料代含む）
定員：20（定員になり次第締め切ります）

3．懇親会

2009年6月13日（土）18：00〜20：00
会場：山梨大学西キャンパス構内
費用：一般・学生・院生　3000円

4．個人講演・見学会・懇親会等　申し込み要領

申込締切：5月29日（金）

添付ファイルを用いて，メールでお申し込みください．また，個人講演（口頭及びポスター）を申し込まれる方ならびにシンポ講演者は，同時に要旨をメールにて送付願います．注：後日，公表論文作成にあたって，支部年会での講演を引用することはできないことになっていますので，ご了承ください．

個人講演要旨の作成は不要です．

シンポジウム講演要旨は　A4版，4頁までとします．様式は下記書式に沿ってください．字体は明朝で統一します．お送り頂いたメール原稿を打ち出し，そのまま，コピー製版して印刷します．

上下余白：3cm　左右余白：2.5cm，タイトル：14p. 太文字発表者・所属機関：12p. 英文タイトル：12p. 本文は1行開けて始めてください．本文：10.5p. 引用文献：9p. 図表は枠内に収めてください．

参加申し込み・講演要旨メール送付先
（石垣　武久：ishigaki@yamanashi.ac.jp）

日本地質学会中部支部年会（山梨）準備委員会
〒400-8510　甲府市武田4-4-37
山梨大学教育人間科学部地学教室
TEL：055-220-8216（石垣），-8219（角田）
FAX：055-220-8791（学部代表）
準備委員長：角田謙朗
事務局：石垣武久・輿水達司・内山　高・高橋　泰・小泉一人

☆北海道支部 お知らせ

2009年度総会・個人講演会・日本地質学会長講演会

北海道支部では以下のプログラムで総会・講演会を開催します．多数の皆様のご参加をお待ちしております．

日時：**2009年5月30日（土）13：30〜18：30**
場所：北海道大学理学部7号館　7-310教室

A．総会　13：30〜14：20

B．個人講演会　14：30〜16：50

1．VisualBasicプログラミングによる粒子沈降シミュレーション

川村信人
2．石狩平野の上部更新統～完新統層序と古環境の検討
嵯峨山　積・外崎徳二・近藤　務・岡村　聰・佐藤公則
3．赤井川産黒曜石の球かをつくる低温変質鉱物
加藤孝幸・寺崎康史・斉藤晃生・佐々木克久
4．札幌市南部，藤野－簾舞地域の新第三系層序と地すべり
八束　翔・田嶋祐一・岡村　聰・嵯峨山　積・石井正之
5．安平町周辺の最終氷期ローム層の帯磁率について
金川和人・厚真高校自然科学部
6．Stable isotopes and trace elements systematic study in Simeulue Island Porites corals: the uplifted corals due to December 2004 and March 2005 Sumatra earthquakes
Teddy Eka Putra, Tsuyoshi Watanabe, Tomohisa Irino, Sri Yudawati Cahyarini
7．北海道指定史跡「余市西崎山環状列石」を構成する岩石とその由来について
北海道札幌稲北高等学校自然科学部地学班・松田義章
8．台湾のジオパーク最新事情
新井田清信

C．日本地質学会長講演会　17：00～18：30
「オマーンから日高―マントルと海洋地殻を見る―」
日本地質学会長　宮下純夫

＊講演会の後，懇親会を予定しております．人数の把握のため，参加ご希望の方は5月15日（金）までに下記にお申し込みください．

〒060-0819　札幌市北区北19条西12丁目
北海道立地質研究所内
日本地質学会北海道支部事務局（担当：川上まで）
TEL/FAX：011-747-2447/737-9071
E-Mail：kawakami@gsh.pref.hokkaido.jp

「地質の日」記念展示『支笏火山と私たちのくらし』開催のお知らせ

北海道支部では北海道大学総合博物館企画展示として，「地質の日」記念展示『支笏火山と私たちのくらし』を下記の日程で開催します．たくさんの皆様のご来場をお待ちしております．

展示期間：2009年4月28日（火）～5月31日（日）
ただし5月7日，11日，18日，25日は休館となります．
展示場所：北海道大学総合博物館1階「知の統合」コーナー
開館時間：10：00～16：00　入場無料
お問い合わせ　北海道大学総合博物館
TEL/FAX 011-706-2658/4029
〒060-0808　札幌市北区北10条西8丁目
メール：museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

―約4万年前の支笏火山噴火は我が国でも最大級の火山爆発でした．火山噴火は大きな災害をもたらす一方，その恩恵もあります．本展示では，支笏火山と後カルデラ火山の形成史，火砕流堆積物の分布・特徴やその地形，札幌市の建築遺産といえる札幌軟石の建物を紹介します．―
（企画展示ポスターより）

☆西日本支部　お知らせ

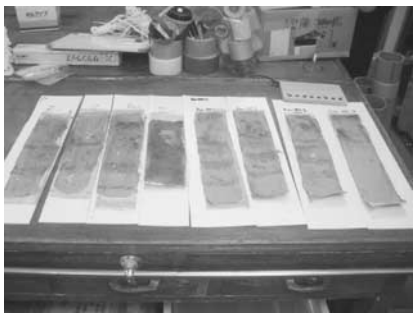
後援「地質の日」企画：身近に知る「くまもとの大地」

日時：2009年5月10日（日）「地質の日」10：00～16：00
場所：熊本市通町筋上通り入り口　びぷれす広場（熊日ビル）
企画：
◎おどろきの展示コーナー
・阿蘇火山の噴火/・熊本の地質・化石/・熊本県の自然災害
◎わくわく体験コーナー
・化石に親しむ・・・化石レプリカづくり，折り紙でつくる恐竜
◎なるほど解るコーナー
・住んでいる家の緯度経度が分かります/・ここが問題ー自然災害への対応，あなたの土地状況に応えます
☆博物館・資料館の情報コーナー
・各館のパンフレット，案内図など/・グッズ販売

主催：「地質の日」くまもと実行委員会（長谷義隆・松田博貴・北園芳人・渡辺一徳・池上直樹・北村直司・池辺伸一郎・後藤英幸）

共催：熊本大学（大学院自然科学研究科地球環境科学講座・社会環境工学講座，教育学部地学教室），天草市立御所浦白亜紀資料館，御船町恐竜博物館，熊本市立熊本博物館，（財）阿蘇火山博物館，熊本県地域振興部文化企画課松橋収蔵庫，熊本県地質調査業協会

後援：日本地質学会西日本支部，NPO法人熊本自然災害研究会，熊本県地質図編纂委員会，熊本地学会，くまもと地学教育研究会，熊本県高等学校教育研究会地学部会，熊本日日新聞社，熊本放送



写真左から，1．マルチプルコアの採取風景．2．グラビティーコアラーの引き揚げ風景．3．遠州灘と熊野灘で採取された試料の剥ぎ取り標本．海底タービダイトの堆積構造が明瞭に観察できた絶好の機会であった．

淡青丸KT-08-30次航海と鹿児島での火山灰採取

伊藤拓馬（信州大学）

平成20年11月13日から17日にかけて，淡青丸KT-08-30次航海（主席研究員は東大の白井正明博士）が行われた．本航海の主な研究目的は，遠州灘と熊野灘を調査域として，沿岸域から深海底までの砕屑物の運搬過程を明らかにすることであった．

本航海は，東京台場港を出港して遠州灘と熊野灘で試料採取を済ませた後，鹿児島港に帰港した．また，私たちは下船後に鹿児島市周辺に分布する火山灰の試料を採取した．ここでは，淡青丸航海と鹿児島における火山灰採取の様子の一部を紹介する．

1．淡青丸航海の様子

陸域で生産された砕屑物が陸棚以深の深海底まで運搬されるには，タービディティーカレントが重要な役割を担う．タービディティーカレントの発生には，嵐や洪水といった気象的なイベントや，地震による海底斜面の崩壊といったものが関係するとされる．このように形成されたタービディティーカレントは，深海底まで流れ下り，最終的にタービダイトとして海底に保存される．本航海では，熊野トラフおよび遠州トラフに流れ込む海底谷において，過去約100年間のタービダイトの堆積履歴を明らかにし，陸棚上から深海底までの砂質粒子の運搬履歴をタービダイトや陸棚堆積物の分析を通して推定すること，また可能ならばタービダイトが深海底環境に及ぼす影響を明らかにすることが目的であった．

11月13日の天候は晴天．絶好の航海日和となり，淡青丸は最初の試料採取地点のある遠州灘へと移動した．翌日14日に採取地点に到着して，朝７時から採泥が始まった．採泥には，船上から海底にパイプを突き刺して採泥する“マルチプルコアラー”と“グラビティーコアラー”と呼ばれる柱状採泥器が用いられた．マルチプルコアラーは，軟らかい海底表層の堆積物を連続的に採泥することができ，一度に最大８本の柱状試料を採泥できるという点で優れているが，採泥できる試料の長さが40cm程度と短い（写真１）．一方，グラビティーコアラーは，マルチプルコアラーでは貫入が難しい砂質堆積物を採取することが可能だが，採取される柱状試料は一度に１本と限られる（写真２このような両者の利点をうまく使い分けて採泥作業が進められた．

遠州灘では，約10cmの厚さを持ち，上方細粒化を示すタービダイトが採取された．順調に採泥作業を進め，淡青丸は次の採取地点がある熊野灘へと移動を始めた．移動中は，ひたすら採取された試料の処理に明け暮れた．柱状試料を半割して，岩相記載，色調や帯磁率といった基礎的なデータを取った後，粒度組成，有機物，元素組成，帯磁率異方性といった分析の目的に応じて試料を取り分けた．

翌日15日には，熊野灘で採泥が行われ，遠州灘と同様に試料の基礎的なデータを取り，試料を取り分けた．このような日程で，遠州灘および熊野灘で水深100m程度の陸棚から水深2000m程度の海底盆までの試料を採取することができた．

今回は，保存用の試料として剥ぎ取り標本を作製した．私自身，剥ぎ取り標本の作製は初めての経験であり，良い勉強になった．親水性樹脂で不織布に貼り付けた剥ぎ取り標本は，タービダイトの堆積構造を観察する絶好の材料となると共に，剥ぎ取った後の柱状試料の半裁面の観察・記載を容易にする．船上では剥ぎ取り標本を採取地点ごとに机上に並べて，乗船研究者皆でタービダイトの形成過程やタービダイト形成の原因となる災害イベントに関する議論を行った（写真３）．

採泥日数は，14日と15日の２日間と限られていたが，天候に恵まれたこともあり，予定されていた地点で多くの採泥が成功した．熊野トラフ西縁斜面では，１度のマルチプルコア採取で得られた試料でも，柱状試料ごとに挟まれるタービダイトの枚数や層位が異なり，斜面における流路分布の複雑さを垣間見た．今後，タービダイト内の粒度組成などの解析を行い，深海底までの堆積粒子の運搬過程の解明に役立てる予定である．

2．鹿児島での火山灰採取

16日の下船後，私たちは鹿児島大学で開催されていた特別展「鹿児島の活火山」を見学した．ここには，多くの岩石標本や火山灰の剥ぎ取り標本が展示されており，鹿児島の火山の歴史や人と火山との関わりを学ぶことができた．この特別展では，翌日の火山灰採取の基礎知識を仕入れることができた．火山灰採取の際は，首都大学東京の大石雅之博士が現地案内をして下さった．

桜島は，北岳・南岳火口を中心とする成層火山であり，山腹に側火山を配する．桜島誕生時から約5000年前までは主に北岳を中心に活動し，その後，南岳の活動が主になった．現在，南岳火口とその側火山の昭和火口が主に噴煙を上げる．鹿児島湾は，約29000年前の巨大噴火により形成された姶良カルデラの名残であり，姶良カルデラ南部に約26000年前に後カルデラ火山として形成されたのが桜島である．約29000年前の巨大噴火は，見かけの体積で500km^{3}以上の火砕流や降下軽石を産み，南九州全域を埋め尽くし，シラス台地を形成したらしい．桜島は，過去に少なくとも17回の噴火を繰り返しており，記録に残る噴火は，764年の天平宝字噴火，1471年の文明噴火，1779年の安永噴火，1914年の大正噴火，1946年の昭和噴火がある．

18日は，午前中は桜島で活火山の様子と1914年の大正噴火の噴出物を見学した．午後は姶良火砕噴火の噴出物を見学し試料採取を行った．最初に立ち寄った袴腰では，大正噴火で流出し

写真左　4．赤生原の露頭で観察できる降下軽石（下位）と溶岩流（上位）との層位関係．写真右　5．鹿児島県指定文化財に指定されている埋没鳥居．自然の猛威を後世に伝えるために保存されている．

た溶岩流が鹿児島湾に流入した場所を見学した．熱い溶岩流が海水に突入し，冷却されてできた黒色でガラス質の表面が認められた．また，冷却節理の発達した枕状溶岩のような形態を示すものもあった．烏島は，大正噴火前までは海に浮かぶ島であったが，噴火時に溶岩流がこの島を埋め立てたという歴史がある場所である．このように海を隔てた島が埋め立てられる噴火は，火山史上でも珍しいことらしく，かつての烏島上に記念碑が建立されていた．また，この噴火は，桜島と大隅半島を陸続きにした．この噴火の噴出物の総量は，約0.8km^{3}と見積もられている．大正噴火の威力を肌で知ることができる場所であった．

赤生原（あこうばい）にある露頭は，大正噴火の降下軽石と溶岩流との層位関係を知る上で重要であり，降下軽石が溶岩流に覆われる様子が観察できた（写真４）．湯之平展望所では，現在は活動していない北岳火口，大正の割れ目噴火の谷地形を望めた．黒神にある鹿児島県指定文化財となっている埋没鳥居も，大正噴火の噴出物によるもので，かつて高さが３ｍもあった鳥居が今はわずかに地表に顔を出すに過ぎない（写真５）．

桜島の見学を終えた午後には，シラス台地を形づくる姶良火砕噴火における一連の噴出物の露頭を観察した．それらは，春山原（はるやまばい）に向かう林道沿いの露頭で観察することができた．下位から大隅降下軽石，妻屋火砕流，亀割坂角礫層，入戸火砕流堆積物という層位関係にある．大隅降下軽石と妻屋火砕流の境界を見ることができた（写真６）．入戸火砕流の下位に濃集する亀割坂角礫層は，入戸火砕流噴出初期に岩盤が吹き飛ばされて形成されたものらしい．入戸火砕流（写真７）のco-ignimbrite ashとして，姶良丹沢テフラ（AT火山灰）が噴出したとされている．この露頭の大きさや，角礫の大きさを見て，巨大な噴火であったことやAT火山灰層が日本全国に広く分布しており鍵層の１つとなったのも納得できる．AT火山灰層は，陸域や海域で重要な年代面を提供する．日本全域に分布するAT火山灰層を生んだ入戸火砕流を観察でき，試料採取ができたことは，海底柱状試料でATを認識し年代面を挿入する上で重要なことである．入戸火砕流の試料採取が成功し，今回の鹿児島で火山灰を採取するという目的は充分に果たされた．

鹿児島での火山灰採取の巡検は，火山噴出物の観察や試料採取のみならず，火山と人々の生活の関わりについても学ぶことができた．桜島は日本でも有数の活火山であり，土石流の発生頻度が日本一と伺った．土石流は山麓に扇状地を作り出す．扇状地は，水はけが良く果樹園や畑に適した土地として住民に利用される．ここで作られる桜島大根や桜島小みかんといった地方名産物は，火山と深く関わっている．先人達は，火山のもつ二面性と上手く付き合ってきた．鹿児島は，火山と上手く共生している町であるといえる．

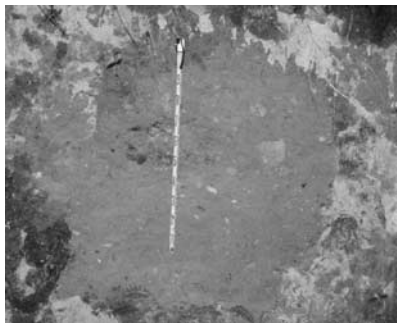
３．乗船研究者

淡青丸には，地質学，地理学や生物学を専門とする研究者が乗船した．乗船研究者（敬称略）は，主席の白井正明（東大），亀尾桂（東大），大村亜希子（東大），川村喜一郎（深田地質研究所），大石雅之（首都大），若林徹（東大），南雲直子（東大），丹羽雄一（東大），嶋永元裕（熊本大），北橋倫（熊本大），吉田和弘（マリンワークジャパン），清野船長を始めとする淡青丸乗組員の皆様，そして筆者の伊藤拓馬（信州大）であった．

白井正明さん，大村亜希子さん，大石雅之さん，川村喜一郎さんには，原稿を読んで頂き，多くのご意見を頂いた．淡青丸では多くのことを学んだ．ここで学んだこと糧として，今後の研究に生かしていきたい．お世話になった方々，本当にありがとうございました．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

miyakawa@earth.kumst.kyoto-u.ac.jp　宮川歩夢（京都大）
horidasu@ms.kagoshima-u.ac.jp　中谷大輔（鹿児島大）
duketogo13@hiroshima-u.ac.jp　東郷徹宏（広島大）
b.honda@ruri.waseda.jp　本田豊也（早稲田大）



写真左　6．大隅降下軽石（下位）と妻屋火砕流（上位）の境界．写真右　7．入戸火砕流堆積物．

追　悼

名誉会員　藤田和夫先生のご逝去を悼む

日本地質学会名誉会員で，大阪市立大学名誉教授の藤田和夫先生が2008年12月１日に永眠された．1919年（大正８年）大阪生まれの享年89歳であった．半年前には元気なお姿を拝見していただけに，悲報は残念であった．

山地や盆地の形成過程に疑問を抱き，現地に出かけては考え，そして御自身の中での理解の高まりを生涯かけて楽しんでおられたように思う．地質学，地形学，地理学といった学問枠にとらわれない先生の一貫した研究姿勢と成果は「日本の山地形成論－地質学と地形学の間」（蒼樹書房，1983年）に凝集されている．同時期に出版された「アジアの変動帯－ヒマラヤと日本海溝の間」（海文堂，1984年）や「アルプス・ヒマラヤからの発想」（朝日新聞社，1992年）も含めて日本の山地形成研究に新たな道がつけられた． 1986年には一連の研究活動によって秩父宮記念学術賞を受賞されている．

山地・山岳への興味は三高時代の白頭山遠征（1940年）に遡るとともに，フィールドでの調査・観察の眼や研究の基本姿勢は京都大学での北部大興安嶺の探検（1942年）やカラコルム・ヒンズークシの探検（1955～1956年)にて培われてきたものであろう．後者に関しては，2007年に京都大学フィールド映像アーカイブ・センター設立準備委員会から写真集とともに冊子「動き続ける大陸－藤田和夫のカラコルム・ヒンズークシ探検－」が出版された．雄大な自然を前にした筆勢からは，いかに多くの情報を読み取るかの意気込みが伝わってくる．私はこの感想を手紙のかたちでお送りしたが，すぐに電話があった．御自身もアーカイブへの収録と再出版による関係者の反応を密かに期待されていたようであった．

神戸市市街地背後の六甲地域が生涯のフィールドであったことはよく知られているし，最後の病室でも六甲の山々を眺められておられたと聞く．芦屋の旧邸宅からは目の前である．六甲山が標高1000m近い花崗岩の山塊であるのに対し，すぐ南の大阪湾岸で花崗岩基盤が海面下1000m以下となっているのはなぜか？といった問いかけはネオテクトニクス解説でのイントロダクションであった．

先生は1943年９月に京都帝国大学理学部を卒業され，兵役後の1945年９月に京都大学理学部副手，1946年１月に同大学助手となられた．大阪市立大学には地学教室の設立後間もない1950年から勤務され，その後，1983年退職までの30年余りにわたってほぼ一環して六甲を中心とした近畿のネオテクトニクスにとりくんでこられた．1950～1960年代の二上山や六甲等のフィールド調査には岩石学の笠間太郎先生と絶妙なコンビでとりくまれ，この間，近畿を中心とした新第三系～第四系の層序・構造資料が蓄積されていった．これらに基づく“近畿トライアングル”は地形とともに地質構造，断層運動，地震活動等にかかわる洞察力によって提案された単元であるが，広く理解を得るには時間を要した．山地形成にかかわる地質構造や断層運動，テクトニクス研究への発展には，槇山次郎先生の他，松下　進，中村新太郎，江原真吾等の先生方の直接的・間接的影響も大きかったように思われる．

こうした研究は1970年代になって社会的にも関心の高まってきた活断層問題に反映される．1976年の地質学論集「断層と地震」は杉村　新，垣見俊弘，松田時彦氏とともに編集されたし，1980年の「日本の活断層－分布図と資料」（東京大学出版会）の刊行にも編集幹事の1人として心血を注がれた．1980年代以降になると，活断層のトレンチ調査が盛んになったが，先生はどちらかというとこうした調査には目もくれず，関心は常に断層運動がつくった山地と盆地であった．1974年にはカリフォルニア～ネバダの断層と地形を見るのに同行し，雄大な地形とテクトニクスをともに満喫したが，海外への興味はその後中国や韓国，ヨーロッパへと続く．1977年には地震学会訪中使節団に加わって中国の地震予知事情を視察されたのをはじめ，1981年には中国国家地震局の招請を受けて寧夏・新彊地区の地震と断層を共同研究されている．

1983年に帝塚山大学に移られ，1990年に同大学を退職された．一方，1987年には断層研究資料センターを設立され，2008年までの間，断層資料の収集と社会への還元に力を注がれた．自分が得た知識は惜しみなく伝えたいという先生の基本姿勢がユニークなこのセンターの設立背景である．会員企業に対する活断層資料の利活用に加え，学生・市民を対象とした公開講演会や現地見学会を頻繁に開催し，研究と実務者との交流の場，あるいは社会教育の場を提供されてきた．そういった中，1995年の兵庫県南部地震では芦屋の旧邸宅が被災し，“六甲変動”を御自身で体験されることになったが，それを契機に盆地側の大阪湾での大規模調査が急速に進展した．

この間，多くの論文，著書の執筆とともに，地質図幅や市史の編纂にもかかわってこられた．盆地と山地の形成を同時に捉えるとともに，地形変化と地球表層の諸プロセスを念頭においた思考は分かりやすいし，なにげない説明でも重要な示唆を多く含んでいた．これが地質学周辺分野の人々を引きつけた要因であろう．

私が2007年６月に断層研究資料センターを訪れた際には，Google Earthで世界の地形を眺めるのが面白くてたまらないとのことであった．そういえは，ランドサット衛星画像が手に入るようになった1970年代，研究室には近畿の衛星画像の拡大写真が1/50万「第四紀地殻変動図　近畿」とともに掲げられていた．世界の大地形を眺め，形成を考えることを生涯かけて十分楽しまれたのではないか．

質的に多様な地形・地質情報が容易に入手できるようになった今日，その一方で学問分野は著しく分化したが，地質学と地形学の間を自由奔放に移動して大地の形成過程に言及していく姿勢は，地表の自然にかかわる地質学周辺の分野にとっても基本であるし，それによってそれぞれの新たな発展につながっていく．藤田和夫先生の貫かれたこうした姿勢の継承を心に誓い，ご冥福をお祈りしたいと思います．

（横田修一郎）

学　会　記　事

2008年度　第10回理事会議事録

2009年２月27日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年２月14日（土）
13：00～18：30
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　石渡　上砂　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島（３時で早退）各理事，橋辺（事務局）
欠席者：岩森　倉本　小嶋

＊成立員数（12/17）に対し，出席者14名，委任状３名，欠席者０名で，理事会は成立．

○報告事項

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）

総務委員会（委員長-上砂）

・地球化学研究協会「三宅賞」「奨励賞」の募集，締切8/31，HP，News誌に掲載．
・東京地学協会主催「IYPE記念＜地球とハーモニー＞講演とコンサートの夕べ」（5/2，カザルスホール）の後援依頼があり承諾．
・地球惑星科学連合への加盟登録申請
・地球惑星科学連合より「環境・災害対応委員会」へ委員推薦の依頼があり，応用地質部会から横山俊治会員，環境地質部会から小荒井衛会員の選出を受け，災害および環境としてそれぞれを推薦した．
・地球惑星科学連合より，学術出版委員会委員の推薦依頼があり理事会より井龍理事を推薦．
・高知大学海洋コア総合研究センターより共同利用施設拠点認定のための要望書提出要請があり，要請の経緯等を確認した．その結果，至急会長名で提出することとした．
・富山大学極東地域研究センター準教授の募集，広島大学地球惑星システム学教授の募集→News誌，geo-flashに掲載

会員関係（担当理事-向山）

１）入会者　３名（正１，準２）
（正）小尾　靖，杉戸信彦，（準）鈴木慎人
２）退会者　なし
３）逝去者　３名（名誉２，正１）加藤磐雄（08/12/27），松本達郎（2/7），（正）鎌田泰彦（1/10）
４）１月末日会員数
賛助33，名誉74，正4,325（うち院246），準28，合計4,460（前年同期比－113）
５）岩手・宮城内陸地震による2009年度会費免除の申請１件あり．
（正）佐々木繁喜（岩手県一関市）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

・連合法人整備委員会（高木委員）
２月13日開催の委員会報告
個人会員登録状況　２月13日現在で3256名
地質学会員の個人登録数は578名（地震学会に次いで２番目）
団体加盟については，地質学会は近日中に登録する予定
５月の連合大会では学協会エリアに学会ブースを出展することとした
新たな学会紹介のパンフレットを作成（広報委員会が主担当）

・連合情報委員会（坂口委員）
１月29日開催の委員会報告
連合の新情報システム（予定）のポイントは以下の通り．
１）会員管理，選挙，大会登録，大会要旨投稿，HP，メルマガサーバーを統合
２）日本語，英語の二言語化の徹底（エラーメッセージを含む）
３）オリジナルプログラムで構築

会計関係（担当理事-向山）

・来年度の予算について
会計委員会を開催して検討
・年会業務委託の経費について
・任意団体と一般法人との間の業務経費について
法人の予算案を作成
月額10万円程度　地質学会が法人設立時に拠出
３月31日までは公益認定のための書類作成などの費用を計上
日常業務は任意団体に委託することとした，任意団体と法人で覚書
社団法人の本年度理事会を３月に開催して今年度予算を承認することとした
社団法人の次年度理事会を４月に開催し，決算承認，来年度予算・事業計画案承認
・事務局員の労働条件などを，雇用担当理事が詰めることとした．

２．学術研究部会（部会長-石渡）

行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）

１）岡山大会準備状況について
・岡山大会の運営企画等を業者委託するにあたり，業者から契約書，仕様書および経費（業者への委託費）の見積り（資料参照）が出た．仕様書及び先に出されている年会全体の運営経費の見積りについては会計の意見も加えて，これまでの年会経費の現状に照らして収支とも，さらに詰めて再検討するよう依頼した．業者への委託経費の合見積りおよび仕様書の改訂版，業務区分表が改めて提出された．講演要旨集や見学旅行案内書に掲載する広告募集を業者が行うことなど新たに盛り込まれた．理事会からの全体予算はおおよそ札幌大会実績額前後に抑える必要があるとの意見を受け，業者から再検討の結果を待って契約締結の方向で手続きを進めることを了承．
・岡山大会においても見学旅行案内書冊子版の作成が希望されていることについて支部としては熊本大が見学旅行案内書の作成を担当予定
岡山大会では冊子版の作成を認めることとするが，見学案内書の今後の方針について，引き続き検討を行うこととした．
・講演申込については今年もJ-STAGEの申込システムを利用する事で，画面準備等を開始した．
・地質情報展支援委員会（開催１月27日）
日時は，９月12－13日．前日の11日に内覧会の予定
会場は，岡山駅西口前のデジタルミュージアム（NHKと全日空ホテルが同じ建物）
初日はジオパーク関係のWS＋教育委員会＋地学オリンピック関連展示
地学教育委員会関係
加古川東高校の過去の研究成果の展示を了承いただいた．同校には何らかの表彰を行うことも今後検討
・大会会場　岡山理科大学
メイン会場はCブロック25号館，設備は充実しており，25号館内でほとんど大会行事の全てができる．会場使用料は135万円

専門部会連絡委員会（担当理事-藤本）

・法人の専門部会規約作成
構造地質部会の規則案をもとに，専門部会長に作成を依頼する．

国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）

・日韓地質学会の学生交流を進めるために，学生巡検などで現地での交流が積極的に行われるよう，韓国地質学会長あてに宮下会長から依頼状を送付．３月に新潟大学の韓国巡検を行うにあたってこれを適用．なお，同巡検はこれまでも２回行われており，現地の先生や大学等のお世話を受け，交流も行っている．

3．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）

地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）

・今月の編集状況は以下の通りです（2月12日現在）．
115-01月号：論説3　口絵1（48p　1月末発送済み）
115-02月号：論説3　短報1　口絵1（50p.校正中）
2009年度投稿論文総数　5編［論説2（和文2），総説1（和文1）短報2（和文2），］
投稿数昨年比　－9　査読中77編　受理済み10編（うち　論説6　短報1　ノート1　口絵3　特集号11）

・編集規約一本化の原案作成の最終調整案の紹介
主な変更点としては，文献やキャプションなどの英文表記，特集号刊行に当たって
非会員の原稿の取扱いなど．
理事会で出された意見としては，インターネット資料の引用を認めるべきではないか，
J-STAGE上の図版のカラー化など．

・特別号原稿査読への抗議文への対応について以下の報告を了承した．
編集委員会では，1月20日に拡大編集委員会を開催し，引き続き受理に向けて必要と判断される要修正部分を検討した結果，当初（平成20年11月21日付）の査読結果を変更するに至らなかった．この結果を編集委員長より著者らに通知した．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）

・編集状況報告

・掲載待ち期間に関する問題について
一般の受理原稿の掲載に時間がかかるため，Early viewの容量拡大をB&Wと交渉

・アイランドアークの事務局関係について
2010年3月末で現在の産総研との共同研究契約が切れるので，その後の方針を継続して検討することとした

・Island Arc Award決定について紹介された．

企画出版委員会（担当理事-藤林）

・国立公園地質リーフレット：「屋久島」はほぼ最終原稿が完成．

・地方地質誌「近畿地方」3月刊行

・高橋正樹会員からリーフレットシリーズへの提案について
高橋企画について審議するとともに，国立公園リーフレットの位置づけ，公益法人の中でアウトリーチ出版物の位置づけなどについても議論した．その結果，高橋企画についてはとりあえずペンディングとすることとした．

4．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）

国際地学オリンピック日本委員会（久田）

地質学会HPにオリンピック関係の情報をアップロードした．

地学オリンピック委員会がNPO法人化された．

5．各委員会等

支部長連絡会議（担当理事-高木）

・支部規約モデル案の再検討
最低限の必要なことを規則としてまとめ，細かいところは細則を設ける案を理事会で検討する．

・支部総会の定数の不統一については，各支部に対しても検討を打診中．

・支部長と支部担当理事の選出法などは検討課題

・今後の支部財政は本部財政と一体化するので，どのような形態にするかを検討

JABEE委員会（委員長-天野）

・日本技術者認定機構の臨時総会が2/12に開催され，橋辺事務局長が代理で出席．
法人化に関する6件の議案はすべて全会一致で可決された．これによって同機構は4月1日に一般社団法人として登記を行い，財産および会員は登記後新法人へ移行する．

ジオパーク支援委員会（担当理事-佃，委員長-天野）

・ジオパークパンフレットを作成（3000部）し，各方面に配布を開始．
なお，個別に大量の注文があった場合には，実費で配布することとした．
パンフレットの内容はHPにも掲載し，ダウンロードできる．

・日本ジオパーク委員会（高木委員）
2月10日，日本ジオパークネットワークの設立が合意され，5月15日に設立される．
2月20日，「日本ジオパーク記念式典」を開催（地質学会後援）．
地質学会からは天野ジオパーク支援委員長に出席を依頼することとした

法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡部）

・神田税務署および千代田都税事務所にそれぞれ法人設立届を提出した．

法務委員会（担当理事・委員長-上砂）

・1月20日18：30より学会事務局において法務委員会を開催した．

1）除名申請に対する法務委員会の結論
除名を申請する2件の申立書を2007年12月26日に受理し，それぞれ2007年（除）第1号事件および2007年（除）第2号事件として取り扱った．両事件とも1年かけて審議した結果，事実認定する十分な証拠が認められないとして却下することにした．申請人，被申請人に対しては会長名で通知書（審議結果）を出す準備中である．

2）地質学会3規則について検討した．

3）国立公園などの地表踏査について，土地立ち入り許可申請などの見本を検討した．厳密に行い過ぎると調査・研究に支障が生じることも考えられ，学会としてはコンプライアンスを十分守りつつ，調査・研究を進めることを啓発する．国立公園の位置・範囲，特別天然記念物に指定されている17件の地質・鉱物などの自然物，世界遺産などについては学会のWebsiteに掲載し注意を促すのが望ましい．他団体や機関が手続き関係について公開しているので，それらを参考にする．

名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事-佃副会長）

・名誉会員候補者推薦は2月13日に締切られ，6名の推薦があった．
これから審査プロセスに入ると報告．4月の評議員会で承認，総会で決定し秋の年会で授与式をおこなう．

6．IYPE日本（佃副会長）

・1st World-YES Congress 2009；第1回若手地球科学者会議（2009/10/25-28，北京）
上記会議への若手研究者，技術者の派遣要請について
地質学会としては，広報を行う．参加費の援助（20万円程度）はできない．

・IYPEの広報パンフレット作成し，IYPE日本事務局で配布中

○審議事項

1．法人化

1）支部規約モデル案の再検討
支部長連絡会議の項を参照．

2）任意団体及び社団法人の今後の会議等について

・3月の理事会と同日に法人理事会を開催する．法人理事への議案説明と委任状を早急に作成，発送することとした．

・4月4日に任意団体評議会開催し，同日に法人理事会を開催

・以上を含めた年度末から4月にかけての学会スケジュールを，理事会としてとりまとめる．さらに，任意団体の学会活動と法人活動の双方を明確に分離して管理する事とし，任意団体の学会活動は常務理事，法人活動のスケジュール管理は副常務が担当することとした．

2．その他

1）連合大会における地質学会加入宣伝の件
地質学会の新しいパンフレット作成については，前回作成パンフレットの内容を参考とし，公益法人化も見越したものと

する．坂口広報担当理事に次回理事会までに検討いただく事とし，最終的に連合大会に印刷が間に合う事を目指す．

2008年度　第11回理事会議事録

2009年３月26日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年３月14日（土）
10：30〜17：00
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　上砂　小嶋　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島（13時で早退）各理事，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，石渡　倉本　岩森　各理事
＊成立員数（12/17）に対し，出席者13名，委任状２名，欠席者２名で，理事会は成立．
＊前回議事録の承認

○報告事項

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
・２月20日の「日本ジオパーク記念式典」開催（地質学会後援）に際し，祝電を送った．
・埼玉大学地圏科学研究センター（渡辺邦夫センター長），信州大学山岳科学総合研究所（公文会員）から，共同利用施設拠点認定のための要望書提出要請があり，提出した．
・学術会議より，「知的財産制度の在り方についてのアンケート調査」があり，回答した．
・東レ科学振興会の「理科教育賞文部科学大臣賞」を杉山了三会員（盛岡一高）が受賞．授賞式に高木副会長が出席．
・H21年度東レ科学振興会「科学技術賞，科学技術研究助成」（10/9締切）推薦募集要項→News，HPに掲載
・産総研とのH21年度共同研究「地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究」の契約書を交わした．
・以下の学協会から後援，共催の依頼があり，承諾した．→News，HPに掲載
原子力総合シンポジウム2009（原子力学会，５月開催）の共催
2009年度地球化学会年会（９月15-17，広島大学）共催
第53回粘土科学討論会（粘土学会，９月10-11日，岩手大学）共催
・筑波大学「科学の芽」賞（２回目）実施報告があった．応募数1248件（団体71件含む）年々増加．平成21年度の共催についても依頼された．受賞：小学生部門11（1），中学生部門９（1），高校生３（1）
・学術著作権協会から，2008年度複写使用料として48,350円が分配される．
・日本学術振興会から，H22年度採用分の特別研究員および特別研究員RPDの募集→News，HPに掲載

会員関係（担当理事-向山）
１）入会者　６名（正２，院１，準３）
（正）佐川拓也，川勝和哉，（院）西塚大（準）斎藤直樹，溝口愛美，大野佳緒里
２）退会者（正６）小池澤耕二，帆足雅通，高橋克之，伊東佑初子，Woldemichael Binyan　李野修士
３）逝去者　なし
４）２月末日会員数
賛助33，名誉73，正4,321（うち院246），準29，合計4,460（前年同期比－117）
５）３月末日退会予定者　賛助３社，正87名，院６名，準１名
６）３月末日除籍予定者　正94名
地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・連合法人整備委員会（高木委員）
本年３月初めの時点での本学会からの個人会員登録数は3459名との報告．
地理関連学会連合（担当理事-藤本）
・３月27日総会の開催
会計関係（担当理事-向山）
・３月３日会計委員会を開催
来年度の予算についての検討内容が報告され承認された．
任意団体と一般法人との間の業務経費等の覚書について承認した．
広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
Webサイトの整備計画について説明があり，承認した．
広報誌ジオルジュの原稿の仕上げ作業をアウトソースする方向で検討する事とした．

２．学術研究部会（部会長-石渡）
科研費などの報告書に公表論文のコピーを添付することは著作権法などに違反するかどうかという問い合わせが会員から事務局にあった．法的に問題がある可能性があるので，法務委員会で検討し，検討結果をニュース誌などで会員に周知することとした．また，同時に，査読中の投稿論文へのコメント等も編集委員会の著作権が保護されている事も紹介する．
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
・岡山大会準備状況について
シンポジウムの内，希ガス年代関連のシンポは，岡山大会全体を日本地球化学会との共催とすることにより，会員外講演枠の制限をクリアするとの説明があり，同学会との共催とすることを承認した．
・アカデミックブレインズとの岡山大会の事前事務局役務および会期中の業務委託について，請書を交わした事が報告された．

国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）
・３月に新潟大学の韓国巡検を行うに際し，韓国地質学会長あてに宮下会長から交流の依頼状送付に対し，韓国地質学会李会長より賛同と協力の返事があった．（MLで回送済み）
・日蒙交流委員会の高橋委員長より，日本とモンゴル地質学会との交流協定覚書調印にからめてモンゴルでのシンポジウムの計画を打診，それに対しモンゴル側から，連携関係には前向きだが，モンゴル（地質学会）の経済状況などからシンポジウム等の開催については各方面と連絡をとりながら検討することとした．
地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-吉田英一）
・２年度に渡って編集出版予定であったリーフレットの第一部は，原稿完成が年度内からずれ込むとの報告があった．

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・今月の編集状況は以下の通り（３月11日現在）．
115-03月号：論説２　ノート１　口絵１（45p.校正中，3/23校了予定）115-04月号：論説３　短報１　口絵１（43p.校正中）
2009年度投稿論文　総数８編［論説３（和文３），総説２（和文２）短報２（和文２），ノート１（和文１）］口絵１（欧文１）
投稿数昨年比　－５　査読中60編　受理済み18編（うち論説２　特集号16）
・編集規約一本化の原案が報告され，検討した．
非会員原稿の扱いと，リジェクトの手続きについて確認した．冊子版でモノクロの図版について，J-STAGEでの公開に際しては，希望があれば実費でカラー図版を掲載できる事とし，経費ならびに具体的な実施方法を検討することとした．
巡検案内書のJ-STAGE掲載PDFは，今後発行されるものはセキュリティーフリー（コピー可能）とした．
・地質学雑誌の補遺となった後の見学旅行案内書の冊子版の定期刊行化に関し，年会の見学旅行担当者に対し編集状況等を調査し，その結果が報告された．別印刷物ではなく雑誌通常号への掲載等を検討するにあたっては，これまでの案内書の編集体制を再検討する事とし，継続審議とした．
・編集会議を5/17（12：30-13：30）に開

催予定（地球惑星合同大会会場）.

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）

・編集状況が報告された
一般投稿数の減少は，受理後掲載までの待ち時間が主要な原因かもしれない．また，出版社の印刷ミスが多く，投稿者からの評価が下がる恐れがある．早急に出版社との編集会議が予定されている．

・IAR編集規約・事務局規約の改正案を検討

企画出版委員会（担当理事-藤林）

・国立公園地質リーフレット「屋久島」は印刷校正を理事会として確認，いくつかの改善意見への対応をいただいた上で刊行を承認した．

・地方地質誌「近畿地方」（朝倉書店）が刊行された．

・地層処分関係のリーフレットの進捗状況，今年度内の刊行は間に合わない，５月の連合大会までには出したいとの意向．編集委員会から，出版経費を来年度に繰り越したいとの要望を承認した．

・リーフレットシリーズ企画出版委員会の設置案を検討した．

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）

・教員免許更新講習は，地球惑星関連学会の中で，昨年12月より前に一般社団法人となっていた地震学会のみが実施できることがわかった．現在，各大学での地学関連講習講座の申請状況を把握中．資料が回覧された．

国際地学オリンピック日本委員会（久田）

・来年３月に次回候補者が選出された段階で，候補者への研修会をつくばで実施する企画が紹介された．オリンピック日本委員会，連合，地質学会産総研・JAMSTEC等の共同事業として，今後具体的な計画を詰める方向で検討する事とした．

５．各委員会等

JABEE委員会（委員長-天野）

・JABEE法人化後の分野のグルーピングや理事選出ルール等の検討のため参画分野および委員派遣分野のアンケート調査があり，これまでどおり「地球資源およびその関連分野」と回答．

・３月19日事務局長会議開催

ジオパーク支援委員会（委員長-天野）

・ジオパークパンフレットをNews誌３月号にとじこみ掲載して会員にも広報する．また，壮瞥町から2000部の要望があり，パンフレットを増刷して実費で頒布することとした．今後，他からも多量の注文があった場合には，同様に応ずる予定．

・日本ジオパーク委員会（高木委員）
次回の日本ジオパーク並びに世界ジオパーク申請の受付が，４月１日～６月19日となる．
本年度の世界ジオパーク申請候補の３ヵ所については，資料修正等の対応中との報告

法務委員会（担当理事・委員長-上砂）

・学術研究部会の報告を受けて，科研費などの報告書作成の際の注意について，News等に掲載する広報原稿案を作成，理事会及び委員会で検討のうえ会員に広報するとの報告があり，承認した．
名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事-佃副会長）

・候補者の選考中，選考基準などについてこれまでの内規等の整理を行う必要がある．

６．地質の日委員会（藤林委員）

・地質の日の新しいポスターができた．

・今年の地質の日の学会本部行事の企画，実施を検討し，一般市民普及講演会を開催する事とした．講師として京都大学の鎌田浩毅会員に打診，会場は科学博物館を候補とする事とし，３月25日までに案出することとした．

○審議事項

１．法人化と事業移行措置についての基本方針

来年度末をめざした事業の移行措置についての基本方針を固め，４月の評議員会に報告する事とした，詳細内容の説明資料を作成し，評議員ならびに会員に周知する事とした．

２．公益法人認定申請についての再確認（特にスケジュール等）

申請内容のうち，公益事業についての詳細を検討し，５月の総会に提案する事とした．これを受けて，本格的に申請作業に移る．

３．リーフレットシリーズ企画出版委員会の設置について

委員会の設置を承認し，４月発足に向けた委員会規則の完成と委員委嘱を急ぐ事とした．

４．IAR編集規約・事務局規約の改正案についての検討

次回までに修正部分について，オンラインで理事会討議を進める事とした．

５．評議員会議題について

決算案・新年度予算案，事業計画等に加え，事業の法人移行と公益法人認定申請に関することなどを審議事項とする．

６．総会議案について＝３月号News誌で広報予定

総会の日程は，５月17日，午後５時45分から７時30分まで，幕張メッセで開催する．

決算，予算．事業計画，名誉会員に，任意団体の解散方針を加えた議案を，評議員会で確認する事とした．

2008年度　第３回 定例評議員会議事録

2009年３月19日
日本地質学会評議員会
議長　保柳康一

日　時：2008年11月30日（日）
12：30―13：55

会　場：学士会館　201会議室（東京都千代田区神田錦町３－28）

出席者：（評議員18名）荒戸裕之　卜部厚志　永広昌之　大友幸子　北里　洋　柴　正博　新妻信明　保柳康一　足立勝治　岡　孝雄　木村　学　公文富士夫　紺谷吉弘　高橋正樹　滝田良基　松原典孝　吉川敏之　渡辺真人

（理事14名）会長　宮下純夫　副会長　高木秀雄　渡部芳夫　石渡　明　井龍康文　岩森　光　上砂正一　倉本真一　坂口有人　斎藤　眞　藤林紀枝　向山　栄　藤本光一郎　矢島道子（事務局）橋辺菊恵

欠席者　評議員（委任状14名）：磯﨑行雄　伊藤谷生　小山内康人　狩野謙一　佐々木和彦　沢田順弘　芝川明義　中川光弘　堀利栄　松岡　篤　三宅康幸　山路　敦　山根　誠　脇田浩二

欠席者　評議員（委任状なし７名）：阿部国広　安藤寿男　磯野　清　川端清司　松本俊幸　丸山茂徳　村山雅史

理事（３名）佃　栄吉　小嶋　智　久田健一郎

＊出席者成立員数（20/39）に対し，出席18名，委任状14名で，評議員会は成立．

12：30　開会（保柳議長）

12：30～12：32　宮下会長挨拶

12：32～12：33　書記選出
（高橋正樹・荒戸裕之）

○報告事項

１．理事会報告（常置および外部委員会，研究委員会含む）

(1) 運営財政部会

１）総務委員会（部会長-上砂）

・富山県人づくり財団，平成21年度「とやま賞」候補者として，石崎泰男会員（富山大学）を推薦することとした．

・ゼオライト学会，国際会議「ZMPC2009（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009）」（2009年８月３日―８月７日，早稲田大学）の共催を承諾．

・琉球大学熱帯生物圏研究センター共同利用研究会「有殻原生生物プランクトン研究はどこに向かうのか」（2008年11月28-29日，松岡　篤会員より要請）の後援を承諾．

・石専門の写真家須田郡司氏より，「世界石巡礼」（2009年４月開始）の後援依頼

があり，検討の結果，後援を承諾．
・大学評価・学位授与機構から専門委員の推薦依頼があり，2名の会員を推薦した．
2）会員委員会（担当理事-向山）
・前回からの入会者数　16名
正会員13名（うち院割8）準会員　3名
・前回からの退会者　3名
正会員3名（院割0）
・逝去者1名（正会員）本田　裕（10/13）
・会員数

	賛助会員	名誉会員	正会員(内 院生割引)	学生会員	合計
2008.10.31	33	76	4331(245)	28	4468
2008. 3.31	33	76	4322(237)	25	4456
前回比	0	0	9(−8)	3	12

・除籍対象者（2005年からの会費滞納者）96名のリストが回覧され．住所不明者について，連絡先がわかる場合は会員委員会に知らせるよう要請があった．
3）会計委員会（佐々木和彦委員長・担当理事-向山）
・来年度予算案
・秋田大会の会計収支は，実行委員会の努力と参加者増により，黒字となった．詳細は次回評議員会で報告する予定とのこと．
4）その他
・自然史連合（斎木健一委員）
加盟学会会員の学術会議会員および連携会員のリスト作成し，共有するため各学会にアンケート中．
・地球惑星科学連合（委員　久田）
地質学会総会の日程を確保：5月17日（日）15〜19時
・連合法人化準備委員会（高木委員）
5）広報委員会（情報特任担当理事-倉本，委員長　坂口理事）
・立候補および専門部会からの推薦からなる新期の広報委員会招集した
・広報誌ジオルジュについては，来年5月総会時期にあわせて第1号を発行予定．
インターネット運営委員会
・ML機能のカスタマイズ作業および学会HPシステムの年間サポートについて検討中．
・学会HPの英語画面作成について，年度内に実施予定．

(2) 学術研究部会
1）行事委員会（委員長　斎藤理事）
・秋田大会報告
参加者総数　790人余（内非会員64名，学生が多い），当初予定より約100名増．
鉱物科学会は約290名で，両学会の総数約1080名であった．
そのほか，普及講演会は130名，地質情報展は1900名を超す入場者で盛況であった．
＜質疑応答＞
事前参加登録の申し込み期限がプログラム発表の翌日では早すぎ，会員にとっては非常に不親切である，との意見が出された．これに対し，斎藤行事委員長から，事前登録は近畿日本ツーリストに依頼してあった．今回の不都合については，行事委員会でも承知しており，改善を図ることになっているとのことであった．
また，事前登録は，講演申し込みと同時に行うのが建前，ただし，講演を申し込まない登録者にとっては，プログラムの内容を見ずに決めるのは，不都合であったはずとの意見もあった．
・2009年岡山大会について
実行委員長：板谷徹丸会員（岡山理科大），事務局：鈴木茂之会員（岡山大）ほか．
会期：9月4日〜6日　メイン会場は岡山理科大学
市民講演会「大地から考える地球環境―地質と生物・農業の深い関係―」会場：山陽新聞サン太ホール，講師　波田善夫（岡山理科大学学長）「地質と生き物と人々の生活―ヨーロッパそして岡山の風景―（仮題）」，武田　弘（東京大学名誉教授）「おいしいワインのできる畑の地球環境（仮題）」
2）国際交流委員会（特任担当理事-石渡）
・日-蒙の国際協定締結および交流について
2009年のモンゴル地質学会記念事業も見越して，協定締結の挨拶を日本側から行う．
(3) 編集出版部会
1）地質学雑誌編集委員会（委員長-久田理事）
・今月の編集状況（11月28日現在）．
114-11月号：論説3　短報1　報告1（11/21校了）
114-12月号：論説3　口絵1（50P　校正中）
・2008年度投稿論文総数115編［論説76（和文70　欧文6），総説19（和文19）短報9（和文6　欧文3），討論2　報告3　ノート5］口絵8（和文5　欧文3）
投稿数昨年比　+41　査読中89編　受理済み9編（うち　論説4　口絵1　特集号4）
・地質学雑誌のインパクトファクター附帯化，相互引用化にむけて，文献欄などの英語化等を具体的に検討中．
・表紙の刷新　115巻1号より（資料参照）
・115巻1号掲載論文より，英語要旨のネイティブチェック開始
・地方地質誌「関東地方」（朝倉書店）が刊行（10/30）された．
2）企画出版委員会（担当理事-藤林）
・地方地質誌「関東地方」（朝倉書店）が刊行（10/30）された．
・屋久島リーフレット（12枚折）の原案ができ，現在関係者で修正中．
・「地学読本」は愛智出版と修正作業中，12月中に作業を終了の予定．
地方地質誌の今後の刊行について質問があり，藤林理事から，年明けには「近畿地方」，次が「中国地方」の予定との答えがあった．
3）アイランドアーク編集委員会（編集長-井龍理事）
・編集状況
(4) その他理事会関係委員会等報告
1）法務委員会（委員長-上砂理事）
・新法人で整備すべき個人情報の保護に関する規定，日本地質学会利益相反規定，除名手続き規定の3規定について，規定（案）を作成し検討中である．
2）ジオパーク支援委員会（委員長-天野，担当理事-佃）
・ジオパーク広報宣伝用パンフレット作成
12月中に作成，地方自治体その他関係者に配布，
ジオパークの現状の報告も兼ねてNews誌，HPにも掲載予定．
・来年度の事業計画予定
①岡山大会での普及セミナー
・GGN候補地，JGN候補地からの講演
・ジオパーク候補地をめざす地域への普及サポート
②地質情報展会場でのGGN候補地JGN登録地のポスター展示
③ジオツアー地域の整備
・巡検コースの整備に向けて支援（地質学会による巡検コースを認定）
④ジオパーク紹介の写真集の出版
【ジオパーク日本委員会（委員-高木副会長）】
・ユネスコに申請する，世界ジオパークネットワーク（GGN）3件（洞爺湖有珠山，糸魚川，島原半島）を決定
・12月8日の第4回委員会で日本ジオパークネットワーク登録地域（申請中2件，GGNに漏れた2件が対象）を決定．2009年2月20日に日本ジオパークネットワークの認証式を実施．

2．評議員会関係委員会等報告
1）各賞選考委員会（委員長-中川）
中川委員長より，各賞の推薦について，多くの候補者の推薦をしていただくよう，呼びかけと要請の文書が寄せられ，保柳議長からも協力が要請された．推薦の締め切りは12月25日．
2）名誉会員推薦委員会（担当理事-佃副会長）
08年度推薦委員会の構成について，佃副会長に代わり渡部常務理事から報告があり，了承された．
支部長：宮坂省吾（北海道），大槻憲四郎（東北），中山俊雄（代理：関東），原山　智（中部），宮田隆夫（近畿），高橋治郎（四国），大木公彦（西日本）

階層別委員：岡村　眞（大学），紺谷吉弘（小中高），植村和彦（公官庁），足立勝治（会社），石渡　明（理事会），委員長：佃副会長

3）男女共同参画委員会（委員長-堀）
堀委員長に代わって，藤林理事から報告された．

・3月29日－30日（1泊2日）金沢―石川県能登半島周辺でワークショップを開催する予定．
・ワークショップで，法人化後の男女共同参画委員会のあり方や活動を詳細に検討する予定．
・男女共同参画事業の1つとして，1）のようなワークショップを開催し，若手研究者,学生の参加も呼びかけて行く予定．また，大会やワークショップなどの開催にあわせて,「Geo Kids応援プログラム」を設けることを検討中．

3．その他

1）国際地学オリンピック日本委員会（委員長-久田）
・NPO法人を申請し，現在縦覧中．来年2月中旬に設立を見込み（JSTの補助金申請の為の条件）．

2）地質の日委員会（委員　藤林理事）
①ロゴについては第一候補が選定され，ポスターについては当選なしという案で，委員会でメール会議中．
②上記については，12月上旬にWEBで発表，応募者については当落を連絡する．
③ポスターについては，12月8日に日本ジオパークに推薦する地域が決まるため，その地域から写真等の素材を出してもらい，事務局で作成し，事業推進委員会に諮って決定する予定．
④表彰式は来年の地質の日に東京近郊の大きなイベントの会場で行ないたい．

3）学術会議関連（木村連携会員）
木村会員から，21期の委員会組織等について口頭で報告，説明あり．

4．理事会審議事項報告

・法人化および関連する事項についての諸事項の検討
・野外調査における環境保全等に向けた今後の方策について
上砂理事から概要の説明があり,「具体的に許可を得るにはどのようにするのか」との質問に対し，今後は，規制地域等の情報などについて，HPやNews誌等に広報してゆく必要性が述べられた．また，国立公園内等でのサンプリングの許可取得は，調査者の責任であり，学会としては，許可を得ずに取得したサンプルを用いて執筆した原稿を，チェックなしで地質学雑誌等に掲載しないようにしたいということである．
・学会の規模と財政構造について
・来年度事業方針案，事業計画案，予算計画概要案
・来年度以降の事務局体制について
渡部常務理事から口頭説明あり，現事務局長の退職後は，外から事務局長を登用せず，職員の中から後継者を育成するための体制作りを整える．現事務局長には来年度から一定期間の招聘を予定．

○審議事項

1．来年度事業方針案，来年度事業計画案，予算計画案
会長から，来年度，任意団体としての事業方針並びに事業計画案の説明があり，引き続き会計担当向山理事より，それに基づく予算案の概要が説明された．これに対し,「一般社団法人への財産（寄付等で集めた基本財産2,000万円等）の引継ぎはどうなるか」との質問があり，当面は，一般社団法人への活動資金として130万円が計上されているが，最終的な目標である公益法人として認められたときには，すべての財産を引き継ぐことになっている（向山）とのことであった．
そのほかに質疑応答はなく，事業方針案，計画案予算案ともに承認された．

2．総会資料における，9月評議員会以降の変更内容の説明と了承
渡部常務理事より，定款等の資料による説明があった．
一般社団法人の会長・副会長は，代議員の中から選出されるのかとの質問があり，肯定された．そのほか，とくに質疑応答はなく，修正点等については承認された．

3．その他
引き続いての臨時総会終了後，一般社団法人としての第一回役員会を開催することが，渡部常務理事から提案され，了承して閉会した．

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第40号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円
第42号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円
第43号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円
第44号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円
第45号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~ **（売り切れました）**
第46号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価1,900円，〒290円
第47号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第48号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価2,100円，〒340円
第49号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第50号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第51号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第52号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第53号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．
第54号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第55号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~
（売り切れました）
第56号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第57号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．
第58号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第59号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）
国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ
1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員価格300円**（20部以上購入の場合割引あり）**
2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議がいっぱい―　2009年3月発行　会員価格300円
（20部以上購入の場合割引あり）

国立公園地質リーフレットシリーズ
1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円**（20部以上購入の場合割引あり）**

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか
第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円
第114年見学旅行案内書（2007年札幌）　会員頒価2,400円，〒500円
※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

取扱い地質図一覧（委託販売）　07/06月現在

表示価格は税込みです．会員には表示価格から消費税分を割り引いて販売いたします（代金後払い）．
ご注文はFAXまたはe-mailで地質学会事務局へお申し込み下さい．
FAX　03-5823-1156，e-mail　main@geosociety.jp

100万分の1日本地質図　第3版　4枚組　￥6, 300
100万分の1日本重力図（ブーゲー異常）　￥3, 885
地球化学アトラス　－北関東－　￥5, 565
200万分の1地質編集図
　コンピュータ編集による日本地質図（付記付き）￥2, 310
　日本の磁気図（説付き）　￥2, 520
300万分の1 日本列島地温勾配図　￥1, 680
数値地質図
　200万分の1東・東南アジアの数値地質図（説付き）　￥2, 625
　20万分の1数値地質図幅集
　　北海道北部　￥1, 050，北海道南部　￥1, 050　東北￥3, 045
　　関東甲信越及び伊豆小笠原諸島　￥2, 835
　日本の新生代火山岩の分布と産状　CD-ROM版　￥1, 260
　東・東南アジア都市域の地球科学データ CD-ROM版　￥1, 155
　日本地質図索引図（第1集～第8集　CD-ROM版1963～1999）　￥945
　北海道地質ガイドマップ　CD-ROM版　￥945
　東・東南アジア都市域の地球科学データ　（第２版）CD-ROM版　￥1, 155
　富士火山地質図CD-ROM版　￥1, 155
　日本重力図CD-ROM版（説付き）　￥945
　400万分の1東アジア磁気異常図 CD-ROM版（第２版）　￥945
　400万分の1韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集 CD-ROM版（第２版）　￥1, 050
　日本周辺海域音波探査データベース　CD-ROM版　￥945
　東北・九州地熱資源図CD-ROM版　￥945
特殊地質図
　東京湾とその周辺の地質　￥6, 195
　秋田地熱資源図　￥5, 040
　諏訪湖湖底堆積状況図（1：1.35万）　￥1, 575
　東海沖海底音響画像図（1：40万）　￥735
　札幌－岩内地域火山・鉱化熱水系分布図　￥3, 780
　札幌地熱資源図　￥4, 620
　青森地熱資源図　￥5, 145
50万分の1鉱物資源図
　北海道（東部, 西部）　￥7, 140, 東北　￥4, 305,
　関東甲信越　￥4, 515, 中部近畿　￥4, 515,
50万分の1地質図幅
　旭　川（第2版）　￥2, 100
50万分の1活構造図
　東京（第2版）　￥3, 255, *京都（第2版）　￥3, 675
2.5万分の1地質構造図
　阿寺断層系ストリップマップ（説付き）￥2, 940
　中央構造線四国地域活断層ストリップマップ（説付き）￥4, 515
　中央構造線近畿地域活断層ストリップマップ　￥2, 415
　柳ヶ瀬－養老断層系ストリップマップ（1：10万）　￥2, 520
　糸魚川－静岡構造線活断層系ストリップマップ（1：10万）￥2, 520
　兵庫県南部地震に伴う地震断層ストリップマップ
　野島・小倉及び灘川地震断層－（1：1万, 説付き）￥3, 570
　花折断層ストリップマップ　￥2, 835
海洋地質図
　鳥取沖海底地質図（1：20万, 説付き）　￥3, 990
　鳥取沖表層堆積図（1：23万, 説付き）　￥3, 255
　室戸沖表層堆積図（1：20万, 説付き）　￥2, 835
　経ヶ崎沖表層堆積図（1：20万, 説付き）　￥3, 045
　下北半島沖海底地質図（1：20万, 説付き）　￥3, 360
　経ヶ崎沖海底地質図（1：20万, 説付き）　￥3, 570
　粟島周辺海底地質図（1：20万, 説付き）　￥5, 460
　佐渡島北方表層堆積図（1：20万, 説付き）　￥3, 675
　佐渡島北方海底地質図（1：20万, 説付き）　￥4, 305
　豊後水道南方海底地質図（1：20万, 説付き）￥5, 040
　豊後水道南方表層堆積図（1：20万, 説付き）￥3, 885
　駿河湾海底地質図（1：20万, 説付き）　￥5, 670
　ゲンタツ瀬海底地質図（1：20万, 説付き）　￥4, 095
　塩屋崎沖海底地質図（1：20万, 説付き）　￥5, 250
　響灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　￥3, 885
　ゲンタツ瀬表層堆積図（1：20万, 説付き）　￥3, 780
　日向灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　￥3, 570
　塩屋埼沖海底地質図（1：20万, 説付き）　￥3, 570
　響灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　￥3, 570
　能登半島西方表層堆積図（1：20万, 説付き）　￥3, 570
海外地球科学図　（英文）
　東・東南アジア熱流量図（1：500万）　￥2, 310
　中国モウス沙漠および周辺地域の水文環境図（1：50万, 説付き）￥7, 035
　韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集　￥1, 365
　東アジア地質災害図　￥3, 675
重力図　（ブーゲー異常）1：20万
　青森地域　￥2, 100, 秋田地域　￥1, 470,
　山形地域　￥1, 400, 北上地域　￥2, 415,
　渡島地域　￥1, 700, 苫小牧地域　￥1, 575,
　札幌地域　￥1, 700, 帯広地域　￥1, 575,
　旭川地域　￥1, 500, 北見地域　￥1, 575,
　根室地域（2枚組）￥2, 520, 天北地域　￥1, 890,
　名寄地域　￥1, 890, 大分地域　￥1, 785
　福岡地域　￥2, 415
空中磁気図
　尖閣諸島海域　￥2, 100
　伊豆大島地域（1：5万）伊東周辺地域（1：2.5万）￥1, 050
　雲仙地域（1：5万）　￥1, 050
　西表島周辺地域（1：10万）　￥1, 050
　由利原地域高分解能空中磁気異常図（1：5万）　￥2, 730
火山地質図
　桜島火山（1：2.5万）￥1, 260, 有珠火山（1：2.5万）　￥1, 155, 岩手火山　￥2, 730
　草津白根火山（1：2.5万）￥1, 575, 阿蘇火山（1：5万）　￥1, 155, 三宅島　￥1, 890
　北海道駒ヶ岳火山（1：5万）￥1, 785, 浅間火山（1：5万）　￥1, 785
　青ヶ島火山および伊豆諸島南方海底火山（1：1万, 1：65万）￥2, 625
　雲仙火山（1：2.5万）　￥1, 155, 那須火山（1：3万）　￥2, 205
　伊豆大島火山（1：2.5万）　￥1, 785, 霧島火山（1：5万）　￥1, 575
日本炭田図
　天草炭田地質図　￥7, 140
日本油田・ガス田図
　新潟県中部地域　￥3, 885
20万分の1地質図幅
　相川及び長岡の一部　￥1, 785, 青森　￥2, 310, 一関　￥3, 465,
　飯田（第2版）￥2, 415, 糸満及び久高島　￥3, 465, 厳原　￥1, 360, 岩内　￥2, 415,
　宇都宮　￥2, 730, 浦河　￥2, 625, 宇和島　￥2, 100, 岡山及び丸亀　￥2, 625,
　開聞岳及び黒島の一部　￥2, 520, 鹿児島　￥2, 520, 金沢　￥2, 730,
　唐津（第2版）　￥2, 205, 岐阜　￥2, 730, 木本　￥1, 365, 熊本　￥2, 835,
　久米島　￥1, 890, 甲府　￥2, 940, 高梁　￥2, 520,
　高田　￥2, 730, 徳島（第2版）　￥2, 100, 日光　￥2, 940, 富山　￥2, 415,
　長野　￥3, 045, 名寄　￥2, 310, 八丈島　￥1, 365, 八戸　￥2, 310,
　福岡　￥2, 520, 福島　￥3, 675, 水戸　￥2, 730, 宮崎　￥2, 625, 村上　￥2, 730,
　夕張岳　￥2, 520, 和歌山　￥2, 625
５万分の１地質図幅　地質図1：5万, 地域地質研究報告
　赤名　￥2, 835, 姉崎　￥3, 570, 秋田　￥1, 890,
　飯山　￥5, 775, 出雲崎　￥3, 360, 市野瀬　￥2, 520, 犬飼　￥3, 570,
　伊平屋島及び伊是名島　￥1, 890, 今市　￥3, 045,
　上野　￥4, 200, 浦郷　￥3, 360,
　恵比島　￥2, 940, 大分　￥3, 990, 大阪西南部　￥2, 520,
　大阪西北部　￥2, 520, 大阪東南部　￥3, 570, 大阪東北部　￥3, 990,
　大須　￥2, 520, 小値賀島及び肥前平島　￥2, 520, 大宮　￥3, 045,
　尾鈴山　￥3, 675, 折尾　￥3, 150, 海田市　￥2, 835, 開聞岳￥3, 885, 柿崎￥3, 465,
　柏崎　￥4, 410, 金山　￥3, 255, 川前及び井出　￥6, 300, 上高地　￥3, 675,
　刈和野　￥2, 520, 岸和田　￥3, 885, 木曽福島　￥4, 200, 北小松　￥4, 095,
　岐阜　￥3, 885, 京都東北部　￥3, 885, 珠州岬，能登飯田及び宝立山　￥4, 620,
　熊川　￥3, 780, 熊田　￥3, 465,
　倉橋島及び柱島　￥3, 045, 黒石　￥3, 570, 桑名　￥3, 360,
　下呂　￥2, 835, 神浦　￥2, 940, 神戸　￥3, 255, 小倉　￥3, 885,
　佐伯　￥3, 150, 佐賀関　￥2, 730, 桜井　￥4, 200, 篠山　￥3, 045,
　三条　￥4, 305, 椎葉村　￥4, 515, 志津川　￥4, 305, 清水　￥2, 835,
　白馬岳　￥3, 730, 末吉　￥3, 255, 須磨（2版）￥2, 520,
　洲本　￥2, 730, 千鹿　￥3, 045, 相馬中村　￥5, 355, 園部　￥3, 045, 高遠　￥4, 410,
　田島　￥3, 675, 龍野　￥3, 570, 立山　￥4, 935, 館山　￥3, 675,
　玉庭　￥4, 515, 竹生島　￥2, 940, 津西部　￥4, 305 敦賀　￥3, 780,
　十勝池田　￥3, 570, 戸隠　￥4, 410, 砥用　￥6, 195, 豊岡　￥2, 520, 十和田　￥3, 780,
　苗場山　￥2, 835, 長岡　￥4, 200, 中野　￥2, 625, 那古　￥1, 890,
　那覇及び沖縄市南部　￥3, 570, 名張　￥3, 360,
　浪江及び磐城富岡　￥3, 465, 奈良　￥3, 885, 西津　￥4, 305, 二本松　￥3, 045,
　乗鞍岳　￥3, 360, 八海山　￥2, 835, 姫島　￥2, 730, 広島　￥1, 575,
　広根　￥3, 675, 福江　￥2, 730, 福知山　￥3, 360, 富津　￥6, 615, 豊後杵築　￥4, 095,
　北条　￥4, 200, 松江　￥3, 465,
　松之山温泉　￥3, 885, 三重町　￥3, 360, 御岳昇仙峡　￥2, 940, 三津　￥2, 625,
　美濃　￥2, 520, 宮下　￥3, 780, 宮原　￥4, 725, 槍ヶ岳
　￥3, 045, 温泉津及び江津　￥4, 410, 湯湾　￥3, 360, 横山　￥3, 885, 四ッ谷
　￥2, 625, 四日市　￥2, 835, 寄居　￥3, 150, 和歌山及び尾崎　￥2, 415

*このほかの地質図, 産総研地質調査総合センター出版物の詳細は以下のホームページhttp://www.aist.go.jp/GSJ/Map/でご覧になれます．

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．
また、申し込み時には、初年度の会費を添えてお申し込みください．
申込書送付先：101－0032　東京都千代田区岩本町2－8－15　井桁ビル６Ｆ　日本地質学会
送金先：郵便振替口座　00140－8－28067　日本地質学会
会費額：正会員12,000円（院生割引＊8,000円、定収のない方に限る）　準会員（旧学生会員）5,000円
＊院生割引を希望される方は、下記の院生割引申請欄に指導教官の署名、捺印をもらってください．

日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan	
＊会員番号	＊会員種別　□正会員（□院生割引）□準会員
氏名（ふりがな）Name in Japanese	ローマ字表記 family name　　first name
_____年Year ____月Mo ____日Day 生born on	Sex：□ 男 Male　□ 女 Female　Country：
学位　Degree: □ 博士Dr. □ 修士 Master □ 技術士 Engineer □ その他 Other	
専門（下欄から3つまで） (Specialities less than 3 items)　1.　　2.　　3.	
学歴 Academic career : _____学校 High school _____年卒業 Year completed _____大学 University_____学部 Faculty_____年卒業（見込み）Year completed 修士 Master :_____ 大学 Univ._____研究科 Fac._____年修了（見込み）Year completed 博士 Doctor :_____ 大学 Univ._____研究科 Fac._____年修了（見込み）Year completed	
自宅住所Home address （郵便番号Zip code　　－　　） 電話Phone :　　ファックスFax : 電子メールE-mail :	
所属機関・住所 Affiliation with address :（郵便番号 Zip code　　－　　） 電話Phone :　　ファックスFax : 電子メールE-mail :	
連絡先 Correspondence :　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office	
紹介者名（正・院生会員）　　印 Recommended by （name of member）_____Signature	
院生割引申請欄：運営細則に基づき会費の院生割引を申請いたします．	
上記本学の学生につき，定収のない院生（研究生）であることを証明いたします． 指導教官（員）　所属：　　氏名：　　印	
＊受付（　　年　　月　　日）＊入金（　　年　　月　　日）振替・現金・銀行・他 ＊承認（　　年　　月　　日）＊送本（　　巻　　号）	

太枠内のみにご記入ください（＊Official use only)
専門分野（番号で）01：層位　02：堆積・堆積岩　03：古生物　04：構造地質　05：火山・火山岩　06：深成岩
07：変成岩　08：鉱床地質（金属・非金属）　09：鉱床　10：鉱物　11：燃料地質　12：地熱　13：第四紀
14：環境地質　15：都市地質　16：土木地質　17：土質工学　18：水文地質　19：探査地質　20：土木工学
21：情報地質　22：地震地質　23：海洋地質　24：地球物理　25：地球化学　26：地質年代学　27：地理
28：地学教育　29：考古学　30：その他　40：地球惑星学

5月10日は 地質の日 こどももおとなもみんなで地学を学びませんか？

日本地質学会 主催　地質の日特別講演会　　日本火山学会 後援

火山はすごい！

日本列島の火山をさぐる

カマタ先生のおもしろい火山のお話やQ&Aコーナーもあるよ。質問いろいろ大歓迎 !!

講師：鎌田浩毅 さん

日本地質学会会員/
京都大学人間・環境学研究科　教授

■ 講師紹介 ■

鎌田先生は、「科学の伝道師」と言われるほど、地球に関するいろいろな科学的事象をテレビや本で楽しく解説され、私たちに科学のおもしろさを伝えてくださいます。今回は、先生のご専門の火山の話について、わかりやすくお話しいただきます。

【テレビ出演】NHK総合テレビ「ソクラテスの人事」/「課外授業 ようこそ先輩」/「爆笑問題のニッポンの教養」/日本テレビ「世界一受けたい授業」/テレビ 朝日「ジキル&ハイド」ほか多数
【著書】『地学のツボ』ちくまプリマー新書/『火山はすごい』 PHP新書/『火山の大研究』PHP研究所/『マグマの地球科学』中公新書/『火山噴火』岩波新書 ほか多数
【ホームページ】 http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~kamata/

参加無料・申込不要

2009年5月10日（日曜・地質の日）

時間：15:00〜16:45
会場：科学技術館（東京都千代田区北の丸公園2-1）
定員：90名

【東京メトロ東西線】「竹橋」1b出口　徒歩７分.「九段下」2番出口　徒歩７分/【東京メトロ半蔵門線】「九段下」2番出口　徒歩７分/【都営地下鉄新宿線】「九段下」2番出口　徒歩７分

問い合わせ先：日本地質学会
〒101-0032　千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
電話：03-5823-1150 FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp　　ホームページ：http://www.geosociety.jp/

2009年は国際惑星地球年(IYPE)です。「社会のための地球科学」をテーマにさまざまな活動に取り組んでいます。

planetearth Earth Sciences for Society 2007–2009

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp